

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
1			市の広報で、江戸川台の附属幼稚園の廃園案が出ているとのこと。流山市は子育てを応援する方針なのではないですか。廃園には強く反対します。江戸川台地区も高齢化が進み、子供の数も減少しているかもしれません。しかしながら、建て替えにより若い世代も移ってきています。市立の幼稚園も江戸川台だけになっています。廃園案の撤回をしてください。	流山市は子育てを応援する方針なのだから、子どもの数が減っているからといって廃園には反対	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。近年は、幼児教育の無償化や、保育ニーズの高まりなどにより、入園児が年々減少し、附属幼稚園における定員60人に対する、令和5年5月1日現在の園児の在籍数が、5歳児13人、4歳児9人の合計22人、定員充足率は36.7パーセントとなっている一方で、特別な配慮が必要な子どもの割合は増加しており、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
2-1		廃園方針(背景)	幼児無償化が始まり園児在籍数の減少。とありますが、園児確保の努力はしたのでしょうか？3歳児保育が主流となる社会の中で4歳児からの保育を望む親は少ないと思います。3歳児ともなるとお友達との関係を欲します。集団を意識する年齢です。幼稚園教育要領にもあるように3歳から教育的な環境を必要とします。江戸川台幼稚園においても3歳児保育を望みます。	園児在籍数の減少とあるが、3歳児保育を行うなど、園児確保の努力はしたのか。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実施してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
2-2		流山市の幼児教育	流山にある9つの私立幼稚園はどの幼稚園も「建学の精神」によって運営を行っています。幼稚園は幼稚園教育要領の解釈を各々に考え、多岐多様にわたって環境ができています。その私立幼稚園が流山の幼児教育の核になるとは思えません。(建学の精神が各々で違います。)公立で幼児教育を先導する環境は必要だと思います。保育園もわかりです。保育園は幼稚園教育要領の解釈さえままたまらなところがあります。流山市の幼児教育を先導、研究する機関として江戸川台幼稚園は必要と思います。	私立幼稚園に、流山の幼児教育の核となることできるとは思えない。流山の幼児教育を先導する機関として、幼稚園が必要。	私立幼稚園には建学の精神があり、各園においては様々な特色ある幼児教育の取り組みが行われています。しかしながら、幼児教育の根幹である、遊びと生活を通して人とつながること、遊びと生活を通して主体的に直接的な体験から学ぶことを保障していくということについては、国の方針でもあり、公立であっても私立であっても変わりありません。また、流山市立幼稚園協議会においては、私立幼稚園代表の委員より、「廃園後の流山市の幼児教育は私立幼稚園に委ねてもらいたい」との発言もありました。千葉県教育委員会が、「接続期のカリキュラム千葉県モデル」の実践を、本市の附属幼稚園のほか、県内の私立幼稚園や私立保育園においても実践しているように、市としましては、幼児教育支援センターにおける研究成果の実践や職員研修等は、私立幼稚園や保育園(所)において実践することも十分に可能であると考えております。市内には、様々な規模の私立幼稚園や保育園(所)があり、その規模に応じたカリキュラムの実践も可能となるメリットがあることから、各私立幼稚園、各保育園(所)に対しては、その実践協力について、丁寧な説明を行ってまいります。	無	
2-3		学校教育法	以前、幼稚園は教育機関としての位置づけは、小学校から始まり一番最後に幼稚園がありました。しかし、法の改定で教育機関の最初は幼稚園である。と国が言っています。流山市としての幼児教育をないがしろにしては流山市の子どもに申し訳が立ちません。流山市の子ども達をしっかりと育てるには、公立の幼稚園が先頭に立って「流山っ子」を作っていく必要があると思います。	学校教育法で、教育機関の最初は幼稚園であると言っている。流山の子どもたちをしっかりと育てるには、公立の幼稚園が先頭に立つ必要がある。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続や子ども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
2-4		江戸川台の教育環境	現在の江戸川台には、小学校、保育園、幼稚園と全国にもまれな環境があります。現在、国で推奨している「認定こども園」の在り方をこの地域でモデルが作れることは他の地方自治体にはない環境と思います。(それも全部公立です。)流山市として人任せにするのではなく幼児教育に責任を持って先導していく覚悟で幼稚園を残していただくよう要望します。	他の自治体にはない公立の小学校、保育園、幼稚園がある江戸川台で、「認定こども園」のモデルを作れないか。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続や子ども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
3-1	-	廃園方針の決定に関する資料	長年子供達の成長を見守って来た江戸川台幼稚園は、地元の私達にとっても廃園になるのは残念ですが、大勢の幼児が通っていた時と違い、現在の利用者は22名とのこと。これから少子化によりますます減ることが考えられ、私立幼稚園でも定員割れもある。時代の流れで江戸川台幼稚園の廃園は仕方ないと思う。	利用者は少子化によりますます減ると考えられ、私立でも定員割れしているので廃園は仕方ない。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
3-2		跡地利用について	跡地の利用については、市民の為に有効利用されることを望みます。	跡地は、市民のために有効利用すべき。	附属幼稚園が廃園となった場合には、今後、幼児教育支援センターとして活用する予定です。今後、幼児教育支援センターでは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施していきます。また、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。	無	
4-1		廃園方針	廃園に反対。	廃園に反対	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。近年は、幼児教育の無償化や、保育ニーズの高まりなどにより、入園児が年々減少し、附属幼稚園における定員60人に対する、令和5年5月1日現在の園児の在籍数が、5歳児13人、4歳児9人の合計22人、定員充足率は36.7パーセントとなっている一方で、特別な配慮が必要な子どもの割合は増加しており、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
4-2		在籍数減少	児童が減少する理由の分析が不十分。	園児減少理由の分析が不十分	園児減少の理由について、市としましては、令和元年10月から実施された幼児教育の無償化の影響が非常に大きく、以降、近年の多様化する保護者需要の変化と相まって、園児在籍数の減少が続いていると考えています。	無	
4-3		支援児割合増	人口増の中で要支援児は増加して当然です。受け皿としての公的幼稚園の存在意義を示していると評価されます。	人口が増えれば要支援児も増えて当然。受け皿としての公立幼稚園の存在意義を示すべき	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
5			廃園に反対。困った人、育児ができない人も多いです。公的なところで見守りをする人が必要です。	困った人や育児ができない人の見守りは、公的な幼稚園がすべき	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
6		流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針について	幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園に反対です。流山に公立の幼稚園があることは大切な幼児期の教育にとっても意義があります。私立は経営的にも人集め優先です。目を引くイベントや成果重視になりがちで保育者の負担もそちらに時間をとられます。公立幼稚園は国の理想とする幼児教育の実践を目指し、保育者が個々の子どもに即したきめ細かな対応を学び実践する場でもあります。先日、江戸川台小学校で地区社協主催の多世代の集う「ふれあいコンサート」が開催され、コロナ禍で会えなかった幼稚園の元気な子供たちの発表がありました。のびのびと精いっぱい元気な笑顔に、集まった200名以上の観客、特に高齢者は大喜びでした。隣のこの地に幼稚園のある事の有難さを再認識し、多世代交流の大切さを思いました。公立幼稚園の存在意義をもう一度再認識していただき、子どもの定員割れ、運営費の赤字を理由に簡単に廃園を決めず、さらに活気ある園の運営方法を模索していただきたいと心から願います。	私立は経営的に人集め優先なので、公立幼稚園の存在意義を再確認し、定員割れや運営費の赤字を理由に簡単に廃園を決めないでほしい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
7-1		園児在籍数の減少や特別な支援が必要な子どもの割合の増加等 人件費を含む運営費は年々増加し	廃園には反対です。答申では存続と廃園の両方が示されていて、廃園を結論としていません。また、答申から教育委員会議での決定までも短く、最初から廃園ありきとする話し合いになっています。	答申では廃園を結論としておらず、教育委員会議での決定も廃園ありきとなっている。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
7-2			流山市はインクルーシブ教育にも力を入れているのに、特別な支援を必要とする子どもたちのことも考えているのでしょうか。	特別な支援が必要な子どもたちのことを考えているのか。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
7-3			流山市は保育園も充実しています。保育園と幼稚園の良さを生かした「こども園」があってもよいと考えます。(公立の)江戸川台は、幼稚園、保育園、小学校が隣接するすばらしい環境です。この環境の良さも残していただきたいです。	公立のこども園があってもよい。幼稚園、保育園、小学校が隣接するこの環境を残してほしい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
7-4			総合教育会議を開催して今一度、議論することをお願いします。		パブリックコメント手続の結果、当初の廃園方針(案)からの修正は無いことから、教育委員会と市長の方向性は一致しており、改めて協議・調整する必要は無いと考えています。	無	
8-1		廃園の方針	私は附属幼稚園の廃園に反対です。 (理由) ①方針の発表が性急すぎ、住民の周知を得られていない。	廃園に反対。方針発表が性急、住民への周知不足	今後も保護者の皆さまに対し、丁寧に説明してまいります。	無	
8-2			②幼稚園協議会では、存続・廃園・認定こども園化の三案が答申されているにも関わらず、教育委員会議では提案理由として、「当該答申を踏まえ、当該幼稚園を廃園とする」と一方的に廃園の方針を出していること。	教育委員会議での提案理由が一方的	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
8-3			③方針では経済的合理性のみが強調され、公立の附属幼稚園が果たしてきた実績(特に私立幼稚園と異なる特色等)が何も説明されていない。ただ「コストがかかるから廃園」では、とても納得できない。程度問題はあれ、教育にコストがかかることは当然ではないのか。	方針に附属幼稚園の実績や特色等の説明がない	本パブリックコメントにおける廃園方針に関する資料は、廃園方針決定までに特に重視した附属幼稚園の運営費と園児在籍数の減少に関する情報を参考として掲載したものです。附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。	無	
8-4			④附属幼稚園を廃園した場合「手のかかる子ども」はどうなるのか。	廃園後、手のかかる子どもはどうなるのか。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
8-5			私立幼稚園を受け皿とし、金銭的な補助を行っていくということになれば、やはり「コストはかかる」のではないのか。	私立園への金銭的な補助では、やはりコストはかかる	特別な支援が必要な子どもを受け入れる私立幼稚園に対する職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助については、既にある補助との整合を図り、適切な制度を構築してまいります。	無	
9			私は幼稚園の閉園と聞いて、とても悲しいです。外国人にとって、ふさわしい幼稚園を見つけることはいつも難しいです。外国人にもかかわらず、私の息子は異国だと感じたことはありません。しかし、他の園では、差別や偏見を感じている子どももいると聞きました。だから、この園の運営を続けてほしいです。先生たちはとても訓練されていて、私の子どもを良い人として育ててくれます。そのおかげで、私の息子は、日本のシステムに適合できており、日本語も話せるようになりました。どうか、この園を閉めないでください。	外国人にとってふさわしい幼稚園を見つけることはむずかしい。幼稚園の運営を続けてほしい。	外国籍など、特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
10			この幼稚園は、良い場所にあります。先生方は、子どもたちを精神的にも社会的にも育てることにとても熱心です。私はこの園が好きです。なぜなら少人数制で、とても安いから、それは、低所得者には助かるから。この幼児教育支援センターが、私の息子を実年齢よりも責任感ある人に育ててくれました。私はこの幼稚園が、将来も運営し続けてくれることを願います。	少人数制でとても安く、低所得者には助かるから幼稚園の運営を続けてほしい。	令和元年10月より、公立幼稚園であっても私立幼稚園であっても、保育料は無償となっています。附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
11-1			以下の理由で廃園方針に反対します。 ・流山市の方針である「インクルーシブ教育」を実施し、遠方からも通園する子どもがいる。		附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。 近年は、幼児教育の無償化や、保育ニーズの高まりなどにより、入園児が年々減少し、附属幼稚園における定員60人に対する、令和5年5月1日現在の園児の在籍数が、5歳児13人、4歳児9人の合計22人、定員充足率は36.7パーセントとなっている一方で、特別な配慮が必要な子どもの割合は増加しており、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。 このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
11-2			・唯一の公立幼稚園の役割は大きい。		附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。 附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。 また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
11-3			・地域に密着し、住民と一緒に子育てしている。		附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続します。今後も、地域の皆さまの協力を得ながら、本市全体の幼児教育の発展と質の向上に努めてまいります。	無	
11-4			・子どもの教育にお金をかけないのは「母になるなら流山」のスローガンに反している。		附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。 附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
11-5			・幼稚園協議会の答申を正確に反映していない。	協議会の答申を正確に反映していない。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
12-1		答申第2章主な意見①	幼児教育支援センターとかかげている施設が、事務所だけになってしまうのは、「とりえずある」というように見える。 現在、特別な支援の必要な園児の割合が増え、需要があるのであれば、私に任せるのではなく、公立幼稚園での受入れに力を注ぐという方向も考えられる。「誰もとりこぼさない教育」を流山が行っているという、大きな利点になる。多様性を求める時代の中、幼稚園もいろいろな役割の幼稚園があってもいいのではないか。	園がなくなると、幼児教育支援センターが事務所としてとりえずあるだけになる。特別な支援が必要な園児の受入れに力を注ぐ役割の幼稚園があってもいいのではないか	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。 また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
12-2		②	賛成。 公立幼稚園、公立保育園、小学校、放課後学童クラブが隣接、また駅にも近い。環境に恵まれていくことを生かしていく。 流山が教育に力を入れていることが、アピールできる良い事例になる。このような環境は、一度失くしてしまうと、また元に戻すことは困難である。 現在も、幼稚園はこどもマルシェなど、幼稚園・卒園生保護者、卒園生、保護者、こども食堂などのこども関係の団体や商店街の店などともに、地域の親子向けの企画をしている。 おおたかの森地域ばかり、市は力を入れていて、すでにある流山の魅力を忘れていているように感じる。	答申の意見に賛成。公の教育施設等を生かすことで、流山が教育に力を入れていることがアピールできる。おおたかの森地域ばかり力を入れている。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。 附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。 また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
12-3		④	賛成。 保育園の需要が増えていることから、公立の幼稚園がこども園になるということは、他地域にもあるため、考えていいのではないかと。 3年保育の検討もしていいのではないかと。	答申の意見に賛成。他地域でも公立幼稚園がこども園になることはある。3年保育の検討も良い。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。また、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。 附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
12-4			他の市内の保育園は老朽化している中で、新しく建て替えた幼稚園の施設を、幼稚園や保育園として活用しないというのはもったいない。限りある資源を無駄にしている	まだ新しい幼稚園の施設を活用しないのはもったいない。	附属幼稚園が廃園となった場合には、今後、幼児教育支援センターとして活用する予定です。	無	
12-5		⑥	幼児教育の無償化によって、公立と私立の保育料の差がなくなっているというが、私立は制服、バス代、教材費などの費用がかかる。 公立の幼稚園は、保護者に負担がない費用の中で、工夫して、何でもそろっている中で学びではなく、園児も今あるもので、想像して、考えて、楽しく学んでいる。生きる上で大切なことが学べる。	幼児教育が無償化されても、私立は制服、バス代、教材費などの費用がかかる。	附属幼稚園においても、制服や教材費などの負担は生じます。教材教具等につきましては、子ども達の育ちのために必要な力を育むため、私立幼稚園においても様々な工夫をしております。	無	
12-6		流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針決定に関する資料 2. 附属幼稚園を取り巻く環境に変化	プレ保育や在園児対象の預り保育など、園児を増やす取り組み以外の、他の私立幼稚園にない魅力が発信されていない。 ① 凸規模幼稚園、保護者の幼稚園への送迎ということから、普段から園の様子がわかり、園児、先生、保護者にも直接会っていることで、自然に距離が近くなり、いい関係になる。 ② 顔を知っていることで、園児、先生、保護者がどんな人がわかり、誤解やトラブルがさげられる。 ③ 保護者同士、先生と距離が近くなるため、子育ての悩みなど気軽にできる。 ④ 園児を中心に、全園児のためにいい幼稚園をつくらうという気持ちが自然に芽生える。 ⑤ 園児のみではなく、保護者も幼稚園生活を楽しめる。 ⑥ 卒園後も園児、保護者が仲良く、横だけでなく縦の関係もよい。同じ幼稚園の出身ということで、在園期間がかぶっていないなくても、親しみを感じて話す。幼稚園のために、何かをしたいという気持ちが自然にできる。 ⑦ 卒園生の保護者が小学校、中学校で他の幼稚園出身者の保護者を仲よくなり、一緒に子どものための活動をするようになる。卒園生の保護者を中心に、いい関係が広がっている。 このような幼稚園の魅力や、ハード面だけではなく、ソフト面も地域に伝えるべきではないかと。アピールする企画、機会を支援センターを中心に行ってほしい。	他の私立幼稚園にない魅力が発信されていない。アピールする企画、機会を支援センターを中心に行ってほしい。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。	無	
12-7		その他	廃園後の計画が、はっきりしていない。その後どうなるかわからない状態のまま、廃園を考えるとすることに納得できない。 小学校、中学校の卒業時や、10歳の1/2成人式などの機会に集まるなど、幼稚園は卒園生にとって、とても大切な場所である。卒園生の帰る場所を奪わないでほしい。	廃園後の計画がないまま、廃園を考えると納得できない。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。 また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
13		園児一人当たりの運営費予算	約248万円は大変な額であるし、廃園は仕方のない決断だと思います。	費用面から、廃園はやむを得ない。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
14		特別な支援が必要な子どもの増加	特別な支援が必要な子の増加により、人件費や環境の整備にかかる費用も増加します。その為、廃園もしかたないかと思われます。	費用面から、廃園はやむを得ない。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
15		幼児教育支援センターについて	幼児教育支援センターについては、附属幼稚園が廃園となっても、同園の幼児教育に関する知識や経験を受け継ぐことに賛成いたします。	附属幼稚園が廃園となっても、幼児教育支援センターは同園の知識や経験を受け継ぐべき。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
16		全て	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃止について反対します。また同時に、こうした廃園方針を提案した市当局及び井崎流山市長に強く抗議するものです。江戸川台幼稚園は、地域の幼児教育の拠点として多くの方々に利用されまた愛されてきた施設です。現在江戸川台地区は人口の減少と高齢化が進んでおり、働く若い世代の方々の住みやすいまた魅力あるまちづくりが喫緊の課題となっています。公立幼稚園は若い世代を引き付ける重要な施設であり、これを廃止すれば江戸川台地区の再生に大きな打撃となることが予想されます。幼稚園廃止を多くの人が知れば、子育てするなら流山、という方針はまやかしかであることが明らかになるでしょう。市長の説明を求めます。	附属幼稚園の廃止に反対。公立幼稚園は若い世代を江戸川台地区に引き付ける重要な施設。これを廃止すれば、江戸川台地区の再生に大きな打撃となる。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続し、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施していきます。有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
17-1		研究成果の実践と本市全体への還元	研究成果の実践は附属幼稚園でしかできないのですか？保護者同士の話の中で、様々な幼稚園や保育園に通わせた話を聞きますが、どの園でも工夫をして、保育をしてくれているのだと感じます。附属幼稚園だけでなく、私立幼稚園や保育園でも実践してほしい。	研究成果の実践は、私立幼稚園や保育園でも実施できるのではないかと。	令和5年度第4回流山市立幼稚園協議会においては、私立幼稚園代表の委員より、「廃園後の流山市の幼児教育は私立幼稚園に委ねてもらいたい」との発言もありました。千葉県教育委員会が、「接続期のカリキュラム千葉県モデル」の実践を、本市の附属幼稚園のほか、県内の私立幼稚園や私立保育園においても実践しているように、市としましては、幼児教育支援センターにおける研究成果の実践や職員研修等は、私立幼稚園や保育園(所)において実践することも十分に可能であると考えております。市内には、様々な規模の私立幼稚園や保育園(所)があり、その規模に応じたカリキュラムの実践も可能となるメリットがあることから、各私立幼稚園、各保育園(所)に対しては、その実践協力について、丁寧な説明を行ってまいります。	無	
17-2		廃園方針の決定はやむを得ないもの	子育て世代のいちばんのニーズは、ある程度長い時間預かってもらえることと思うので、2年保育で、預かる時間の短い園の廃園はやむを得ないと思います。	2年保育で預かる時間の短い園の廃園はやむを得ない。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
17-3		市全体の幼児教育の質の向上	附属幼稚園など、ある一部への支援ではなく、全体的な支援をお願いします。	附属幼稚園だけでなく、全体的な支援をすべき。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
18-1		全般	廃園に反対します。方針では財政負担の増大を理由にしているのみで、流山市唯一の幼児教育研究機関として果たしてきた役割を評価していない。	廃園に反対。方針では、附属幼稚園の果たしてきた役割を評価していない。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。	無	
18-2			また、幼稚園協議会の答申第1章第1項では、附属幼稚園を存続させることを前提にした取り組みについても言及しているにもかかわらず、市の方針は廃園を前提としている。	協議会の答申で存続の取り組みにも言及しているにもかかわらず市の方針は廃園を前提としている。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
18-3		廃園方針2項前文	廃園しても幼児教育支援センターは存続するとしているが、流山市唯一の実践する現場(附属幼稚園)を無くして机上だけで質の向上を図るとは思えない。	唯一実践の場である附属幼稚園を無くせば、支援センターが存続しても、質の向上は図れない。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
18-4		答申1項一人当たりの運営費	運営費は、人件費他の経費全てが含まれていると推測される。附属幼稚園では、2・3歳児のプレ保育や預かり保育をしているがこれらの経費を考慮せず、園児数のみでの単価算出している。園児一人当たりとして評価するのは正当性に疑問がある。また、人件費の増加、資機材の値上げも考慮すべきと考える。	運営費にはプレ保育や預かり保育の経費が考慮されていない。人件費の増加、資機材の値上げも考慮すべき。	現状のプレ保育や預り保育は、通常の保育の運営費の範囲内で実施しています。今後も、人件費や物価の上昇は想定できますが、そうであるからこそ、園児数の減少が続く附属幼稚園を存続させることは難しいと考えます。	無	
18-5		答申1項園児減少	過去5年間で園児は54%減少しているとしているが、幼児教育支援センター附属幼稚園である先端養育機関である優位性をPRすることや、3年保育にするなどの減少対策があるのではないかと。	園児の減少対策はあるのではないかと。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
19-1		研究成果の実践と全体への還元	我が子を通わせていた保育園には、本当にお世話になりました。工夫した保育の実践により、安心して毎日通わせることができました。研究成果の実践については、附属幼稚園だけでなく、市内の様々な私立幼稚園や保育園で実践していただきたいです。	研究成果の実践は、私立幼稚園や保育園でも実施できるのではないかと。	私立幼稚園には建学の精神があり、各園においては様々な特色ある幼児教育の取り組みが行われています。しかしながら、幼児教育の根幹である、遊びと生活を通して人とつながること、遊びと生活を通して主体的に直接的な体験から学ぶことを保障していくということについては、国の方針でもあり、公立であっても私立であっても変わりありません。また、流山市立幼稚園協議会においては、私立幼稚園代表の委員より、「廃園後の流山市の幼児教育は私立幼稚園に委ねてもらいたい」との発言もありました。千葉県教育委員会が、「接続期のカリキュラム千葉県モデル」の実践を、本市の附属幼稚園のほか、県内の私立幼稚園や私立保育園においても実践しているように、市としましては、幼児教育支援センターにおける研究成果の実践や職員研修等は、私立幼稚園や保育園(所)において実践することも十分に可能であると考えております。市内には、様々な規模の私立幼稚園や保育園(所)があり、その規模に応じたカリキュラムの実践も可能となるメリットがあることから、各私立幼稚園、各保育園(所)に対しては、その実践協力について、丁寧な説明を行ってまいります。	無	
19-2		廃園方針の決定	働きながら子育てを行う方が増えている昨今、2年保育へのニーズが低いと感じます。また、園児が減少しているにも関わらず運営費が年々増加しているとのことですので、園の存続は難しいと考えます。	2年保育のニーズは低く、園の存続は難しい。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
19-3		幼児教育支援センターについて	幅広い研究成果の実践を実現し、市内全体の幼児教育の質の向上を求めます。	幼児教育支援センターは、市内全体の幼児教育の質の向上に努めるべき。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
20-1			廃園方針に疑問があります。在籍数の減少や特別に支援が必要な子供の増加を挙げて存続困難だとしています。これまで、どのような施策をもって園児を募集してきたのか、その過程が明確に示されていません。金がかかりすぎや減少傾向のみをもって判断するのはまだ説明不足ではないでしょうか？特別に支援が必要な子供の支援は今後も強化していくとの方針があるのに、この点は？です。	これまでの園児募集の過程が不明確。費用や園児の減少傾向のみで判断するのは説明不足。特別に支援が必要な子供の支援は強化するとあるのに、この点はどうか。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、通園先など、寄り添ったサポートをしてまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
20-2			私は民生委員児童委員でもあり、また、江戸川台地区社協の会長もしておりますが、幼稚園のそばを通るとき元気に走り回る園児を見るたびに、明るくなります。また、地区社協の行事で、毎年「ふれあいコンサート」を行っておりますが、毎年、園を挙げて元気に参加していただいております。江戸川台地区での世代間交流にはなくてはならない幼稚園だと感じています。存続を望みます。	江戸川台地区の世代間交流になくてはならない幼稚園なので、存続を望む。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続します。今後も、地域の皆さまの協力を得ながら、本市全体の幼児教育の発展と質の向上に努めてまいります。今後、幼児教育支援センターでは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施していきます。有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
21		廃園方針	附属幼稚園の増大する赤字経営の継続は、血税の無駄遣いです。一般の幼児教育支援は、国の支援制度で無償化になっており、流山は私立幼稚園も充足出来ている。ならば、附属幼稚園を廃園させ、無駄な運営赤字を無くし、特別な支援が必要な子供たちの為に特化した新たな形で税金を再分配してほしい。血税の無駄な垂れ流しは許されません。	附属幼稚園の赤字経営の継続は血税の無駄遣い。私立幼稚園も充足しているならば、附属幼稚園を廃園し、特別な支援が必要な子供たちの為に特化した形で税金を再分配すべき。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
22		廃園方針	大切な税金の使い道は、時代や社会情勢の変化に伴い、最適な分配に変更していく必要がある。子育て支援への税金配分は今後さらに増やしていく必要があるのは明らか。附属幼稚園の運営赤字が増大している環境変化には迅速に対応し、新たな形で子育て支援に変更し、進化させる必要がある。廃園後、現在計上されている予算を市長の責任において、子育て支援以外に配分してはならない。	税金の使い道は、時代や社会情勢の変化に伴い変更すべきであり、今後、子育て支援への配分をさらに増やしていく必要があるのは明らか。附属幼稚園も環境変化に迅速に対応し、新たな子育て支援に変更・進化させるべきだが、廃園後、附属幼稚園の予算を子育て支援以外に配分してはならない。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
23		附属幼稚園の廃園方針について	市内私立幼稚園の定員充足率がいいのは私立幼稚園には附属幼稚園に無い魅力があると思います。私立幼稚園の企業努力の結果です。廃園はかんたんですが、公立の幼稚園が私立幼稚園のようになぜ出来ないのでしょうか？	私立幼稚園の企業努力を公立幼稚園もすべきではないか	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実施してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
24			公立の幼稚園は残すべきだと思います。何でも民間には反対です。	廃園反対	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
25-1		廃園について	反対です。資料(P3)P5の主な意見②幼保小児童隣接の場で全国的に価値ある架け橋期教育の成果発信の場とすべきです。	廃園反対。架け橋期教育の成果発信の場とすべき。	令和5年度第4回流山市立幼稚園協議会においては、私立幼稚園代表の委員より、「廃園後の流山市の幼児教育は私立幼稚園に委ねてもらいたい」との発言もありました。千葉県教育委員会が、「接続期のカリキュラム千葉県モデル」の実践を、本市の附属幼稚園のほか、県内の私立幼稚園や私立保育園においても実践しているように、市としましては、幼児教育支援センターにおける研究成果の実践や職員研修等は、私立幼稚園や保育園(所)において実践することも十分に可能であると考えております。	無	
25-2		実施要項背景記述について	資料2の背景で「園児の減少」をあげているが、「私立」も同様。たった1つの市立を廃園方針は、民間に丸投げの無責任、傍聴2回しました。結論ありきと思われる強行、子どもを大じにしていないう市の姿勢、情けなく思いました。	園児の減少は私立も同様。たった一つの市立を民間に丸投げの無責任、結論ありきの強行、子どもを大事にしない市の姿勢、情けなく思う。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
26-1		廃園方針全体	付属幼稚園の廃園に反対します。理由は以下の通りです。 1)流山市の教育の質低下への懸念 流山市長のメッセージには「子育てや教育環境の充実に力を注いできた」とあります。付属幼稚園は幼児教育支援センターの研究成果を実践し、市全体に先導的な役割を果たす役割があると思います。私立幼稚園ではこのような取り組みはできないと思います。	流山市の教育の質の低下への懸念	私立幼稚園には建学の精神があり、各園においては様々な特色ある幼児教育の取り組みが行われています。しかしながら、幼児教育の根幹である、遊びと生活を通して人とつながること、遊びと生活を通して主体的に直接的な体験から学ぶことを保障していくということについては、国の方針でもあり、公立であっても私立であっても変わりありません。子育てニーズが多様化する中で、これまで以上に私立幼稚園とともに子どもを支えあいながら、「量としての補完的役割」から転換し、「良質な幼児教育の推進」が求められています。 また、流山市立幼稚園協議会においては、私立幼稚園代表の委員より、「廃園後の流山市の幼児教育は私立幼稚園に委ねてもらいたい」との発言もありました。 千葉県教育委員会が、「接続期のカリキュラム千葉県モデル」の実践を、本市の附属幼稚園のほか、県内の私立幼稚園や私立保育園においても実践しているように、市としましては、幼児教育支援センターにおける研究成果の実践や職員研修等は、私立幼稚園や保育園(所)において実践することも十分に可能であると考えております。 市内には、様々な規模の私立幼稚園や保育園(所)があり、その規模に応じたカリキュラムの実践も可能となるメリットがあることから、各私立幼稚園、各保育園(所)に対しては、その実践協力について、丁寧な説明を行ってまいります。	無	
26-2			2)選択肢の確保 市民にとって、最も経済的で、信頼のおける公立の幼稚園という選択肢がなくなってしまうことを懸念します。	選択肢の確保への懸念	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。 附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実に図ってまいります。 また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
26-3			3)廃園決定プロセス 廃園方針が決定される際、地域住民や保護者の声がどれだけ反映されたかについての疑問があります。	廃園決定プロセスに疑問	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
26-4			4)児童の行き場の確保への懸念 廃園になった場合、児童の行き場について、明確な説明が必要です。特に、特別な支援が必要な子どもたちを受け入れる私立幼稚園への支援策について詳細な計画が必要です。その部分が現状では不明確であると思います。 これらの理由から廃園方針の撤回を求めます。	児童の行き場確保への懸念。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。 また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
27-1			廃園方針を知り、コメントを送らせていただきます。 私は子ども在園中にこの幼稚園園舎を立て直していただき、使わせていただきました。古い園舎から3人の子どものお世話になりましたが、在園中は公立の良さをすごく感じさせていただきました卒業しました。 園児が半数以上減少していることは確かに運営上問題であるかと思えます。しかしその反面、私立幼稚園では発達障害などで集団生活の難しい子どもの入園を断るケースが多いが、付属幼稚園では受け入れてくれるという話も聞きます。 税金をかけて建てた園舎、また教育支援とうたって再スタートしたこの公立幼稚園を、それだけで廃園にして良いのか疑問が残ります。	園児の減少は確かに運営上問題だが、その反面、私立幼稚園では入園を断るケースが多いと聞く。税金で建てた園舎、教育支援とうたって再スタートした公立幼稚園をそれだけで廃園にして良いのか疑問が残る。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。 しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
27-2			幼児教育支援はこれから益々必要となってきます。療育施設などを流山市はどのように展開していく方向なのでしょう？まさにこの教育支援センターは、療育の方面でもこれから必要とされる施設なのではないのでしょうか？ そう考えると廃園ではなく方針の見直しをして運営を立て直すべきなのではないでしょうか 僥倖ながら意見を述べさせていただきました。長文失礼しました。	教育支援センターは、療育の方面でもこれから必要とされる施設ではないか。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。 また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
28			<p>ふぞく幼稚園の廃園には反対です。我が家の子どもたちも十数年前こちらでお世話になりましたが、少人数制のアットホームな環境の中で大切に育てていただきました。先生と保護者の信頼関係、地域や学校とのつながりを大事にしたとてすばらしい園です。おかげさまで子どもたちは就学前の大切な時期にのびのびと安心して思いっきり遊び、自分は大切にされている自己肯定感をほぐし、何でもやってみたくて好奇心にあふれた子どもに育ちました。成人した今でもこの原体験のもと、物事に前向きに頑張る力、楽しむ心は生きる原動力になっていると感じます。保護者のつながりは今でも続くほど、わが子だけでなく他の子どもも共に見守る気持ちで育ちの喜びを分かち合ってきました。時代の流れとともに、ふぞく幼稚園への入園が減り始めたことは聞いていましたが、それは働く両親が増えて保育園の需要が増えたことで、当園がお弁当持参、駐車場がない、二年保育などのしほりが今の子育て世代に受け入れられなくなったとの見方もあるようです。ですがその一方、入園者自体は減少しても他園では受け入れてもらえなかった、発達の上で支援が必要な子どもの受入れが多くなっているとのこと。ここ数年、支援が必要な子供は全国でも増えているとききます。まして子育て世代の転入者の多い流山ではなおさらでしょう。ふぞく幼稚園では支援が必要な子どもに対してのプログラムや、アプローチに関して実践してきた積み重ねがあると思います。これをさらに発展させ充実したものとし、不足している支援する側への研修や講座なども含め、今後の幼児教育に不可欠な土壌をもっと深めて教育に生かし、子どもたちに実践していくことで、目先の損失(お金がかかるなど)ではなく、より心豊かな子どもたちが育っていく未来が開けると思います。私の勤務する保育園でもインクルーシブ保育に関する研修を受ける機会があり、教育、保育の過程で支援が必要な子どもを切り離すのではなく、ともに育ちあえる環境を整えていければとお話がありました。多様性が大切といわれるこの時代、大人の側もアップデートしていく時期に来ているのだからと感じます。今、時代の流れがインクルーシブ教育にシフトしていくこととしているのなら流山市が先頭に立ってその仕組みを整備していくのが、子育てするなら流山、とうたっていくには必要だと思います。まさにこのインクルーシブ保育を実践しているふぞく幼稚園を短絡的に廃園とすることは流山市にとっても大きな損失となるでしょう。今の幼稚園としての存続が難しければ、隣の保育園と合併して子ども園にするとか、療育に関して先ほども記したような保育する側、教育する側のスキルアップや勉強する場として充実した機関に移行することを望みます。そういったソフト面での充実を望みます。どんな子どもも取り残さず、保護者も安心して預けられ親子共に育ちあえる環境となりますよう、流山市には頑張っていたきたいです。</p>	<p>附属幼稚園では支援が必要な子どもに対してのプログラムや、アプローチに関して実践してきた積み重ねがあると思う。これをさらに発展させ充実したものとし、不足している支援する側への研修や講座などをもっと深めて教育に生かし、実践していくことで、目先の損失(お金がかかるなど)ではなく、より心豊かな子どもたちが育っていく未来が開けると思う。今の幼稚園としての存続が難しければ子ども園にするとか、療育に関しても保育する側、教育する側のスキルアップや勉強する場として充実した機関にすることを望む。</p>	<p>附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続や子ども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。</p>	無	
29		教育支援センターについて	<p>廃園はやむを得ないが、附属幼稚園の施設を有効に活用して、支援センターが軸となり、幼稚園の集団の中での生活が難しい配慮を必要とする子、いわゆるグレーの子といわれる子どものスモールステップ作りをする療育+小集団の幼稚園をイメージした場所ができればいいと思います。そのステップの場所があることで、その後の幼稚園生活が本児にとって困り事が少なくなり、健常の子どもたちと共に学び合っていく可能性が広がっていくと思います。</p>	<p>廃園はやむを得ないが、支援センターが軸となり、いわゆるグレーといわれる子どものスモールステップ作りをする療育+小集団の幼稚園をイメージした場所ができればいい。</p>	<p>幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。</p>	無	
30		支援センター	<p>廃園はやむを得ない。特別な支援が必要とする子が、流山市内でもとても増えてきているので、廃園する施設を活用して、療育ができるようにしてもらいたい。</p>	<p>廃園はやむを得ないが、施設を活用して療育ができるようにしてもらいたい。</p>	<p>幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。</p>	無	
31		支援センターについて	<p>附属幼稚園の廃園はやむを得ないとしても、特別な支援を必要とする子ども達への補助等を強化して欲しいと思います。</p>	<p>廃園はやむを得ないが、特別な支援を必要とする子どもへの補助等は強化してもらいたい。</p>	<p>特別な支援が必要な子どもを受け入れる私立幼稚園に対する職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助については、既にある補助との整合を図り、適切な制度を構築してまいります。</p>	無	
32		支援センターについて	<p>廃園はやむを得ないが、特別な支援が必要な子どもへの対応をしっかり行ってほしい。廃園後の附属幼稚園施設を活用し、支援の充実を図られたい。</p>	<p>廃園はやむを得ないが、特別な支援が必要な子どもへの対応、支援の充実を図られたい。</p>	<p>特別な支援が必要な子どもを受け入れる私立幼稚園に対する職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助については、既にある補助との整合を図り、適切な制度を構築してまいります。</p>	無	
33		幼児教育支援センターについて	<p>廃園はやむを得ない。支援が必要な子どもが多くなっていることで、支援が必要な子に手がまわらなかつたり、逆にクラスの運営(保育)がうまく進まなかつたりする現状があります。支援員の加配に対する金銭的な補助は、この現状を改善する良い対策だと思います。実現していただけるなら、ありがたいです。</p>	<p>廃園はやむを得ない。支援員の加配に対する金銭的な補助は、現状を改善する良い対策。実現してもらえたらありがたい。</p>	<p>特別な支援が必要な子どもを受け入れる私立幼稚園に対する職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助については、既にある補助との整合を図り、適切な制度を構築してまいります。</p>	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
34		支援センターについて	廃園はやむを得ないが、流山市内には発達支援に関する施設が少なく、特別な支援が必要な子どもの受け入れ先がなくなってしまうので、特別支援の拠点となるように存続してほしい。	廃園はやむを得ないが、市内には発達支援に関する施設が少ないため、支援センターは、特別支援の拠点となるように存続してほしい。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
35		支援センターについて	廃園はやむを得ないが、特別な支援が必要な子どもの割合の増加している現状があるため、支援センターは今後も必要であると思います。	廃園はやむを得ないが、特別な支援が必要な子どもの現状から、支援センターは今後も必要。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
36		支援センターについて	廃園はやむを得ないが、今まで行ってきたことをふまえながら、より良く機能していく機関として存続し続けてほしい。特別な支援が必要な子どもがとて増えている為、そのような子ども達が療育⇔幼稚園とうまく連携していけるよう、支援員の加配等十分に援助してもらいたい。支援が必要な子たちを受け入れる施設を支援センターも担う機能があっても良いと思う。	廃園はやむを得ないが、支援センターは存続してほしい。支援員の加配等十分に援助してもらいたい。支援が必要な子を受け入れる施設の機能が支援センターにあってもよい。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
37		幼児教育支援センターについて	廃園はやむを得ないが、特別な支援を必要とする子どもたちのために、この支援センターは残してください。このような場所は必要です。	廃園はやむを得ないが、特別な支援を必要とする子どもたちのために、支援センターは残してほしい。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
38		支援センターについて	廃園はやむを得ないが、流山市内には発達支援に関する施設が少ないので、特別支援の拠点となるよう残してほしい。	廃園はやむを得ないが、市内には発達支援に関する施設が少ないので、支援センターは特別支援の拠点となるよう残してほしい。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
39		支援センターについて	廃園はやむを得ないが、今まで通りの幼児教育に対する支援の継続を行って頂きたいです。又、特別支援を必要とする幼児への加配と金銭的援助は、保育の質の向上のため、強く希望します。	廃園はやむを得ないが、支援センターは幼児教育に対する支援の継続を行ってほしい。加配と金銭的援助は、保育の質の向上のため、強く希望する。	特別な支援が必要な子どもを受け入れる私立幼稚園に対する職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助については、既にある補助との整合を図り、適切な制度を構築してまいります。	無	
40			廃園はやむを得ないが、すべての子供達に平等になるような支援を望む。	廃園はやむを得ない。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
41		幼児教育支援センターについて	廃園はやむを得ないが、支援センターについては、しっかり検証し、今後に反映させてほしい。	廃園はやむを得ない。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
42			私は廃園方針に反対です。他の保育園での入園、進級を断られた子供、外国籍の子供の受入場所を喪失させるな！若い世代を呼び込みながら、最後まで責任を負うべき。	廃園方針に反対。保育園での入園・進級を断られた子供、外国籍の子供の受入れ場所を喪失させるな。	外国籍など、特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
43			廃園方針に絶対反対、あってはならない！！療育施設を増やししながら、支援が必要な子供の幼稚園をなくすというのは、矛盾している。安心して子育てのできる街こそ、人が集まってくるのである。お金では買えない価値がある。民ができないことを公立がやる。それが公立の役割であり存在価値だ。	廃園方針に反対。療育施設を増やししながら、支援が必要な子供の幼稚園をなくすのは矛盾している。民ができないことを、公立がやるのが役割であり存在価値。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
44-1		公立幼稚園の存在意義	私たち市民は、公立幼稚園が私たちの地域社会において重要な存在であることを強く感じています。幼稚園は子供たちにとって初めての学びの場であり、地域全体にとっても結びつきの強い拠点です。その公立幼稚園が無くなることは、地域の結束を崩しかねず、将来の世代にとって大きな損失です。教育は私達の未来を築く礎であり、公立幼稚園はその初めてのステップを提供しています。これを失うことは、市の将来に対する投資を減じることと同義です。公立幼稚園が私たちの地域社会において不可欠な存在である理由は、私立幼稚園との重要な違いにもあります。第一に、公立幼稚園は経済的にアクセスしやすく、広く市民に利用されています。これにより、全ての子どもたちに平等な機会を提供し、経済的な背景に関係なく教育の利点を享受できる環境を築いています。私立の幼稚園は、入園費用や負担が高く、これが社会的な不平等を助長する可能性があります。また、公立幼稚園は地域社会の一部として密接な結びつきを持っています。これにより、子供たちは地元の文化やコミュニティに根ざし、共感力や協力のスキルを養うことができます。私たちの未来のリーダーたちは、このような地域的結びつきを通じて、より強い共同体を築く土壌ができるでしょう。公立幼稚園の特徴は、教育の提供だけに留まらず、社会全体への積極的な貢献も含まれています。これを踏まえ、私たちは公立幼稚園の維持と発展を支持し、市の未来を築くために不可欠な資源として位置づけることを強く提案いたします。	公立幼稚園は、私立幼稚園よりも経済的にアクセスしやすく、平等な機会を提供していること、地域社会との密接な結びつきを持っていることなどから、重要な存在である。市の未来を築くために不可欠な資源として公立幼稚園を位置づけることを強く提案する。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
44-2		課題	公立幼稚園が直面している課題には、園児の減少と経費の増加が含まれています。これらの課題に対処することなく、単に閉鎖するという選択は、地域社会に深刻な影響を及ぼす可能性があります。しかし、これらの課題にも積極的かつ効果的な対策が打てるかと信じています。第一に、園児の減少に対しては、地域の家族に対して公立幼稚園の魅力を再評価させるプログラムを検討することが重要です。周辺地域の家庭に対して、教育の質、カリキュラムの特徴、そして地域社会への結びつきなどを積極的に伝え、新たな受け入れ基盤を広げる努力が必要です。経費の面においても、財政的な負担を減らすために、市と地域企業や団体との連携を強化することが一案です。スポンサーシップや寄付プログラムを通じて資金を調達し、公立幼稚園の運営を持続可能なものにする手段が考えられます。また、運営の効率化やコスト削減の方法も検討すべきです。このような対策を通じて、園児の減少や経費の増加に柔軟に対応し、地域社会において不可欠な公立幼稚園の存続を実現することが可能と考えます。市がこれらの課題に真摯に向き合い、地域全体の将来を見据えた適切な措置を講じていただければと願っております。市の発展と市民の福祉を考慮に入れた方針の策定をお願い申し上げます。	公立幼稚園が直面する課題には、積極的かつ効率的な対策が打てる。園児の減少には、周辺地域の家庭に対する周知と再評価プログラムの検討、経費の増加には、スポンサーシップや寄付プログラムを通じて資金調達と運営の効率化やコスト削減。これらの対処をせず、単に閉鎖するという選択は、地域社会に深刻な影響を及ぼす可能性がある。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっては定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続します。今後も、地域の皆さまの協力を得ながら、本市全体の幼児教育の発展と質の向上に努めてまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
44-3		お願い	市が公立幼稚園を廃止することは、地域全体の成長に逆行する可能性があります。私たちは市と共に、子供たちの未来と地域社会の発展のために協力し、公立幼稚園を守ることを強く求めます。地域社会全体の発展と公平性を考慮し、公立幼稚園を守るための適切な対策を検討していただきますようお願い申し上げます。	公立幼稚園の廃止は、地域社会の成長に逆行する可能性がある。公立幼稚園を守るための適切な対策を検討していただきたい。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターでは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。 また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。 今後も、地域の皆さまの協力を得ながら、本市全体の幼児教育の発展と質の向上に努めてまいります。	無	
45			市内唯一の公立幼稚園ですぐれた幼児教育を行い江戸川台地域以外からも登園されている。教育にはお金がかかるものです。赤字だからといって廃園することは納得できません。是非存続して下さい。	市内唯一の公立幼稚園。教育にはお金がかかる。赤字だからといって廃園することは納得できない。存続すべき。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。 附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。 また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
46		廃園方針	廃園方針に反対します。廃園方針の理由として、「特別支援を必要とする子どもの増加に伴い、これまでの幼児教育の実践・提供が困難である」ことが挙げられているが、この状況によって、幼児教育体制が崩壊することを防いでいるのは、附属幼稚園が私立からはじかれた子どもたちを受けいれているからではないのか。廃園後、他の私立幼稚園に、支援を必要とする子どもたちを預けた場合、クラス経営で必ず問題が生じる。特別支援体制を構築していない施設は、そういった子どもの教育法が全くない状況であり、現場が混乱に陥るのは明白である。こういった教育法は、一朝一夕で築くことのできるものではなく、結果、教育の質の低下・人員不足をもたらし、負の連鎖は他の幼稚園へと波及する。これは附属幼稚園の廃園理由と同じ状況に、すべての幼稚園が陥る可能性が非常に高いことを示唆している。この困難な状況の打開策を模索する上で、教育法の研究・実践をしてきた附属幼稚園は、必要不可欠な存在である。以上より廃園に強く反対します。	廃園方針に反対。私立からはじかれた特別な支援を必要とする子どもを附属幼稚園が受け入れることで、幼児教育体制の崩壊を防いでいるのではないかと。廃園後、私立幼稚園で受け入れた場合、現場が混乱に陥り、結果、教育の質の低下、人員不足をもたらす。附属幼稚園の廃園理由と同じ状況に、すべての幼稚園が陥る可能性が非常に高い。この状況への打開策を模索する上で、附属幼稚園は必要不可欠な存在である。	近年は、幼児教育の無償化や、保育ニーズの高まりなどにより、入園児が年々減少し、附属幼稚園における定員60人に対する、令和5年5月1日現在の園児の在籍数が、5歳児13人、4歳児9人の合計22人、定員充足率は36.7パーセントとなっている一方で、特別な配慮が必要な子どもの割合は増加しており、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。 特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。 また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
47-1		廃園方針	廃園方針に反対します。廃園理由が人件費(園児減少)となっていますが、千葉県接続期のカリキュラムのモデル園になり、かけはし教育が行われていたにも関わらず、今回の資料には全く掲載されていません。マイナス面ばかり取り上げ、はじめから廃園する方向で進めるつもり、意図的と感じられますし、資料としては不完全である。	廃園方針に反対。資料には、マイナス面ばかり取り上げ、はじめから廃園する方向で進める意図が感じられる。	本パブリックコメントにおける廃園方針に関する資料は、廃園方針決定までに特に重視した附属幼稚園の運営費と園児在籍数の減少に関する情報を参考として掲載したものです。	無	
47-2			現在江戸川台駅周辺のまち作りも行なわれています。公立の教育支援センター、幼稚園、保育所、小学校が隣接し流山の子ども達の健やかな育ちを市全体に発信する公的な場として最適な立地条件である。またそれぞれが地域と密接な関係を築いており、全ての年齢層にも欠くことのできない貴重な場所となっている。地域に守られ育ってきた子ども達が今まで見守ってくれた大人を大切にしています。貴重な教育的財産を奪わないで下さい。	江戸川台は、公立の教育支援センター、幼稚園、保育所、小学校が隣接し、情報発信に最適な立地条件。それぞれが地域と密接な関係を築き、全ての年齢層に欠くことのできない貴重な場所である。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。 附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。 また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
48		廃園方針	廃園方針に反対します。母になるなら流山のプロモーションを打ち出して数年家族づれ子供づれの方が増えた事を感じます。素晴らしい取組であると同時に、子供が急激に増えたことにより、現実面でサポートを減らしてしまうのは、望ましいこととは思えません。廃園以外の選択肢はないのでしょうか。	廃園方針に反対。子供が急激に増えたのに、サポートを減らすことは望ましくない。廃園以外の選択肢はないのか。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
49-1		1、附属幼稚園の廃園方針について	以前の幼児教育の実践と提供が困難とありますが、現場で働く先生方は尽力されています。どのような観点からご指摘されたのでしょうか。	以前の幼児教育の実践と提供が困難とあるが、どのような観点からの指摘なのか。	附属幼稚園においては、園児一人ひとりを大切にすることを実践していますが、近年は、幼児教育の無償化や、保育ニーズの高まりなどにより、入園児が年々減少し、附属幼稚園における定員60人に対する、令和5年5月1日現在の園児の在籍数が、5歳児13人、4歳児9人の合計22人、定員充足率は36.7パーセントとなっている一方で、特別な配慮が必要な子どもの割合は増加しており、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。	無	
49-2			廃園と存続の二論があったはずですが、答申からわずか10日程で廃園を決定した理由を教えてください。	廃園と存続の二論があったのに、答申から10日程で廃園を決定した理由を教えてください。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
49-3			園児1人当たりの予算が「248万円」との記載があります。あまりにも乱暴ではないでしょうか。額にとらわれてしまいます。教育・福祉などにかかる経費を未来ある子供たち＝「金」で計るのはおかしいのではないのでしょうか。一方的に幼児数の減少の為廃園になさるとの方針ですが、市は具体的な対策をなされたのでしょうか。先生方が独自で「プレ保育」「預り保育」を実施しているのは存じております。	未来ある子供たちを「金」で計るのはおかしいのではないか。市は幼児数の減少に具体的な対策をしたのか。	園児一人当たりの運営費予算については、附属幼稚園の財政状況の目安としてお示ししたものが、一人当たりの経費は、財務状況の目安として一般的に用いられます。附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実施してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
49-4			令和7年度末に廃園としていますが、在籍する子供たちや入園を希望している子どもたちの受け入れ先はどうなるのでしょうか。具体的な受け入れ先も決まっていらないのでしょうか。「行き場所を失うことのないよう配慮します」では、余計に不安感がつのるのでは？	在籍する子供たちや入園を希望している子供たちの受け入れ先はどうなるのか。	令和6年度に入園する4歳児及び令和7年度に入園する5歳児が卒園した後に廃園とする方針です。特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
50-1		1の附属幼稚園の廃園方針について	7行目の2・3歳児をプレ保育をしてきた(のびのび・預り保育)と言っていますが、それは市全体で行ってきたのか？先生方が独自で努力として頑張ってきた市の努力をしていたのでしょうか？教えてください。	プレ保育は、市全体で行ってきたのか教えてください。	プレ保育は、教育委員会内での共通認識のもと、幼児教育を体験してもらう場として、また、附属幼稚園は単学級であることから在籍者の交流の場となることを目的として、令和元年度より行ってきたものです。	無	
50-2		1の附属幼稚園の廃園方針について	答申は廃園って決定していませんか？どのように廃園にしたのかを教えてください(廃園だけを選んだのか)やもえずとは？具体的に教えてください。	答申は廃園の決定はしていないのに、どのように廃園にしたのか教えてください。やむを得ずを具体的に教えてください。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
50-3		1の附属幼稚園の廃園方針について 14行目、同園を廃園とする方針について	答申からわずか16日で廃園を決定した経緯をきちんと公開して下さい。	答申から廃園決定の経緯を公開すべき。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
50-4		1の附属幼稚園の廃園方針について	廃園理由が財政負担の増大を挙げるのみで附属幼稚園の実績が無視されている。	廃園理由が財政負担の増大を挙げるのみで附属幼稚園の実績が無視されている。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実施してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。また、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきましたが、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
50-5			教育的な観点から総括があいまいなので、具体的に教えて下さい。	教育的な観点から総括があいまいなので具体的に教えてもらいたい。	附属幼稚園に関しましては、遊びを大切に教育、配慮を要する子どもへの支援などの研究と実践について、一定の成果があったと考えております。特に、特別支援教育や一人一人を大事にする教育については、充実した研究や実践が行われてきました。一方で、園児の減少や並行通園の園児増加により、同年代の多くの子どもと関わり合う活動の展開が難しくなっている現状があり、課題となっています。	無	
50-6		1の附属幼稚園の廃園方針について	特別な支援を必要とする子供を附属幼稚園は丁寧に保育(支援)してきましたが、私立幼稚園で丁寧な支援を行う事ができるのでしょうか。私立幼稚園が特別な支援を必要とする子供達の受け皿になりえるのでしょうか？疑問です。教えて下さい。	私立幼稚園が特別な支援を必要とする子供達の受け皿になりえるのか教えてもらいたい。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
50-7			廃園方針を決定する前に経緯、市の努力をきちんと説明して下さい。一方的に説明もなく廃園するのは納得いきません。	廃園方針を決定する前に経緯、市の努力を説明すべき。一方的に説明もなく廃園するのは納得いかない。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
51-1		1附属幼稚園の廃園方針について	答申では、廃園存続の二論がありましたが、10日間の間でどの様に廃園だけを選んだのか教育委員会での決定の経緯を教えてください。	答申では廃園存続の二論があったのに、廃園だけを選んだ経緯を教えてください。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
51-2		特別な支援が必要な割合の増加等により実践と提供が困難な状況となっていますについて	現場の先生方は尽力されていると思いますが、どの様な困難な状況となっているのでしょうか？	困難な状況とはどのような状況なのか。	附属幼稚園においては、園児一人ひとりを大切に教育を実践していますが、近年は、幼児教育の無償化や、保育ニーズの高まりなどにより、入園児が年々減少し、附属幼稚園における定員60人に対する、令和5年5月1日現在の園児の在籍数が、5歳児13人、4歳児9人の合計22人、定員充足率は36.7パーセントとなっている一方で、特別な配慮が必要な子どもの割合は増加しており、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。	無	
51-3		品検日を含む運営費は年々増加し一人当たり248万円となっていますけれど	トータル的な金額なのに、1人当たりにするのはおかしく、乱暴かと思えます。	運営費を1人当たりにするのはおかしい	園児一人当たりの運営費予算については、附属幼稚園の財政状況の目安としてお示したのですが、一人当たりの経費は、財務状況の目安として一般的に用いられます。	無	
51-4			特別な支援を必要とする子供を附属幼稚園は丁寧に保育(支援)してきましたが、私立幼稚園で丁寧な支援を行う事ができるのでしょうか。	私立幼稚園で特別な支援を必要とする子供に丁寧な支援ができるのか。	私立幼稚園においても、既に特別な支援が必要な子どもを受け入れ、支援体制を構築している園はありますが、さらなる受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
51-5		廃園方針について	廃園方針の内容を附属幼稚園を知らない一般の方が読んだらそのまま受け入れてしまうと思います。近所の方や卒園在園の保護者が違和感のある方針です。決定する前に公の場できちんと誠実に説明するべきではありませんか？	廃園方針を決定する前に公の場で説明するべきではないか。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。今後も保護者の皆さまに対し、丁寧に説明してまいります。	無	
52-1		1附属幼稚園の廃園方針について	存続・廃園の両方が示されていたのに、わずか16日間という短い期間で廃園を決定した経緯については公開して欲しいです。	答申では廃園存続の二論があったのに、廃園だけを選んだ経緯を教えてください。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
52-2		1、プレ保育「のびのび」について	「のびのび」のこども預りについて、いつから市が制度化して実施したのか具体的な経緯と実績を公開して欲しいです。預りは幼稚園の先生方の努力の取り組みであるのは知っていますが。	「のびのび」の具体的な経緯と実績を公開してもらいたい。	園開放については、幼児や保護者同士の交流の機会を提供するため、平成28年から段階的に実施して参りました。令和元年度からは、プレ保育「のびのび」として2、3歳児を対象とし、園開放のみならず在園児との交流等も取り入れ充実させてきたところです。令和5年度については29回のプレ保育「のびのび」を計画し、実施しているところです。	無	
52-3		1、在籍する子供が行き場所を失うことのないよう配慮について	令和7年度から私立幼稚園で附属幼稚園と同じような質の高い保育が出来るとはとても思えません。	私立幼稚園で質の高い保育が出来るとはとても思えない。	私立幼稚園には建学の精神があり、各園においては様々な特色ある幼児教育の取り組みが行われています。しかしながら、幼児教育の根幹である、遊びと生活を通して人とつながること、遊びと生活を通して主体的に直接的な体験から学ぶことを保障していくということについては、国の方針でもあり、公立であっても私立であっても変わりありません。また、流山市立幼稚園協議会においては、私立幼稚園代表の委員より、「廃園後の流山市の幼児教育は私立幼稚園に委ねてもらいたい」との発言もありました。千葉県教育委員会が、「接続期のカリキュラム千葉県モデル」の実践を、本市の附属幼稚園のほか、県内の私立幼稚園や私立保育園においても実践しているように、市としましては、幼児教育支援センターにおける研究成果の実践や職員研修等は、私立幼稚園や保育園(所)において実践することも十分に可能であると考えております。市内には、様々な規模の私立幼稚園や保育園(所)があり、その規模に応じたカリキュラムの実践も可能となるメリットがあることから、各私立幼稚園、各保育園(所)に対しては、その実践協力について、丁寧な説明を行ってまいります。	無	
52-4		1、園児一人当たりの運営費予算248万円について	教育にかかる経費を子供の数だけで単純に割るのは、あまりにも乱暴ではないでしょうか。	教育にかかる経費を子供の数だけで割るのは乱暴ではないか。	園児一人当たりの運営費予算については、附属幼稚園の財政状況の目安としてお示したのですが、一人当たりの経費は、財務状況の目安として一般的に用いられます。	無	
52-5		幼児教育支援センターについて	附属幼稚園だけ廃園して幼児教育支援センターだけを残すとのことですが、明確なビジョンが曖昧で具体的なことが決まる前からパブリックコメントを求めるのはおかしいのではないのでしょうか？	廃園後の明確なビジョンが曖昧なままパブリックコメントを求めるのはおかしいのではないか。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
53-1		廃園方針に反対します。	子どもが附属幼稚園に通っていました。いつも楽しそうに通っていた姿を今でも思い出します。資料に園児の減少、経費負担等については具体的な数字があげられていると書かれていますが、園児を増やそうとする努力について教育委員会としての取り組みの経過の報告がないと思います。	資料には園児を増やそうとする取り組みの経過の報告がない。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
53-2			又、公立幼稚園の取り組みとして 1. 地域に開かれた幼稚園であること 2. 幼稚園・保育園・小学校との連携を図ること 3. 保護者や幼稚園、保育所からの教育相談の充実を図ること 以上が挙げられているかと思えます。コロナが明けた今こそ上記の取り組みを充実させて公立幼稚園としてできることを実践し千葉県全体の指針となるような取り組みを行なってほしいと思えます。	コロナが明けた今こそ、公立幼稚園として千葉県全体の指針となるような取り組みを行ってほしい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
53-3			私立幼稚園を監督するのは県なので、公立園と同様の業務を私立園に求めることはできないのではないのでしょうか？ 簡単に廃園という前に流山市の公立幼稚園の教育をいかに世の中のために知らしめていくのかという点を優先して考える努力をすべきではないかと思えます。	管轄が違うのに、公立園と同様の業務を私立園に求めることができるのか。廃園という前に、公立幼稚園の教育を周知すべき。	私立幼稚園には建学の精神があり、各園においては様々な特色ある幼児教育の取り組みが行われています。しかしながら、幼児教育の根幹である、遊びと生活を通して人とつながること、遊びと生活を通して主体的に直接的な体験から学ぶことを保障していくということについては、国の方針でもあり、公立であっても私立であっても変わりありません。公立・私立を問わず、幼稚園教育要領に基づく教育を展開しています。 また、流山市立幼稚園協議会においては、私立幼稚園代表の委員より、「廃園後の流山市の幼児教育は私立幼稚園に委ねてもらいたい」との発言もありました。 千葉県教育委員会が、「接続期のカリキュラム千葉県モデル」の実践を、本市の附属幼稚園のほか、県内の私立幼稚園や私立保育園においても実践しているように、市としましては、幼児教育支援センターにおける研究成果の実践や職員研修等は、私立幼稚園や保育園(所)において実践することも十分に可能であると考えております。 市内には、様々な規模の私立幼稚園や保育園(所)があり、その規模に応じたカリキュラムの実践も可能となるメリットがあることから、各私立幼稚園、各保育園(所)に対しては、その実践協力について、丁寧な説明を行ってまいります。	無	
53-4		廃園方針に反対します。	資料の中に特別な支援を必要とする園児割合が増加して、これまでのような幼児教育の実践の提供ができないと記載されていますが、こう結論が出せる具体的なデータはあるのでしょうか？ 現在支援を必要とする園児が増えている中で支援を必要としない園児と必要とする園児を統合(インクルーシブ教育)しながら教育をする実践の場でのモデルとしてしめしていくことも必要な時代であると感じています。	これまでのような幼児教育の実践と提供が困難という結論が出せる具体的なデータはあるのか。	附属幼稚園においては、園児一人ひとりを大切にすることを実践していますが、近年は、幼児教育の無償化や、保育ニーズの高まりなどにより、入園児が年々減少し、附属幼稚園における定員60人に対する、令和5年5月1日現在の園児の在籍数が、5歳児13人、4歳児9人の合計22人、定員充足率は36.7パーセントとなっている一方で、特別な配慮が必要な子どもの割合は増加しており、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。	無	
53-5			公立幼稚園としてのインクルーシブ教育の実践を積み重ねて千葉県のモデル園としての位置を確立していくという方向性も導き出せるのではないのでしょうか。 流山市が行っている幼児教育を誇りを持って実践していくことも必要と思えます。	公立幼稚園としてインクルーシブ教育の実践を積み重ねて千葉県のモデル園としての位置を確立していくという方向性も導き出せるのではないのか。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。 附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。 また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
53-6			幼児教育支援センターについて廃園方針の中で存続と書かれていますが、具体的な事は何一つ書かれているように思えません。 幼稚園と共に支援センターがある事が望ましいと考えます。 インクルーシブ教育のデータや実践をつみ重ねる事で支援センターの教育的役割や相談・支援にも役立つことができるのではないかと考えます。	廃園方針の中で、支援センターは存続とあるが、具体的なことは何一つ書かれていない。 幼稚園と共にあることが望ましい。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。 また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
54		江戸川台の幼稚園廃案に反対です	市立の保育園や幼稚園が年々減らされた一つ残っていた江戸川台にある市立の附属幼稚園を廃園することに反対します。 市立の施設は民間の施設のモデルケースになり、人的・物的の支えになっています。公的なことに税金を使って下さい。流山市が最近大型開発、観光に力を入れ生活に関する交通問題や物価対策、税金対策など市民の生活向上に目を向けて下さい。	廃園に反対。市立の施設は民間のモデルケースとして人的・物的の支えになっている。市民の生活向上に目を向け、公的なことに税金を使うべき。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。 附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。 また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
55-1			廃園方針に反対です。 園児減少を理由にあげるなら、園児募集の方法や園の魅力発信するなど改善して存続する道をさぐるべきです。	廃園方針に反対。園児の募集方法改善や魅力発信など存続の道を探るべき。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。 令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
55-2			そもそも「母になるなら流山」と若い世代を呼び込んで人口増加をはかった流山市ですから、幼児教育も含めた教育の分野にもっと予算をつぎ込むべきと考えます。公立幼稚園を廃止するというのもってのほかです。今後、財政を圧迫しかねない「白みりんミュージアム」建設など、無駄なお金の使いみちこそ見直すべきです。	そもそも若い世代を呼び込んで人口増加を図ったのだから、幼児教育も含めた教育分野にもっと予算を使うべき。「白みりんミュージアム」建設などの無駄遣いこそ見直すべき。	市としては、観光と教育を計りにかけることは困難と考えます。	無	
56			入園希望者がいる限り、公立幼稚園は運営して欲しいと思います。予算が足りなければ「白みりんミュージアム」とか、運河にある旧割烹「新川」の改修計画とか、多額な費用はかける必要はないと思います。	入園希望者がいる限り、公立幼稚園は運営してもらいたい。「白みりんミュージアム」や「割烹新川」などに多額な費用をかける必要はない。	市としては、観光と教育を計りにかけることは困難と考えます。	無	
57-1			私立の幼稚園では、なかなか受け入れてもらえないお子さんの受け皿としての役割は大きいです。	私立幼稚園で受け入れてもらえない子どもの受け皿としての役割は大きい。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
57-2			子どもが集まらないなら集まるような対策をしてください。預けたくても預けられないような問題があるはず。「母になるなら流山」と言っておきながら市立幼稚園を廃園するなんてありません。	預けたくても預けられない問題があるはずなので、子どもが集まる対策をすべき。廃園はありえない。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
58			廃園方針に反対です。廃園ではなく改善の道を検討して下さい。2年でなく3年保育にしてほしい。給食・送迎サービスを検討してほしい。	廃園方針に反対。3年保育、給食、送迎を検討して、改善の道を検討すべき。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
59			廃園方針に反対です。廃園ではなく改善の道を探して欲しいです。2年でなく3年保育にして欲しい。給食・送迎サービスをして欲しい。	廃園方針に反対。3年保育、給食、送迎をして、改善の道を探るべき。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
60			廃園方針に反対です。廃園ではなく改善の道を探して欲しいです。2年でなく3年保育にして欲しい。給食・送迎サービスをして欲しい。	廃園方針に反対。3年保育、給食、送迎をして、改善の道を探るべき。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
61		廃園方針	廃園に賛成です。幼稚園が私立で代替できるにもかかわらず、公立幼稚園がないといけな理由が全く理解できません。人口減少している時代に、何を理由に公立幼稚園、公立保育園が存続しているのかが分かりません。日本中で公立の幼稚園、保育園、小中学校、が廃園、統合されています。流山市も例外ではありません。私立が代替できる場合、公立は廃園が普通で、存続が例外なはず。柏市では、近隣センター(公民館)の集約に取り組んでいるのに、流山市は無駄な公共施設が多すぎます。一方で、廃園に反対されている方が、私立幼稚園を運営したいというのであれば、適正対価で売却してあげてください。園の引継ぎも円滑にできるように配慮してあげてください。様々な思いで廃園に反対をされていると思いますので、ぜひ、理想の教育の実現を身銭を切って取り組んでいただければ、皆が幸せになると思います。	廃園に賛成。私立で代替できるのに、公立幼稚園がないといけな理由が理解不能。日本中で公立の幼稚園や小中学校などが統合されている。流山市は無駄な公共施設が多すぎる。廃園に反対するならば、身銭を切って理想の教育を実現すればいい。	附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
62		廃園方針	廃園に賛成です。私なりの解釈ですと、資料や幼稚園協議会のホームページから、「幼稚園の先生方(予算は市教育委員会、市議会議員の方々が可決しているようなので、これまでの教育委員会の先生たちも含まれるはず・・・)が、これまで様々な試行錯誤をされたが(してなかったら給料返納でしょ。)、結果として、園児が定員を充足しなくなり、幼稚園児一人あたり250万円を投じている成果が、定員に余裕のある私立幼稚園で得られる成果と比べどうなのか?と考えた結果、私立幼稚園に補助を投じて、同等の成果が得られると市が考えた。」ということだと読み取りました。廃園後の私立幼稚園側の受け皿についても、9月22日の第4回幼稚園協議会で、委員の方が、私立幼稚園の立場から、「委ねていただきたい」とご発言されています。	廃園に賛成。様々な試行錯誤をしたが結果として幼稚園児一人あたり250万円を投じている成果について、定員に余裕のある私立幼稚園に補助を投じて同等の成果が得られると市が考えたということ。廃園後の私立幼稚園の受け皿についても、幼稚園協議会で、私立幼稚園の立場から「委ねていただきたい」と発言している。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
63		1	廃園方針に反対します。公立幼児教育施設の存続を求めます。甥っ子が卒園して、現在姪っ子が通園しています。大切な場をなくしてしまうことは、子供達が悲しみます。子供達の思いを一番にしてほしいです。	廃園方針に反対。公立の存続を求める。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
64		資料3 1附属幼稚園の廃園方針について	幼稚園の公教育を廃止することに恐ろしさを感じています。理由として、特別な支援を必要とする子どもたちにとって幼児教育を受ける機会が失われることになるからです。確かに市内私立幼稚園では77.4%の定員充足率で、定員数の面では受け入れが可能なかもしれません。しかし、現状は私立学校の特性上市の規制が制限されており、受け入れの拒否や入園できたとしてもミスマッチによる退園の事例が数多く挙げられます。私の娘も3歳時、市内私立幼稚園に通っていましたが、入園後あからさまに迷惑がられ退園を余儀なくされました。子育てに不安を抱いていた私たち夫婦に救いの手を差し伸べてくれたのが附属幼稚園でした。教育関係に従事している者として、改めて公教育の重要性を感じた瞬間でした。全国でも公立幼稚園が減少している今だからこそ、教育に力を入れる流山市にとって死守すべき街の価値であると考えます。「母になるなら流山市。」とキャッチフレーズを聞いて移住してきた身として、今回の方針は公約違反と感じております。心身の発達を育成するための教育施設として、流山市全ての子どもとたちに誰ひとり取り残さない教育の機会が与えられることを要望します。	幼稚園の公教育を廃止することに恐ろしさを感じている。理由は、特別な支援を必要とする子どもたちの幼児教育を受ける機会が失われるから。私立幼稚園の定員数の面では受け入れ可能かもしれないが、現状は受け入れ拒否やミスマッチによる退園の事例が多い。入園後あからさまに迷惑がられ退園を余儀なくされた私たちに救いの手を差し伸べてくれたのは附属幼稚園で、改めて公教育の重要性を感じた。公立幼稚園が減少している今こそ死守すべき街の価値。今回の方針は公約違反。誰ひとり取り残さない教育の機会が与えられることを要望する。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
65-1		令和5年度の運営費予算は～248万円となっております。	単純に園児数で割る計算が理解できず、、、そもそも定員60名であったとしても赤字だったのでは？幼児教育無償化となっているのに、運営費を園児数で割り、負担が大きいので廃園しますと。それも含めて国や市が負担するのは初めから分かっていた必要な税金ではないですか？	そもそも定員60名であったとしても赤字だったのではないかと。幼児教育無償化を含め、国や市が負担するのは初めから分かっていた必要な税金なのではないかと。	園児一人当たりの運営費予算については、附属幼稚園の財政状況の目安としてお示したのですが、一人当たりの経費は、財務状況の目安として一般的に用いられます。運営費の増大は大きな要因ではありますが、近年の保育ニーズの高まりなどにより、3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことが難しいことから、同園の存続は困難であると考えます。	無	
65-2		幼児教育支援センター(1)教育相談・支援・入園相談	実際に、幼稚園入園を断られた子の保護者から相談された場合、特定の受入先幼稚園を教えてくださいませんか？役所に行くと言われる「特定の名前は出せないのですが、、、」という状況になりませんか？一番困るのは支援センターにおつとめの方だと思うのですが、、、最後になりますが、「母になるなら流山」という市長のメッセージを成人式で聞き、流山で子育てをしている身として、「働かず子供を育てている母たちにも目を向けて下さい！」子供達の未来を市の予算がかかりすぎると理由でなくさないで下さい。先生達の教育力は市の財産だと思えます。還元して下さい。どうか宜しくお願い致します。	実際に入園を断られた保護者から相談された場合、特定の受け入れ先を教えてくださいませんか。働かず子供を育てている母たちにも目を向けてもらいたい。子供達の未来を市の予算がかかりすぎると理由でなくさないでもらいたい。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
66-1		2・3歳児を対象としたプレ保育の取り組み	2・3歳児を対象としたプレ保育の募集をしていたにもかかわらず、2歳の年代の入園前に廃園するのは、無責任である。	2歳児のプレ保育の募集をしていたのに、入園前に廃園にするのは無責任である。	プレ保育は、幼児や保護者同士の交流の機会や、幼稚園の生活を知っていただくために実施しているものであり、入園を前提としたものではございません。廃園時期については、入園している園児が安心して園生活を送れることを十分考慮し、計画しております。また、今後入園を迎える方に対しては、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
66-2		子供たちの受け皿は確保できるものと考え	具体的な策を公表してほしい。実際に今2歳児のプレに通っている子どもたちは行き場をうしなってしまう。	受け皿確保の具体的な策を公表してもらいたい。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
66-3		保育ニーズの高まりなどの保護者需要の変化	働いていない、働けない保護者もいて、保育園に入れない幼稚園しか選択肢がない家庭もある。	幼稚園しか選択肢がない家庭もある。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして、新たな組織を設置し、本市全体の幼児教育の質の向上と、幼保小の連携による架け橋教育的充実のほか、相談業務についても更なる充実を図ってまいります。	無	
66-4		廃園方針の決定はやむを得ないもの	令和5年5月に諮問し、同年10月に方針の決定とあるが、現場の声をきく機会もなく一方的な廃園方針決定である。もっと丁寧な議論をしていくべきであり決定するには時期尚早である。	一方的な廃園方針決定で時期尚早。もっと丁寧な議論をすべき。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
67		1	子育て教育こそが今後の我が国の最重要課題である今、事業の採算よりも先ず、子供ファーストを一貫し、他の分野での経費改善を図って、その余剰を教育にまわせば済むだけの話。例えば外国人の年金脱退一時金や、外国人への生活保護費の廃止、公用車の廃止等である。私立への補助等、一部の個人だけの公的資金の独占は極力控えるべきものであり、民間へのアウトソーシングは癒着の温床となるのは明白である現在、今ある職員の存在を生かして、市外からの要支援児の受け入れの体制を整え、大々的な公表も踏まえて、育児数増加に取り組んでみて下さい。	子育て、教育こそが国の最重要課題である今、外国人の年金脱退一時金など他の分野での経費改善を図り、それを教育にまわせば済むだけの話。民間へのアウトソーシングは癒着の温床。今ある職員を生かし、市外からの要支援児の受け入れ体制を整え、育児数増加に取り組んでほしい。	年金や生活保護に係る経費と教育に係る経費を計りにかけることは困難と考えます。附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実施してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園で定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、今後も園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
68-1		廃園は反対です。	理由は、発達がゆっくりなお子さまや、海外から引越して来た方などの受け入れ先として、とても重要な役割があると思います。税金が多くかかるとの事ですが、発達のゆっくりなお子様やその両親に寄り添ってくださる先生方、又、同じ悩みを抱えた親同士が、交流できる場として大切な場所だと考えます。他の幼稚園にそのお子様がバラバラにされてしまうと、悩みを深め、子どもも孤立してしまうのではないかと懸念されます。市政には、どうか、弱き立場の人に寄り添う運営をお願いしたいです。	廃園は反対。発達がゆっくりな子などの受け入れ先として重要な役割がある。市政には弱き立場の人に寄り添う運営をお願いしたい。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
68-2			又、入園児童を増やす為、3年保育にする、保育園児に使われている送迎保育ステーションを使い、遠方の方も通えるようにするなど努力も必要だと思います。どうか廃園などせず、新しい附属幼稚園の在り方を、考え直していただけますと、嬉しいです。	3年保育、送迎保育ステーションの活用など努力も必要。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実施してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
69			特に、特別な支援を必要とする子どもたちの受け皿として貢献の大きい場であると思っています。「支援員の加配に対する金銭的な補助等を行ってまいります」とありますが、それだけで十分なのか、また本当に私立幼稚園が受け入れを行ってくれるだけのケアがされるのか懸念です。存続し、まわりのみで子どもの成長を見守っていくあたにかい市であってほしいと思います。	特別な支援を必要とする子どもたちの受け皿として貢献が大きい。支援員の加配に対する金銭的な補助等だけで十分なのか、本当に私立幼稚園が受け入れるのか懸念。存続してほしい。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
70			月火水幼稚園、木金療育に通っている者です。3歳の頃、幼稚園は無理だと思っていた。言葉しゃべれない、自分の思い通りにならないと怒る泣くなど相談支援していただいている方に当園を勧められました。先生方が優しく迎えてくれて全くビビリしていない、子どもが毎日幼稚園に行きたいと言う程楽しく通っています。行事などで本人が楽しそうにしている本当に入れて良かったと思います。最近言葉が増えてきて成長を感じられます。私みたいに幼稚園無理かも、と思っているお母さんがいたら附属幼稚園なら大丈夫と勧めたいほどです。附属幼稚園はこれからも必要な幼稚園だと思います。	附属幼稚園は、幼稚園は無理かもと思う人にとっても、これからも必要な幼稚園。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
71		1	小学生になっても卒園した附属幼稚園にいきたくります。先生たちはとてもやさしいです。だれとでも仲良くできるんです。なくさないでください。	なくさないでほしい。	附属幼稚園を大切に思っていたくださりありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
72-1		2. 附属幼稚園を取り巻く環境の変化 3. 附属幼稚園の状況	変化に対応し、附属幼稚園の発展やもっと活かせ方法流山市・市の担当課・教育委員会が、しっかりと公平に議論し、対策を取ってきたとは考えられない。例えば、12/7令和5年度第4回定例会一般質問をオンラインで見ましたが、植田和子議員の「広報ながれやまに、私立→公立の順で次年度の園児募集について載せている」ということについて、一緒に載せる工夫をしなかったのか？という問いに対して、教育長は「公立・私立関係なく、同じように載せるべきだった。」とはっきりおっしゃっていました。そうおっしゃるのなら、まずそれをすべきだったと思う。このこと1つとっても、まだ園児を増やすための努力・工夫は、やれることが残っていると思う。流山市・市の担当課・教育委員会の園児を増やすための努力・工夫はまだまだ足りない状態で、附属幼稚園に問題がある・保護者のニーズにあわなくなっているのではという理由で園児の減少は止められなかった、できることはしたというのは間違っている。公立幼稚園なのだから、条例を変更しなければいけないこともあり、それに対応し策をねるのは、流山市・市の担当課・教育委員会の仕事ではないのか。なぜ今まで、附属幼稚園・支援センターと協力し、より良くしていこうと動いてこなかったのか。関係する全ての方がたとえうまくいかなかったとしても、まずは考えられる事をやってみるべきだと思う。	園児を増やすための努力・工夫はまだまだ足りない状態で、附属幼稚園に問題がある・保護者にニーズにあわなくなっているのという理由で園児の減少は止められなかった、できることはしたというのは間違っている。公立幼稚園は条例を変更しなければいけないこともある。なぜ今までより良くしていこうと動いてこなかったのか。うまくいかなかったとしても、まずは考えられる事をやってみるべきである。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実施してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
72-2			附属幼稚園のホームページ、園の外にある掲示板、ほんの少しの情報だけで、公立幼稚園の存在が広く知られているとは思えない。子ども達の出年幼稚園の話題になった時、附属幼稚園といっても、知らない方がほんとうに多い。附属幼稚園は、私立幼稚園と比べて、年長30名年少30名と小規模なのだから、これから子どもの教育をどこで受けさせるか考えている家庭に、私立幼稚園のように公立幼稚園の情報が届き、選択肢のひとつとなれば、定員に近い園児数になるのではないと思う。3の附属幼稚園の状況という部分の特別な支援を必要とする園児の割合が増加しているということも、適切な割合へと近づき、今よりもさらにより良い先進的な形の幼稚園として発展できる、インクルーシブな幼児教育の実践ができるのではないと思う。附属幼稚園は、幼・保・小・地域・児童発達支援事業所との連携・交流の基礎がすでにあるので、流山市・市の担当課・教育委員会が本気で取り組めば、今の状況は良い方向へ変えていけるはずである。	公立幼稚園の存在が広く知られているとは思えない。公立幼稚園の情報が届き、選択肢の一つになれば、定員に近い園児数になると思う。附属幼稚園は、幼保小、地域、児童発達支援事業所との連携・交流の基礎がすでにあるので、市が本気で取り組めば、良い方向へ変えていけるはずである。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実施してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。市としては、園児の減少は、保育ニーズの高まりや、国の幼児教育無償化制度が実施されたことによる影響が大きいと考えています。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が今年度よりも少ない18人となる見込みであること、3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、今後も園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
72-3	5. これまでの経過		R5. 5. 26～R5. 10. 13流山市幼稚園協議会では、現在の園の情報を正確に発言する方は、ひとりもいなかった。現在の園の状況を知らず、調べることなく、または数年前の状況からの推測で話し合っていることが、間違っている。話し合いとして成立していないと思う。廃園方針の決定前までは、保護者への説明も意見の交換も行われなかった。R5. 10. 13の答申を踏えたR5. 10. 26の教育委員会議についても同じである。両論併記の答申から、2週間程度で「R7年度末をもって廃園の方針を決定する」ための議案が出され、どのように答申を踏えたのか理解できない。さらに10/26の教育委員会議でも委員からの質問や意見に対して、市の担当課等は、正しく答えていなかった。どこをみても公平で公正な経過とは思えない。廃園することがはじめてから決まっていた、のちに問題とならないように話し合いはしたという形にしているようにみえてはかたがたい。R5. 12. 7の植田和子議員の一般質問の中で、R5. 10. 13～R5. 10. 26の間に、名前のついた会議はなかったと、担当部局が答えた場面をオンラインで見たときには、とても驚いた。正式な会議もなしに、廃園方針を議案としたことは、附属幼稚園も、職員の方々も、園児も保護者もここまで大切にしてもらえない、大切に考える気持ちは少しもないのだと感じた。首長からの独立性・政治的な中立性の確保・地域住民の意向の反映等の基本的なルールを守った教育委員会が公平で公正な話し合いのもとに附属幼稚園の今後のあり方を考えていかなければ、廃園の方針を決めてはならないと思う。現状の経過での廃園方針は、反対である。	幼稚園協議会では、現在の園の状況を知らず、調べず、憶測で話し合っていることが間違っている。廃園方針決定前には、保護者への説明も意見交換もなかった。両論併記の答申から2週間程度で廃園方針を決定するための議案が出されたことは、廃園することがはじめてから決まっていた、のちの問題とならないように話し合いはしたという形にしているように見える。名前のついた会議がないまま廃園方針を議案としたことにとっても驚いた。公平で公正な話し合いのもとに今後の在り方を考えていかなければ廃園方針を決めてはならない。現状の経過での廃園方針は反対である。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
73			子供3人が附ぞく幼ちえんに通いました 人数は少ないものの、そこが良い所として表われている幼ちえんです マルシェで久しぶりに友達と再会したときとてもうれしそうにいました この交流の場がなくなるのはさみしいです 廃園にしないで欲しい。心からそう願います	人数が少ないのが良い所。廃園にしないでほしい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
74			幼稚園の廃園方針に反対です。他の幼稚園でプレに断られ、行くところが無く困っていた所を、こちらの附属幼稚園の事を知り、入れさせてもらえて大変感謝し有り難く思っていた所に廃園をする方針を聞かされて途方に暮れています。他の子供も同じ理由でこちらにお世話になっている園児もいると思います。他の方のコメントにもありましたが最後の受け皿になっている事をよく考えて頂たい。おおたかの森の人口が増えた為という理由で、いくつかの小学校を作っていますが、他の地域市民も同じように納税しています。平等に対応して頂きたい。反対です。	廃園方針に反対。他の園でプレに断られ行くところが無く困っている子供の最後の受け皿になっている事をよく考えてもらいたい。おおたかの森だけでなく、他の地域市民にも平等に対応してもらいたい。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
75			廃園方針に反対です。幼稚園のある場所は、幼稚園・保育所・小学校・学童施設が隣接していて、それぞれが地域と密接な関係を築いています。それゆえ、地域との交流が活発です。廃園にするということは、地域の貴重な教育的財産を失うこととなります。教育はお金で買えません。隣の保育園と一緒にして「こども園」化して、存続を検討していただきたいと思います。	廃園方針に反対。幼稚園・保育所・小学校・学童それぞれが地域と密接な関係を築き、活発に交流している。教育はお金で買えない。隣の保育園と一緒にしてこども園化による存続を検討してもらいたい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
76			私の大好きなようち園を、なくさないでください。	なくさないでほしい。	附属幼稚園を大切に思っていたありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。 近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。 また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。 このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
77			附属幼稚園が有る事で、親子共々、救われました。廃園という形でなく、何か策が有ればと願います。	なくさないでほしい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。 しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
78			ふぞくようちえんが、なくなるのはいやです。	なくさないでほしい。	附属幼稚園を大切に思っていたありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。 近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。 また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。 このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
79			ふぞくようち園がなくなるなんてかんがえられないです。ようちえんしゅしんなのでいろいろな思出がたくさんのこっています。ほうかごにようちえんにいって先生にあたりできるばしょがあるとおちつけてがんばろうと思えます。ちがう小学校にいったら人とのこうりゅうばになることもできるのでぜったいになくしてほしくないです。	なくさないでほしい。	附属幼稚園を大切に思っていたありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。 近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。 また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。 このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
80			ようちえんのせんせいはやさしいしともだちもやさしいからようちえんなくしたくないです ともだちもせんせいもみんなだいすきだからやっぱりようちえんなくしたくない	なくさないでほしい。	附属幼稚園を大切に思っていたありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。 近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。 また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。 このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
81			私は幼稚園の廃園方針に反対です	廃園方針に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。 しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
82			私は幼稚園の廃園方針に反対です	廃園方針に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。 しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
83			私は幼稚園の廃園方針に反対です	廃園方針に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。 しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
84			私は幼稚園の廃園方針に反対です	廃園方針に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。 しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
85			私は幼稚園の廃園方針に反対です	廃園方針に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。 しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
86			私は幼稚園の廃園方針に反対です	廃園方針に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。 しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
87			私は幼稚園の廃園方針に反対です	廃園方針に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。 しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
88			私は幼稚園の廃園方針に反対です	廃園方針に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。 しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
89			私は幼稚園の廃園方針に反対です	廃園方針に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。 しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
90			私は幼稚園の廃園方針に反対です	廃園方針に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
91			私は幼稚園の廃園方針に反対です。	廃園方針に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
92			障害のある子供達にも平等に指導していると聞きます。他の幼稚園では、なかなかできない事です。ぜひ、園を存続させて頂きたいと思えます。	障害のある子供達のためにも、存続させてもらいたい。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
93			流山市に幼児教育の中心となる場所は必要だと思えます。園の存続を願っています。	存続してもらいたい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
94			小学校にはいらぬからようちえんい学どうがあるのになくなら小学校が大変になる はい園にはなってほしくない	幼稚園に学童があるから廃園しないでほしい。	附属幼稚園を大切に思っていたありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
95			助かっている方がたくさんいると思うので廃園しないでほしいです。	廃園しないでほしい。	附属幼稚園を大切に思っていたありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
96			ゼッターになくさないでください 子どもたちがかわいそうです。	なくさないでほしい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
97			ようち園、つぶさないで、ください。	つぶさないでほしい。	附属幼稚園を大切に思っていたありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
98		1 附属幼稚園の廃園方針について	特別な支援を必要とする子どもの対応が、受け入れる私立幼稚園への金銭的補助となっている。まず、そういった子供たちへの対応方針・基準といったものは、個々の私立幼稚園(幼稚園ごと)に特徴のある教育方針を持っていると思います)に任せるものではなく流山市として規定していくものではないかと思ひます。次に、そういった子供たちは現在、いくつもの私立幼稚園から入園を断られ、やっと附属幼稚園にたどり着いているということを見ると、金銭的補助を行うとしても、私立幼稚園が積極的に受け入れるのかという問題もあると思ひます。私立幼稚園は経営効率にはより敏感であるはずで、そのことも私立幼稚園がどれだけ受け入れるのかについて不安を感じるどころです。また、受け入れる幼稚園が増えたとして、合計すると今の附属幼稚園に係る費用を超えてしまうこともあるのではないかと思ひます。本件は、民間での支援が難しく困っている人への支援をどのように行うか、というところが一番のポイントかと思ひますが、私立幼稚園に任せるとした場合、やはり継続性や支援の質の面から安定しないと考えられ、そうであれば公立幼稚園で行うべきと考えます(一般論ですが、効率面から民間のサービスでは対応しきれずに困っている人への支援は公的に行うべきと考えます)。	特別な支援を必要とする子どもの対応方針・基準は、私立幼稚園に任せるのではなく、流山市として規定していくものではないか。金銭的補助を行うとしても、私立幼稚園が積極的に受け入れるのかという問題もあり、また、受け入れる幼稚園が増えたとして、附属幼稚園に係る費用を超えてしまうこともあるのではないか。私立幼稚園では、継続性や支援の質の面から安定せず、やはり公立幼稚園で行うべきと考える。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、既にある補助との整合を図り、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
99			突然、廃園という方針が出されおどろいています。今まで存続に向けて、何か対応をして来たのでしょうか。民間幼稚園のように、3才児から受け付けるとか、弁当給食の導入、送迎バスの運用、子ども園の移行等廃園を打ち出す前に、存続に向けての検討会の開催はあったのですか？附属幼稚園では障害のある児も健常児と変りない指導をしています。運動会を見ている分りも分ります。市長や教育委員会は、幼稚園に足を運んだ事があるのでしょうか。疑問です。ぜひ、存続をお願いしたいと思います。	今まで存続に向けて、何か対応してきたのか。3年保育、弁当給食、送迎バス、こども園への移行など、検討会は開催したのか。市長や教育委員会は幼稚園に足を運んだことがあるのか。存続してもらいたい。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実施してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
100-1			私は幼稚園の廃園方針に到底納得できません。参考資料では、お金がかかるから廃園という理由が書いてあります。教育はお金がかかるものです。今、流山では医療的ケア等が必要なお子さんも就学に対して学校の設備を充実させ、受け入れようとしていると聞いています。とても素晴らしいことです。お金のことを抜きにして子ども達のことを考えている証拠です。翻って、附属幼稚園にいる発達に課題のあるお子さんについては、お金をかけることはないということでしょうか？私立幼稚園の充足率を考えると受け皿があると書いてありますが、今年も私立にやんわり断られている友人のお子さんがいます。そういうお子さん達の受け皿を、市が準備できるのか甚だ疑問です。	廃園方針に反対。教育はお金がかかるもの。就学に際して医療的ケア児への対応はするの、附属幼稚園の発達に課題のある子への対応はしないということなのか。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
100-2			調べたところ私立幼稚園の管轄は千葉県なので、流山市が強い力を発揮することは難しいはずですが。例え、この点がクリアしたとしても、全ての子を受け入れ幼児教育を行えるスキルを持った先生を育成するには、長い年月が必要です。そう考えると、現段階で高いスキルのある先生方がいる附属幼稚園を廃園にすることは市民にとってデメリットです。本当に様々な子ども達が一緒に過ごしている附属幼稚園を存続するための方策を考えることこそ、流山市・行政が行うべきことと考えます。	幼稚園の管轄は千葉県。市が強い力を発揮して、受け皿を準備できるのか疑問。現段階でスキルある附属幼稚園の廃園は市民にとってデメリット。存続するための方策を考えることこそ、市・行政が行うべきと考える。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
101			廃園方針に反対します 在園児の保護者ですが全唐突に廃園方針が決まったと受け止めています広報の記事で初めて知り保護者への説明も11月末にようやく開かれる状況です子どもに対しては廃園方針の中で248万円もかかっていると云われ保護への説明は後回しにされたままでしたこのような誠実な決め方に納得できません	廃園方針に反対。唐突に廃園方針が決まり、保護者への説明も11月末にようやく開かれた。在園児の保護者としてこのような決め方に納得できない。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合がございます。令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。今後も保護者の皆さまに対し、丁寧に説明してまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
102-1		幼稚園の廃園	私は幼稚園の廃園方針に見直しを求めます。今回の議会のライブ中継を見ましたが、議員が質問したことに対して、教育委員会が適した答えを言えていないこと大変不信感を感じました。特に協議会で答申が出た後、1週間もたらずに教育委員会議の資料で廃園方針が出た経緯を全くもって話せていないことは、今回の廃園方針に至るまでの過程が、筋道だった経過をたどっていない証拠でもあります。	廃園方針の見直しを求める。議員の質問に教育委員会が適した答えでないこと大変不信感を感じた。特に廃園方針が出た経緯を全く話せていないことは、この過程が筋道だった経過をたどっていない証拠である。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
102-2			また、この協議会に、現在の幼稚園の状況を話せる人が誰もいなかった聞いています。幼稚園のことを検討する会議であるのにそれはおかしな話です。そういう状態であるのに、幼児教育ができていないという意見もありました。その方はここ2、3年の幼稚園の現場を見ていましたか？見ていないのに知っていないとしたら、その発言は嘘に近いのではないのでしょうか？ まだまだおかしな所はたくさんがあると思いますが、上記の2つの理由だけでも、正常な筋道があつての公の方針であるとは言えません。こういう会議が流山市の中で行われたことに、市民として非常に悲しく感じます。	また、協議会での幼児教育ができていないとの意見は、ここ2、3年の幼稚園の現場を見ていない発言なのではないか。この2つの理由だけでも、正常な筋道があつての公の方針とは言えない。	附属幼稚園においては、園児一人ひとりを大切にすることを実践していますが、近年は、幼児教育の無償化や、保育ニーズの高まりなどにより、入園児が年々減少し、附属幼稚園における定員60人に対する、令和5年5月1日現在の園児の在籍数が、5歳児13人、4歳児9人の合計22人、定員充足率は36.7パーセントとなっている一方で、特別な配慮が必要な子どもの割合は増加しており、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。	無	
103-1		廃園	私は幼稚園の廃園方針に反対です。資料からは、幼稚園の人数が少なくなったことが廃園につながっているように思えます。幼稚園の人数が少なくなっていることは、流山市や教育委員会はいつ知ったのでしょうか？幼稚園は、HPを作ったり、プレ保育をしたり、預かり保育をしたり、人数を増やすために少しずつ変化してきたように思います。でも、3年保育が主流である私立幼稚園に対して、2年保育の附属幼稚園はとても厳しい状況です。公立幼稚園の場合、3年保育を決めるのは幼稚園ではなく、流山市や教育委員会のほうです。流山市や教育委員会の皆さんは、人数を増やすための方策をどう考え、実行してきたのですか。何も手を打っていないかったとしたら、それは行政の怠慢です。	廃園方針に反対。幼稚園の人数が少なくなっていることを市や教育委員会はいつ知ったのか。市や教育委員会は、人数を増やすための方策をどう考え、実行してきたのか。何も手を打っていないかったなら、それは行政の怠慢である。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実施してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
103-2			発達に課題のあるお子さんや大人数が苦手なお子さんにとって、附属幼稚園は大事な場所です。人数が少なくなったから、廃園にすれば良いという考えではなく、どうしたら附属幼稚園をよりよい方向で残していけるのか、まずはその点を真剣に取り組んでみるのが先ではないでしょうか？市内唯一の公立幼稚園を簡単に廃園にしないでください。まずは市と教育委員会と幼稚園の皆さんが知恵を出し合って、よりよい流山の幼児教育が提供できるようにご努力ください。それが廃園方針より先のはずです。	発達に課題のある子や大人数が苦手な子にとって附属幼稚園は大事な場所。まずは廃園ではなく、よりよい方向で残していくことに取り組むべき。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこその幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
104			<p>私は廃園にとっても反対です。理由は以下の つかからです。</p> <p>1つめ市内唯一の公立幼稚園と言うことについて 幼児教育支援センター附属幼稚園(以下附属幼稚園)は流山市唯一の公立幼稚園。これを機に公立幼稚園に調べてみました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年からの無償化 <p>2019年から、幼児教育、保育の無償化が行われたことにより、前まで費用が安いと言われていた長所が薄れてしまったことにより、公立幼稚園は減少しているらしいですね。なぜ廃園ということになったのかは私にはよくわかりませんが、私が沢山ある今、公立という信頼性を得やすい幼稚園を残していくのは大事なのではないのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小子高齢化 <p>最近よく言われている小子高齢化。それによって廃園してしまう幼稚園は少なくはないでしょう。少なくなってしまうたら、近くにある所にいくしかありませんよね。それもなくなってしまうたら、親御さんはきっと困ってしまうと思います。なので、残していけないといけなと思っています。</p> <p>また、公立幼稚園は安いという利点もあるため、様々な値段があがっている今の日本には、安いことが大事だと思います。</p> <p>私立と公立で約2倍です。けっこう大きいんですね。家から近いと言うこともいいですね。</p> <p>1つめは以上の理由から、市民全員が通いやすく、安く、信頼を得やすい唯一の公立幼稚園を残しておくべきだと思います。</p> <p>追記】私立幼稚園は障害児をあまりいれず、公立幼稚園では障害児をいれやすいのが特長。親御さんも助かるのではないのでしょうか。</p> <p>2つめ 将来の夢について 子どもがなりたい職業を知っていますか？最近ではyoutuberやマンガ家などが増えていますよね。ですが、必ず入ってくるのが「先生」です。保育士や先生等は子どもにも人気です。私の身近な友達の将来の夢も実はこれだったりします。それがなくなったらどうなります？夢、叶えられないんじゃないですか？研修にもいけませんよね。</p> <p>私の将来の夢は幼稚園教諭です。その理由はお母さんの背中をいつも追ってきたから、お母さんは附属幼稚園で働いています。かかされた訳ではなく、これは自分の意志でかいています。いつもよくしてもらっている幼稚園の先生方やお母さんとのふれあいをみていてとてもほこらしく思っています。幼稚園がなくなってしまうたら、みれなくなっちゃう。私がようちえん教諭になりたいと思っただけの場所がなくなるのはとてもさびしく、つらいものです。これは子供の夢をこわしているのと同じだと思います。これからの未来を●う子供の夢がつぶされていいんですか？私は信じられないです。子供の夢をなくさないで。</p> <p>保育士は●に支配されない特別なしよぎょう。なぜなくすし廃園にするのか、私のコメントをみて、廃園する予定をどうかなくしてはくれないのでしょうか。ここまでお読み頂き、ありがとうございます。長文失礼致しました。</p>	<p>廃園に反対。私立が沢山ある今、公立という信頼性を得やすい幼稚園を残していくのは大事なことはないか。市民全員が通いやすく、安く、信頼を得やすい唯一の公立幼稚園は残しておくべき。子どもがなりたい職業に必ず入ってくる「先生」。私の将来の夢は「幼稚園教諭」。私が幼稚園教諭になりたいと思っただけの場所がなくなるのは、とてもさびしくつらいもの。子供の夢をなくさないで。</p>	<p>附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。</p> <p>しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。</p>	無	
105			<p>たのしくて、あかるくて、みんながえがおになるとてもたのしいしつないもたのしいしよちえんせいにわんぱくまつりをたのしくいってほしいからようちえんわそのままがいいです。</p>	<p>なくさないでほしい。</p>	<p>附属幼稚園を大切に思っただけありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。</p> <p>近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。</p> <p>また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。</p> <p>このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。</p>	無	
106			<p>第一子が、市内の私立幼稚園から、公立の附属幼稚園に転園致しました。幼稚園という場所は、そもそもが、登園が好きか、多少嫌でもこなせるタイプの子ども(大多数)の特性に合わせて施設として存在していると思います。けれど、それができない子は、どうしても人数では少数派になります。その為、経営上、私立では、その子たちを見捨てないことは不可能です。</p> <p>この幼稚園は、公立でしか成し得ない機能をきちんと働かせてくださっていて、少数派の困難をかかえる親子を流山市民全員で支えてくださっている現状に感謝しております。</p>	<p>この幼稚園は、公立でしか成し得ない機能をきちんと働かせ、少数派の困難をかかえる親子を支えてくれている。私立では、経営上、そのような子たちを見捨てないことは不可能である。</p>	<p>附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。</p> <p>附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。</p> <p>特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。</p> <p>また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。</p>	無	
107			<p>先生方が今まで、子供達のために行ってきたこと、また、今も、行ってくれる、すばらしい保育現場をもっと見ていただきたい。廃園についてもう一度よく考えなおしていただきたいです。</p>	<p>もっと保育現場を見て、廃園について考え直してもらいたい。</p>	<p>附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。</p> <p>しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。</p>	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
108			大切な場所なので絶対に壊さないで！	壊さないでほしい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
109			壊さないで下さい。	壊さないでほしい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
110			私は幼稚園の廃園方針に納得できません。数少ない校立ようちえんをつぶさないでくれ	つぶさないでほしい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
111			おとなりさんがそのようちえんではたらいっているのでなくさないでください！！はいえんはんたいです。	廃園反対。	附属幼稚園を大切に思っただきありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
112			転勤族でいままです私立や公立幼稚園に通っていました。公立幼稚園の良いところは市が見てくれている安心感です。私立は自分たちで経営しているので、少しお金を見てると感じますが公立幼稚園では、子供たちをしっかりと見てくれている安心感があります。また、転園する際は必ず公立幼稚園がある市を探して住みます。制服や物がなくても、すぐに幼稚園に通わせて頂けたり受け入れて下さる安心感があるためです。流山市にも1つ公立幼稚園があれば、保護者の方や転入された方のせんたくしのひとつになると思います。なくすのは本当にもったいないです。	公立幼稚園のよいところは市が見てくれている安心感。1つ公立があれば、保護者や転入者の選択肢のひとつになる。なくすのは本当にもったいない。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続や子ども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
113			私は、幼稚園の廃園に反対します。もっと時間をかけて、良策を決定すべきだ。数年前も長崎にあった子育て支援センター「ゆうゆう」を利用者が一定数いたのに廃センターにし、子育て難民をつくっています。「母になるなら流山」というのなら、子育て世代の声を聞き目で確かめていただきたい。私立幼稚園は発達に課題がある子供や園の方針にそわない家庭の子供は門前払いです。シャットoutします。とくにおおたかの森や南流山のマンモス小では課題ありの子をもつご家庭は、子・親・先生も苦しい思いをするばかりです。ただこの幼稚園の先生方はスペシャリストかつ人員も私立園より充実している。だからゆとりある支援をこの園でうければ、大変なことがあってもみな苦しまずすむ次の成長にスムーズにステップアップできます。転園して、最寄りの園ではうけ入れしてもらえなかったのと、この幼稚園に入園した方の話も聞きました。流山市にパイプがない人や、強いパイプが必要な人が受け入れできる場所をうばってしまったら、市民は他の魅力的な市に引越してしまいます。長い歴史のある園です。基礎がしっかりしているので、ちゃんと現場に足を運び、良策をみつけてほしい！！	廃園に反対。もっと時間をかけて、良策を決定すべき。私立幼稚園は発達に課題がある子供や園の方針にそわない家庭の子供は門前払い。附属幼稚園は長い歴史と基礎があり、人員も充実している。現場に足を運び、良策をみつけてほしい。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
114			<p>廃園に反対です。 S35年に江戸川台に越してきて以来、この地に愛着を持ちくれています。 娘2人、孫3人、ひ孫2人あの場合で幼児教育を受けました。 流山町立江戸川台小学校附属幼稚園から流山市立江戸川台幼稚園、流山市幼児教育支援センター附属幼稚園と位置付けや名称が変わっても、創立当初から受けつがれている流山の幼児教育は、これからも継承していただきたいと思ひます。 公立幼稚園は文部科学省で定められている幼稚園教育要領に遵守した教育が行なわれています。 公教育、流山で唯一残っているこの場合は重要で大切にしなければならないと感じます。 私立幼稚園も流山市の幼稚園教育を担っていることは重々感じていますが、建学の精神に基づき、それぞれ独自の教育をしています。そして私立幼稚園は県の所管なのではないですか。 幼児教育支援センターの充実が書かれていますが、このセンターの研究成果の実践と本市全体への還元という先導的な役割を実現するための園をなくすことは正しい選択とは思いません。 その役割がはたせるようにするにはどうしたらよいか前向きに考えていただきたいと思ひます。</p>	<p>廃園に反対。公立幼稚園は文部科学省の幼稚園教育要領に遵守した教育が行われているが、私立幼稚園は建学の精神に基づく独自の教育であり、所管は県なのではないか。 幼児教育支援センターを充実させるなら、その役割を実現するための園をなくすことが正しい選択とは思えない。</p>	<p>私立幼稚園においては様々な特色ある幼児教育の取り組みが行われていますが、幼児教育の根幹である、遊びと生活を通して人とつながること、遊びと生活を通して主体的に直接的な体験から学ぶことを保障していくということについては、国の方針でもあり、公立であっても私立であっても変わりありません。 また、令和5年度第4回流山市立幼稚園協議会においては、私立幼稚園代表の委員より、「廃園後の流山市の幼児教育は私立幼稚園に委ねてもらいたい」との発言もありました。 千葉県教育委員会が、「接続期のカリキュラム千葉県モデル」の実践を、本市の附属幼稚園のほか、県内の私立幼稚園や私立保育園においても実践しているように、市としましては、幼児教育支援センターにおける研究成果の実践や職員研修等は、私立幼稚園や保育園(所)において実践することも十分に可能であると考えております。</p>	無	
115-1		この様式！	<p>どのように回答すればよいのか全く不明ページ数が通し番号でない。「該当箇所」に何を書くのか。この狭い欄、意見の欄も狭い。一言で書くのか？広く意見を求めるのならわかりやすい様式にして下さい。</p>	<p>様式が分かりにくい。広く意見を求めるのならわかりやすい様式にしてほしい。</p>	<p>頂戴した意見については、より良い様式の在り方を念頭に市民参加推進担当課にも共有します。</p>	無	
115-2			<p>運営費の詳細を開示してください。 人件費が含まれるのであれば年々増加は当然 光熱費が含まれるのであれば日々のニュースになるほど高騰しています。 これが廃園にする理由に値するのか疑問</p>	<p>運営費の増加が廃園理由に値するのか疑問である。</p>	<p>運営費の詳細は、ホームページ(ページ番号1008311)から、予算・決算のページをご覧ください。 近年は、幼児教育の無償化や、保育ニーズの高まりなどにより、入園児が年々減少し、附属幼稚園における定員60人に対する、令和5年5月1日現在の園児の在籍数が、5歳児13人、4歳児9人の合計22人、定員充足率は36.7パーセントとなっている一方で、特別な配慮が必要な子どもの割合は増加しており、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。 このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。</p>	無	
115-3			<p>園児一人当たりの運営費予算を提示する必要があるのか目的がわからない。 むしろ、在園児に対して「200万も一年間に税金を使っている」と的はずれなパッシングもあると聞く。</p>	<p>園児一人当たりの運営費予算を提示する必要があるのか目的がわからない。</p>	<p>園児一人当たりの運営費予算については、附属幼稚園の財政状況の目安としてお示したのですが、一人当たりの経費は、財務状況の目安として一般的に用いられます。</p>	無	
115-4			<p>幼児教育の無償化等 ここにあげられているやむを得ないとするは予想出来たことである それに対して適切な対策を講じなかったことは教育委員会の重大な失策といえるのではないか。</p>	<p>幼児教育の無償化等は予想できたことであり、適切な対策を講じなかったことは、教育委員会の重大な失策ではないか。</p>	<p>附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。 令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。</p>	無	
116			<p>ようちえんがないといきれない。ようちえんはものづくりがなんこでもつくれる。ようちえんで日本の人じゃなくてももだちになれる。おはなしできない人でもおともだちになれる。エルマーのぼうけんとかながいおはなしでも一日ずつよんでくれる。</p>	<p>廃園しないでほしい。</p>	<p>附属幼稚園を大切に思っただけありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。 近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。 また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。 このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。</p>	無	
117-1			<p>公立幼稚園を「認定こども園」として存続を希望します。 文部科学省の定める「幼稚園教育要領」にのっとった幼児教育を実践しているのは公立幼稚園だけです。 我が家は子供3人と孫1人が江戸川台幼稚園の出身です。 公立幼稚園には親に見せるための鼓笛指導もプール指導もワークブックもありません。 子ども孫も行事やノルマに時間をとられることもなく幼稚園生活を、幼児ペースでのびのびと過ごすことができました。 教育要領にある幼児期に適した環境の中で、人として生きるのに大切な事を身につけることができましたと、心から感謝しています。 幼児期にあるべき環境の整った公立園を廃園にして、子を通園させたい親(市民)の選択肢を奪わないでください。 また、隣接の江戸川台小学校との連携行事も多く小学校への進学もスムーズでした。 「子育てするなら流山」のキャッチフレーズの実現のためにも教育委員会は江戸川台小学校・幼稚園・保育園が隣接した立地を生かして流山市の幼児教育の指導的役割を担い教育モデル地区として活用して欲しいです。 支援の必要なお子さんや日本語が堪能でない外国籍のお子さんの受入れも、公立園は重要な役割を果たしていると思ひます。</p>	<p>認定こども園として存続を希望する。 江戸川台地区は益々世代交代が進み、幼稚園需要が高まると予想される。 公立園は、支援の必要な子や外国籍の子の受入れに重要な役割を果たしている。</p>	<p>附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。 附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。 外国籍など、特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。 また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。</p>	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
117-2			公立園はそれらの対応のノウハウも私立園との研修会等を通して伝達してほしいと思います。流山市に住む支援の必要な子供たちは、どの園に行っても同レベルの教育が受けられるように公立園・私立園共に向上できるように教育委員会が中心になって発信していただけることを希望します。		幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
117-3			園児が減少したのは10年間も園の名称から「障害のある子供だけの施設」と思われているのを放置したからです。中学生になる孫娘が通園している時も、近所の方々から「どこか病気があるの?」と、何度も聞かれ気まずい思いをしました。今の公立園を、多くの市民が普通の幼稚園だと思っていないのです。	園児の減少は、園の名称から、多くの市民が普通の幼稚園だと思っていないことを10年間も放置したからである。	そのような誤解があるのご意見を踏まえ、幼児教育支援センターについては、今後、名称の変更を検討してまいります。	無	
117-4			最近、江戸川台地区では、空き家・空地に二軒の建売が目立ち、その建売に新紺屋ベビーのいる若い世代が越してきています。江戸川台地域は益々世代交代が進み幼稚園の需要が高まると予想されます。「認定こども園」になれば、この物価上昇の折、パートに出て家計を助けたいと思うママたちの受け皿にもなります。以上の理由から、公立幼稚園が「認定こども園」として存続することを切に要望します。	認定こども園として存続することを要望する。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
118			今回、廃園方針の説明会に参加ができませんでしたので話しの内容がわかりませんが、廃園をしないで頂きたいです。私の娘は、療育に通いながら、幼稚園に毎日楽しく通っています。以前は、他の園に電話し、園に通えるのか日々、片っ端から確認しては、「こちらでは、預かる事が難しい」と断られ、やっと思い出附属幼稚園が「大丈夫ですよ!」と引き受けてくれて、娘も附属幼稚園に通いたいと手や表現で表してくれました。今後、発達関係の子が増加すると思います。そして、子供達の笑顔や楽しさを奪っては、いけないと思います。幼保に通えない子が増えてもよいのですか? そんな事があっては、いけないのでは!! 先生達も、毎日、一人一人の子どもを見ていて「○○ちゃん、最近～がすごく上手になってきましたね」とか、本当に良く見て、お話しをしてくれています。長女や長女は、他園で通ってましたが、一人一人に寄り添ってなくて、ささいな事で気づき、お話しをしてくれませんでした。附属幼稚園だけが良くしてくれています。長々と文になり、まともには書いていないと思いますが・・・すいません。附属幼稚園は、今後長年ずっーとあるべきです。お願いします。	私の娘は療育に通いながら、毎日楽しく通っている。今後、発達関係の子が増加すると思う。幼保に通えない子が増えてもよいのか。廃園をしないでいただきたい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
119			存続を希望します。	存続を希望	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
120	資料3 1, 2		園児の中には他の私立幼稚園から入園を断られて附属幼稚園に来た子もいる。廃園後、そのような場合にはどこに受け皿はあるのか。幼児教育支援センターは今後入園相談があった場合、どの幼稚園を提案するつもりなのか。	私立幼稚園から入園を断られた子は、廃園後、どこに受け皿があるのか。入園相談では、どの幼稚園を提案するつもりなのか。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
121		廃園方針	予算案については全て机上の空論であり、人口が増えていく中での実情を直視していない。今後増加するであろう幼児の発育に合った少数の保育・幼稚園が存在しなくなるのは、未来を一切見据えておらず、既存の園で受け入れられなくなった子供たちの教育の場を一方的に奪っている。	予算案は机上の空論。既存の園で受け入れられなくなった子供たちの教育の場を一方的に奪っている。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。今後、幼児教育支援センターでは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
122			ようちえんはたのしいからなくないたくないです。	廃園しないでほしい。	附属幼稚園を大切に思っていたありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
123			ようちえんはなくなってはいけない！！ 工作もすきなだけできるし、たくさん先生がいるからいっしょに先生と遊んで、仲良くなれるから、お友達になれる人が子どもどうしだけではないからたのしく遊べる。 それにおもちゃもたくさんあるし、本だってすきな本をえらべる。それもいいところ！先生のよみかたがきやすかった。 園庭には、学校に行ってもとくいなことがあるようになるのか、少しハードなうんてい・かんたんなのぼりぼう・ブランコがあって、やっていたから1年生になって、うんていなどがすぐできた。 あと、バスではないから帰りに公園であそべた。 しかも、私はようちえんに行きたくなくてないいた私をばげまし楽しくしてくれていたから、なくなっちゃいや！！	廃園しないでほしい。	附属幼稚園を大切に思っていたありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
124-1		幼稚園協議会を5回傍聴して。	幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後のあり方を考える協議会であるのに幼児教育支援センター長、事務局として在席 附属幼稚園職員、保護者全5回を通して出席なし この協ギ会は附属幼稚園の実績と現状を理解されなまま進められたといえる。 協議会から教育委員会議のお知らせまでの日程10/13→10/19 答申 両論併記→廃園方針 この間に話し合われた日数、時間、出席者、内容 すべて公開すべき。 協議会の議事録にもあるように、「廃園の意見・理由」は確固たるものはない一方、存続、今の時代に見合う、認定こども園(幼保連携型こども園)等の意見は筋が通っており、うなづけるものであった。 この拙速な決め方は、「はじめから結論ありきですすめられたと疑られても仕方のないやり方ではないか。 協ギ会の議事録と共に配布されて資料も公開すべき。	協議会から教育委員会議のお知らせまでの間に話し合われた日数、時間、出席者、内容 すべて公開すべき。はじめから結論ありきで進められたと疑われても仕方のない。協議会の資料も公開すべき。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
124-2			先のH22.8.9の「幼稚園協議会」の答申を受け、教育委員会 執行部はどのような策を展開したのか。 この答申では、江戸川台幼稚園を廃園とし、新しく、幼児教育支援センター附属幼稚園として設置された附属幼稚園のあり方として「流山市内唯一の公立幼稚園として、これまでに果たしてきた役割を踏まえて、実践内容を発信し、他園の実践、研究に資するなど流山市全体の幼児教育の振興を図る また(仮称)流山市幼児教育支援センターの附属という特徴を活かしセンターの調査、研究を反映する実践を展開するなど先導的な取り組みを行う。」としている。 この答申を踏まえ、その後から今日にいたるまでの施策とそれに対する検証を明示してもらいたい。 この答申に記載されている附属幼稚園の役割を果たす為に適正な園児数の確保や時代に見合った保育形態を考察する等、努力すべきは教育委員会の責任である。 R5年の「幼稚園協議会」においてつけられた資料はここ数年の運営費の増加、園児数の減少、支援児の割合・・・このような資料ではなく、上記のような施策とそれについての検証を明らかにすべきではなかったのか。 今からでも遅くはない。必ず提示して下さい。 これなくして、附属幼稚園のこん後のあり方は議論できません。 尚 幼児教育支援センターについてもH22年の答申以降の動向について検証をし、明らかにして下さい。R5にしもんしておきながら自動的に継続になるのはおかしいのではないかと。	H22.8.9の答申から今日に至るまでの施策とそれに対する検証を明示してもらいたい。この答申を踏まえ、園児数の確保や保育形態等、努力すべきは教育委員会の責任である。平成22年の答申以降の動向を検証し、明らかにすべき。	本市では、平成23年5月20日付け流幼協第8号の答申を受け、本市幼児教育の中核を担い、幼児教育に関わる諸機関との連携を図る役割を果たすとともに、幼児教育研究室の実践を引き継ぎ、研究成果を本市全体に還元すべく、平成24年4月に流山市幼児教育支援センター及び附属幼稚園を設置しました。 幼児教育支援センターでは、家庭、地域社会の教育力向上を図るため、小学校や地域、公立私立の区分を超えた幼・保・学童等と相互に連携を図り、本市全体の幼児教育の充実や、子育て支援の機能強化に取り組んできました。 例としては、保幼小関連教育研究会の開催による職員の研鑽を図ったこと、「幼児期の育ちや学びを小学校教育につなぐ内容の一覧表」を作成し、市内の私立幼稚園や保育園において、それぞれの実情に応じた取り組みを実践し、小学校への円滑な接続に寄与したこと、教育相談による保護者や教諭の支援を行ったことなどが挙げられます。 また、附属幼稚園においても、設立当時から、遊びを大切にした教育の実践と市内幼児教育施設への公開、配慮を要する子どもへの支援の在り方の研究と実践を積み重ねてきました。 しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。 附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
125		流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針について	廃園方針に反対します。他者との繋がりが希薄化する今の時代、少人数で教員だけでなく保護者、地域の方々と一緒に子ども達の成長を見守る場所があるということは必要になるのではないかと思います。実際に、自分の子どもが通い、温かく見守られながら附属幼稚園に通って、今では江戸川台が大好きで安心して学校に通うことができている。「少人数」「コストがかかる」だけではなく、少人数でもしっかり子どもの成長する場を残す方針に切りかえていただくことを切望します。	廃園方針に反対。少人数でもしっかり子どもの成長する場を残す方針に切りかえるべき。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
126		ふぞくようち園のはいえん方針について	ふぞくようち園は、長い間、江戸川台にあったし、地いきの人や、通ってた人も園が大好きで、わたしも、通っていた時の、思い出がたくさんあります。だからみんなが、大好きな、ようち園をなくさないでください。	廃園しないでほしい。	附属幼稚園を大切に思っていたくださりありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
127			廃園反対	廃園反対	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
128			廃園反対！！過疎地区を作るな！	廃園反対	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
129-1		幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針 資料について	廃園方針に反対します。肺炎方針が出たと伺い、協議会の議事録も見ました。教育委員会議事録も見ました。先日の議会の様子も見ました。議員さんや委員の方は幼稚園の大切さを熱心にたくさんの情報を集めて訴えているのに、教育委員会は返答になっていない答えでした。地域の意見も丁寧に聞かず、強引に廃園へと進めるやり方に納得できません。子供たちに胸を張って伝えられる答弁をしてください。	廃園方針に反対。地域の意見も丁寧に聞かず、強引に廃園へと進めるやり方に納得できない。	今後も保護者の皆さまに対し、丁寧に説明してまいります。	無	
129-2			資料も見ましたが、幼稚園が何をやってきたのか、どんな幼稚園なのか載っておらず、情報が偏りすぎています。プラスな情報もマイナスな情報も平等に出すべきだと思います。情報を操作しているようにも感じます。	資料の情報が偏りすぎている。情報はプラスもマイナスも平等にだすべき。	本パブリックコメントにおける廃園方針に関する資料は、廃園方針決定までに特に重視した附属幼稚園の運営費と園児在籍数の減少に関する情報を参考として掲載したものです。	無	
130-1			廃園反対。廃園方針の「特別な支援が必要な子の増加により、幼児教育の実践と提供が困難」とは思えない。実際は園児一人ひとりと向き合い、大切にしている教育が行われている。(卒園児、在園児母) また、園は県に幼児教育モデル幼稚園として認められている。	廃園反対。特別な支援が必要な子の増加により、幼児教育の実践と提供が困難とは思えない。実際は園児一人ひとりを大切にしている教育が行われている。	附属幼稚園においては、園児一人ひとりを大切にしている教育を実践していますが、近年は、幼児教育の無償化や、保育ニーズの高まりなどにより、入園児が年々減少し、附属幼稚園における定員60人に対する、令和5年5月1日現在の園児の在籍数が、5歳児13人、4歳児9人の合計22人、定員充足率は36.7パーセントとなっている一方で、特別な配慮が必要な子どもの割合は増加しており、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。	無	
130-2			在籍数が少ないのは募集の仕方に問題がある。よって廃園を進める理由が不十分である。	在籍数が少ないのは募集の仕方に問題がある。	園児減少の理由について、市としましては、令和元年10月から実施された幼児教育の無償化の影響が非常に大きく、以降、近年の保育ニーズの高まりなど、多様化する保護者需要の変化と相まって、園児在籍数の減少が続いていると考えています。	無	
131			私はふぞく幼稚園で育ってきました。先生方は優しく、とっても楽しい幼稚園でした。幼稚園にいる人だれもがニコニコ笑顔の幼稚園でした。そんな楽しい幼稚園をはいえんするなんてひどいと思います。みんなが愛しているふぞく幼稚園なのに、はいえんはさびしい悲しいひどいです。地いきの方たちが「はいえんするな」といっしょうけんめい言っています。そのいっしょうけんめいな気持ちに対してどう思いますか？そのいっしょうけんめいな気持ちをしっかりうけとめて下さい。	廃園しないでほしい。	附属幼稚園を大切に思っていたくださりありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
132		附属幼稚園廃園に対して。	予算が厳しい事も、(少子化で)運営費がかかる事も理解できます。ただ、以前保育士(幼稚園で務めていた経験)から少し意見させて頂くと、支援を必要とされるお子さんはとても増えている、入園したくてもいくつも断られて、行くところがないと相談される事が年々増えています。入園しても入園前に説明してもらった内容以下に登園数が減ってしまったり、保育内容が薄くなったり・・・保育の現場の声をきいて頂き、当事者の保護者の声をきいてから結論を出して頂きたいです。 附属幼稚園に通う援助が必要なお子さんをもつ保護者の方からは、こんな行事に参加させてもらった、やかな事をした、など喜んでる姿を見て、免許を持っている身からすると、とても嬉しく、いつか自分も役に立てたらと感じます。しかし、そんな姿が見られなくなったり、そんな場がないとなると、保育者も人も離れていってしまうのではないのでしょうか。 廃園を止められないなら、もっと具体的に行き場の少ない子どもたちへの援助、支援を伝えて頂きたいです。お願い致します。 (なくすのは簡単かもしれませんが、残された人たちの事を少しでもいいので考えてください。。。)	支援を必要とする子はとても増えている。保育の現場の声、保護者の声をきいてから結論を出してもらいたい。 廃園を止められないなら、もっと具体的に行き場の少ない子どもたちへの援助、支援を伝えてもらいたい。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。 また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
133-1			廃園に反対いたします。流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針にある「特別な支援が必要な子供の割合の増加などにより、近年においては、これまでのような幼児教育の実践と提供が困難な状況となっています。」という表現は誤りで、実際の状況は園児一人ひとりに向き合い、大切にすることが実践されています。さらに、附属幼稚園は千葉県が推進する幼児教育のモデル幼稚園として認められています。教育委員会は保護者説明会や教育福祉委員会で、現在行われている充実した教育に関して肯定的な発言をしています。 このような実績がある中で廃園を進める理由が不十分であり、廃園方針の資料が市民に誤解を招く可能性があるため、早急に文章を訂正していただきたいと考えます。	廃園に反対。特別な支援が必要な子の増加により、幼児教育の実践と提供が困難という表現は誤りで、実際は園児一人ひとり大切にすることが行われている。	附属幼稚園においては、園児一人ひとりを大切にすることが実践されていますが、近年は、幼児教育の無償化や、保育ニーズの高まりなどにより、入園児が年々減少し、附属幼稚園における定員60人に対する、令和5年5月1日現在の園児の在籍数が、5歳児13人、4歳児9人の合計22人、定員充足率は36.7パーセントとなっている一方で、特別な配慮が必要な子どもの割合は増加しており、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。	無	
133-2			廃園に反対します。運営費の増大を廃園の理由としているが、実際には運営費の大部分は人件費であり、附属幼稚園の職員が他の施設に移動したとしても、市は引き続き職員に支払いを行う必要があります。したがって、私立幼稚園に補助されるとされている資金は、廃園によって浮いてこないと思われず。	運営費の大部分は人件費であり、廃園によって浮いてこない資金である。	特別な支援が必要な子どもを受け入れる私立幼稚園に対する職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助については、既にある補助との整合を図り、適切な制度を構築してまいります。	無	
133-3			さらに、私立幼稚園が支援児に対する加配職員を増やし、優秀な職員を確保するためには追加の補助金がかかります。この点を考慮せずに私立幼稚園への補助金を注ぐのは現実的でないと言えます。	私立幼稚園が優秀な職員を確保するための追加的な補助金を注ぐのは、現実的ではない。	特別な支援が必要な子どもを受け入れる私立幼稚園に対する職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助については、既にある補助との整合を図り、適切な制度を構築してまいります。	無	
133-4			また、廃園後の私立幼稚園に対する補助金額や教育方針について、教育委員会が具体的な計画を立てていないことも露呈されています。しかし私立幼稚園は県が管轄のため、流山市が教育費を担保するのは不可能だと思われず。 将来の方針を不透明なまま進めることは、浅はかな行動であると考えます。	私立幼稚園は県が管轄のため、流山市が教育の質を担保するのは不可能	私立幼稚園には建学の精神があり、各園においては様々な特色ある幼児教育の取り組みが行われています。しかしながら、幼児教育の根幹である、遊びと生活を通して人とつながること、遊びと生活を通して主体的に直接的な体験から学ぶことを保障していくということについては、国の方針でもあり、公立であっても私立であっても変わりありません。 また、流山市立幼稚園協議会においては、私立幼稚園代表の委員より、「廃園後の流山市の幼児教育は私立幼稚園に委ねてもらいたい」との発言もありました。 千葉県教育委員会が、「接続期のカリキュラム千葉県モデル」の実践を、本市の附属幼稚園のほか、県内の私立幼稚園や私立保育園においても実践しているように、市としましては、幼児教育支援センターにおける研究成果の実践や職員研修等は、私立幼稚園や保育園(所)において実践することも十分に可能であると考えております。 市内には、様々な規模の私立幼稚園や保育園(所)があり、その規模に応じたカリキュラムの実践も可能となるメリットがあることから、各私立幼稚園、各保育園(所)に対しては、その実践協力について、丁寧な説明を行ってまいります。	無	
134-1		廃園方針	幼稚園の廃園方針に反対します。 協議開始から廃園方針に至るまではたったの半年ほどです。短い期間で大切な幼児教育のことが議論できるはずがありません。そんな簡単なものではないはずですよ。 お金のことばかり書いてありますが、そもそも教育はお金がかかるものです。幼児教育は未来の先行投資であるべきです。幼児教育が大切だと言われているこの時代に公の幼児教育施設をなぜ放棄するのですか？	廃園方針に反対。協議開始から廃園方針に至るまではたったの半年ほど。短い期間で大切な幼児教育の議論ができるはずがない。なぜ幼児教育が大切と言われているこの時代に公の幼児教育施設を放棄するのか。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続や子ども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。 附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。 また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
134-2			そもそも3年保育が主流の時代に2年保育であること自体時代遅れで親の需要に合っていない。幼児教育支援センター附属幼稚園になってこれまでもずっと3年保育にする改革もせず放っておき、幼児教育充実を図らなかつたのか疑問しかありません。なぜ3年保育にもせず結論を急ぐのですか？	なぜ3年保育にせず結論を急ぐのか。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。 令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
135			はい園は反対です	廃園反対	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
136			お世話になったので	廃園反対	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
137		廃園の方針について	国全体で、子供を大切に育てようと、いろいろな対策が取られている中で、なぜ流山市は、子供の施設をなくそうとするのでしょうか？それは世の中の流れと逆のことではないでしょうか。この幼稚園には、孫に呼ばれて一緒に遊んだ楽しい思い出もあります。今では素敵な園舎に生まれ変わり、それをなくしてしまうのは、「もったいない」の一言です。行政として、今あるこの幼稚園を未来を創る子供達の為に生かしていくべきだと思います。	国全体で子供の対策が取られている中で、子供の施設をなくすことは、世の中の流れと逆ではないか。今あるこの幼稚園を生かすべき。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
138-1			現状、実態をきちんと把握したうえでの方針とは思えません。まず、2・3歳児を対象としたプレ保育をしているのに、このままでは利用している2歳児入園は叶いません。入園を希望している方がいた場合、とても不誠実で横暴だと感じます。また、私立幼稚園も定員割れしているのにあえて公立園を選んだ理由。在籍数が減っているのに支援を必要とする子の割合が増加している理由の中に公立園としての役割があると思います。そのニーズを正しく読み取り、具体的な対策を立てないかぎり、このような短期間で廃園を決めるのはおかしいと思います。	在籍数が減っているのに支援を必要とする子の割合が増加している理由の中に公立園としての役割がある。そのニーズを正しく読み取り、具体的な対策を立てない限り、このような短期間で廃園を決めるのはおかしい。	附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
138-2			私立園に対する補助も市内の9園全てが対象となれば運営費以上の金額になるのではないのでしょうか？このように納得できない内容の方針には賛成できません。廃園方針に反対します。	私立園に対する補助も運営費以上の金額になることもあるのではないかと。	特別な支援が必要な子どもを受け入れる私立幼稚園に対する職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助については、既にある補助との整合を図り、適切な制度を構築してまいります。	無	
139			廃園には反対です。市としての幼稚園は必要です！！	廃園に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
140			廃園には反対です。幼児教育の拠点として存続を希望します。	廃園に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
141		廃園方針	私の子供達3人はこの幼稚園の卒園生です。入園する前は送迎やお弁当作りがあって正直大変だと思いましたが、入園してみたら思ったよりもとても大変な事などなくて、親子共々楽しく過ごさせて頂きました。他の幼稚園ではないような遊びをしたり、先生方、保護者の方々との交流もあり自分の子供だけではなく、周りの子供達にも目が行き届くような幼稚園生活でしたので安心していました。なので廃園については反対です。このような幼稚園は時代が変わっていても残して欲しいと思います。	廃園反対。時代が変わっても残してほしい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
142			附属幼稚園の廃園方針に反対します。園児が減少しているとの事ですが、少人数だからこそできる保育、伸びる・伸ばせる力、心が落ち着く環境等があると思います。私は療育施設で働いていた経験があります。そこには療育に通いながら幼稚園に通いたいという方が多くいます。そして、幼稚園に通うことで発達が伸びている子どもが多くいます。その子ども、また保護者にとって、公立の幼稚園である附属幼稚園はとても大切な場所になっていると考えます。	廃園方針に反対。少人数だからこそできる保育がある。療育に通いながら幼稚園に通いたい子ども、保護者にとって、附属幼稚園はとても大切な場所になっている。	近年は、幼児教育の無償化や、保育ニーズの高まりなどにより、入園児が年々減少し、附属幼稚園における定員60人に対する、令和5年5月1日現在の園児の在籍数が、5歳児13人、4歳児9人の合計22人、定員充足率は36.7パーセントとなっている一方で、特別な配慮が必要な子どもの割合は増加しており、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
143		廃園方針について	附属幼稚園の廃園方針について反対です。流山市の人口増加率は全国の市の中で6年連続1位。その中でも30代の子育て世帯が最も多く増えていて、4歳以下の子供の数が増えているという現状があるにもかかわらず、なぜ市は子供の教育施設をなくそうとするのでしょうか？おたかの森の街を作り上げたノウハウをこの幼稚園にも活かし流山唯一の公立幼稚園として、市全域から安心して通えるようにする等、今あるものを最大限に活かしていくべきだと思います。卒園児の一人として幼稚園の存続を強く望みます！	廃園方針に反対。流山市は4歳以下の子供の数が増えているという現状があるにもかかわらず、なぜ子供の教育施設をなくそうとするのか。唯一の公立幼稚園として、市全域から通えるようにするなど、最大限に活かすべき。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続や子ども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公設だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
144			当該公立幼稚園廃園に反対いたします。理由は、障害者や外国籍の園児など「多様性」を受け入れてきた実績と特性を流山市は維持する余力があるからです。自閉症児の持つ豊かな色彩や盲目のピアニストなどマイノリティ自身が持つ強みもありますが、私は多様性と幼い頃から関わる経験、そしてそれが幼児教育のプロによって導かれる価値を強調します。これは私の人生が一つの好例です。なぜなら今最も多様性を重んじる世界的大企業が社員として私を迎え入れた私の人間性は、江戸川台幼稚園で出会ったハンディキャップを持つ友人とぶつかり、互いに互いを受け入れることを、正しく学んだ経験からスタートしているのです。そして私自身が、市や地域に受け入れられたという思いがあるからここに住み続けているのです。	廃園に反対。障害者や外国籍の園児など、多様性を受け入れてきた実績と特性を流山市は維持する余力がある。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
145			となりの保育園にいてよく遊びにしていたので、なくさないでほしいです。	なくさないでほしい。	附属幼稚園を大切に思っていたありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
146			幼稚園をなくさないでください。	なくさないでほしい。	附属幼稚園を大切に思っていたありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
147-1		幼稚園の廃園方針	1 園残して新しくなったのになぜたった10年で廃園にするのか。税金をかけて残した施設だからこそ、改革して活用すべき。私たちの税金を無駄にしないでほしい。	税金をかけて残した施設なのだから、改革して活用すべき。	附属幼稚園が廃園となった場合には、今後、幼児教育支援センターとして活用する予定です。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
147-2		その他	公立幼稚園が3園あったのに1園になったが公立幼稚園を知らない人も多い。宣伝不足。幼稚園の名称も子供たちの幼稚園なのに子供たちが覚えられない、子供たちにとって身近な単語が使われるべき。	宣伝不足で公立幼稚園を知らない人も多い。幼稚園の名称は、子供たちに身近な単語が使われるべき。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実施してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。幼児教育支援センターについては、今後、名称の変更を検討してまいります。	無	
148-1			廃園方針に反対。見直しを求めます。「幼児教育が成り立たない」と現場が言っているなら納得いきますが、現場に居ない方々が言っているだけ。様子見程度に来る人達が教育が成り立っているかどうかなんて判断できるはずがありません。附属幼稚園に通い1クラス28名だった娘も1クラス15名だった息子も小学校での集団生活・学習、何一つ不自由せず過ごしています。何事にも興味・関心を持ち、一生懸命に取り組む姿勢 友達大好き、先生大好き土台を作ってくれたのは、幼稚園の教育です。「幼児教育が成り立たない」は、全くの間違いです。子供達(卒園児)を見てから言って下さい。	廃園方針に反対。幼児教育が成り立たないは全くの間違い。	附属幼稚園においては、園児一人ひとりを大切にしている教育を実践していますが、近年は、幼児教育の無償化や、保育ニーズの高まりなどにより、入園児が年々減少し、附属幼稚園における定員60人に対する、令和5年5月1日現在の園児の在籍数が、5歳児13人、4歳児9人の合計22人、定員充足率は36.7パーセントとなっている一方で、特別な配慮が必要な子どもの割合は増加しており、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。	無	
148-2			廃園にした後に、支援センターが役割を果たすというようにおっしゃいますが、10年間機能していなかった支援センターが「これから～やります」と言っているはずがありません。できるなら、とくにやっていたはず。実績が残るはず。何もできなかった、やらなかったところを機能させることはそんなに簡単ではないはず。	10年間機能していなかった支援センターが簡単に機能するはずがない。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
148-3			特別に支援の必要な子供達、診断が付かないような子供達の入園を断っていた私立幼稚園に受入れをお願いする補助金を出すetc 特支児童を排除していた園や職員・教員達に、個に応じた(配慮)教育ができるとは思えません。数回の研修や詰め込みの知識だけで多種多様な子供達に合った教育はできません。今、附属幼稚園の先生方が担っていることを、何十年かけて培ってきたことを、突然私立幼稚園はできないと思います。受け入れるだけは、簡単でしょう。インクルーシブ教育を実践することは、そんな簡単ではないはず。これも、言うだけ、計画するだけは、一言で終わりですが、実践するのは現場。子供に直接対応する人達(教員)の意見をしっかりと聞いて下さい。年に数回数時間の訪問、参観で現場を見たつもりにならないで下さい。1日、年間を通しての現場を見て下さい。現場の教員、園児、保護者をしっかりと見ている方々なら、廃園などという選択肢は出てこないはず。何も見ず、出てくる数字だけ、紙面だけを見ている方々の会議や議論など なんの説得力もなく、無意味なものでしかないと感じています。	特支児童を排除していた園で、個に応じた教育ができるとは思えない。子供に直接対応する教員の意見をしっかりと聞き、現場を見てもらいたい。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
149			廃園の方針に反対です。二人の子が通園しました。同級生には日本語を話せない子がいたり、障害を持つ子がいたり。セーフティネットとしての機能もあると思いますが、それ以上に子どもたちにとって多様性を、思いやりを学ぶ素晴らしい教育の場であったと思っています。代わりとなるような所があるのなら、具体的にお示し下さい。「母になるなら、流山市。父になるなら、流山市。」それはどこにあるんですか？行き届いた幼児教育を期待します。	廃園方針に反対。セーフティネットとしての機能もあるが、多様性や思いやりを学ぶ素晴らしい教育の場であった。代わりとなるような所があるなら具体的に示してもらいたい。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
150			流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園に反対します。おおかかの森になる以前からの地元民です。おおかかの森は十分に発展しました。それはとても良い事です。私の子供が自閉症と診断され、私立の幼稚園では断われまくりました。そしてとても困りましたが、附属幼稚園に入園させてもらって、今はとても感謝しています。自閉症に限った事ではないかもしれませんが、小規模の施設を望む親、そして子供が必ず一定数存在している事を忘れてください。小規模で、ゆっくり、そして障害のない子供と、ふれあう事で、大人対子供では成立し得ない成長がある事を決して忘れてください。	廃園方針に反対。小規模の施設を望む親、子供が必ず一定数存在していることを忘れないでほしい。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
151-1			附属幼稚園の廃園に反対です。答申は廃園、存続の両方で出されているにもかかわらずなぜ、廃園となったのか、流れが不透明で納得できません。	廃園に反対。答申は廃園、存続の両方にもかかわらずなぜ廃園となったのか、流れが不透明で納得できない。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
151-2			12月12日の教育福祉委員会で、中曽根課長が令和5年1月17日に市長決裁があったと発言されました。これはどういう事でしょうか。	令和5年1月17日に市長決裁があったというのはどういうことか。	平成23年以降開催していなかった流山市立幼稚園協議会を開催することについて共有を図るため、令和5年1月18日に市長決裁を仰いだものです。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
151-3			又、廃園を令和7年度末と決めているのに、内容が全く決まっていない。十分な話し合いが行われたとは思えません。北野さんは附属幼稚を語る際、すぐに遊び中心の保育と口にしますが、本質を全く理解していません。	令和7年度末に廃園と決めているのに内容が全く決まっておらず、十分な話し合いが行われたとは思えない。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
151-4			更に廃園になった時の受け皿として市内の全私立幼稚園がOKしたと発言されました。そうやってノルマを課し、市はあたかもやっている風に見せる事は可能ですよね。私立幼稚園も努力していると答えば、誰も責められない訳ですよね。支援が必要な子を何だと思っているのですか。本当に失礼な話です。せつかくのインクルーシブ実践園、もっと誇りに思うべきだと思います。	廃園になった時の受け皿として、全私立幼稚園がOKしたと発言された。支援が必要な子を何だと思っているのか。	附属幼稚園を廃園とした場合に、全私立幼稚園が受け皿となるという趣旨の発言はしていませんが、特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
152			はいえんに反対します おとうのようちえんがなくなってしまうのはさびしいです	廃園に反対。	附属幼稚園を大切に思っていたありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
153			廃園に反対します。 ようちえんたいすき	廃園に反対。	附属幼稚園を大切に思っていたありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
154-1			私は幼稚園の廃園方針に反対です。 他の幼稚園に断られ、すぐの思いで附属幼稚園のプレに参加したら、唐突に廃園方針と言われ、この先、私の子供はどこへ行けば良いのか分かりません。	廃園方針に反対。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
154-2			時代のニーズに合わせた変化をするべきです。 給食・バス・3年保育、保育時間の見直しなど	給食・バス・3年保育など、時代に合わせた変化をするべき。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
154-3			<p>おおたかに何億もかけて学校を作るなら、少しほどの予算を幼稚園に使っても良いのでは？ その何億もかけて作った学校は、また附属幼稚園のように何十年後に廃校にするのですか 附属幼稚園がたくさんの子供の受け皿となっていて、私の子供も助けてもらいたかったです。少数は排除するのが市政ですか？ 少数を守るのが市政ではないのですか？ ちなみに野田は私立幼稚園は3園あるそうです。市で運営する大切さを知って下さい。</p>	<p>おおたかに何億もかけて学校を作るなら、少しほどの予算を幼稚園に使っても良いのではないかと。少数を守るのが市政ではないのか。</p>	<p>附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。</p>	無	
155			<p>私は幼稚園の廃園方針の見直しを求めます。附属幼稚園は他の保育園/幼稚園で入園を断られた方の実質的な受け皿となっています。廃園となった場合、少なくとも数の園児が代わりとなる保育園/幼稚園を見つけるのが難しくなると考えています。これは井崎市長の掲げられる「すべての子どもに質の高い教育を」という政策にも反するものであり見直しを強く求めます。</p>	<p>廃園方針の見直しを求める。附属幼稚園は他で入園を断られた方の実質的な受け皿となっている。すべての子どもに質の高い教育をという政策に反するものである。</p>	<p>特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。</p>	無	
156-1			<p>私は幼稚園の廃園方針に反対です。 ・他の幼稚園で入園を断られた子供の受け皿となっている。この幼稚園がなくなること居場所を失う親子がいることをわかっていただきたいです。</p>	<p>廃園方針に反対。他の幼稚園で入園を断られた子供の受け皿となっている。</p>	<p>特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。</p>	無	
156-2			<p>・廃園以外の改善策として、小規模保育園卒園児の入園先(預り保育)として運営する等を考えて頂きたいです。 ・「母になるなら流山」と言うなら、この幼稚園を必要とする親子の声を聞いて頂きたいです。</p>	<p>小規模保育園卒園児の預り保育としての運営等を考えてもらいたい。</p>	<p>附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。</p>	無	
157-1	廃園方針		<p>園の廃園に反対します。 理由:政府がかかげる「異次元の少子化対策」は国家を存続させるうえで非常に重要であり、要の施策と考えます。 その少子対策の柱として教育の選択肢拡充は欠かせないものと考えます。様々な背景を抱える親や子どもが自らの意思で教育機関を選択できることは素晴らしい仕組みであり、今後より一層の拡充が期待されるものと考えます。 そのような中、附属幼稚園の位置づけは幼少期の教育において私学だけでは成しえない公教育としての重要な営み(セーフティネット等)を担っており、廃止どころか拡充の策をとるべきと考えます。</p>	<p>廃園に反対。附属幼稚園の位置づけは幼少期の教育において、私学だけでは成し得ない公教育としての重要な営み(セーフティネット等)をになっており、廃止どころか拡充の策をとるべき。</p>	<p>附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。</p>	無	
157-2			<p>・協議会や12月7日の議会答弁等、すべて確認させていただきましたが、今回の議論の進め方は極めて雑と言わざるを得ません。協議会メンバーの選定から、とりまとめ、答申案に至るプロセスも不透明であり、答申案の策定に至っては植田議員の度重なる質問にも明確な回答をしておらず、不誠実といわざるを得ない答弁を繰り返されたことは非常に遺憾です。 教育委員会や市政への不信感が募るばかりのプロセス・答弁であったことに当機関は自覚がないのかはなほ疑問に感じます。</p>	<p>今回の議論の進め方は極めて雑と言わざるを得ない。教育委員会や市政への不信感が募るばかりのプロセス・答弁であったことに当機関は自覚がないのかはなほ疑問に感じる。</p>	<p>本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。</p>	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
157-3			・そもそも12月7日の議会答弁について、植田議員の主張、論旨は教育者の代弁者たる教育委員会から市政に向けられるものではないかと感じます。なぜ、教育者の長があのような答弁をされるのか違和感を感じます。公教育の機関として附属幼稚園が担ってきた功績やこれから先に考えられる幼少期教育の多様性(子供の状態や親の選択権)に対応するためにも当園は必要不可欠であり、廃止どころか拡充の道を模索するのが教育機関として推進すべく態度と考えます。上記を踏まえ、教育委員会・関連各部の関係者にて再度、熟慮されることを強く望みます。	これから先に考えられる幼少期教育の多様性(子供の状態や親の選択権)に対応するためにも当園は必要不可欠。再度熟慮されることを強く望む。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
158			現在、江戸川台小学校の校長先生が元幼稚園の園長先生ということですが、無くす事が前提の天下りのようなものか？ つながりを大切にしたいものだと思っていたががっかりした。見直しを求めます。	江戸川台小学校の校長先生が元園長先生というのは、無くす事が前提の天下りのようなものか。見直しを求める。	現在の江戸川台小学校の校長が附属幼稚園の園長であったことと、附属幼稚園の廃園方針の決定は無関係です。	無	
159			おおたかばかりですか、見直して下さい。	見直してもらいたい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
160			もう少し地域の事も考えて、見直して下さい。	地域の事も考えて見直してもらいたい。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続します。今後も、地域の皆さまの協力を得ながら、本市全体の幼児教育の発展と質の向上に努めてまいります。	無	
161			子ども達の為にも見直して下さい。	見直してもらいたい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
162			なくさないで	なくさないでほしい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
163			なくさないでください	なくさないでほしい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
164		1ページ目21行目 市内の幼稚園における定員充足率から～	実際に流山で受給者証を持っていて保育園にも幼稚園に所属していない子供たちがどの位いるか把握していますか？我が家も2年前はそうでした。働いて居ないから保育園行けないし幼稚園に断われ入れなく、療育施設に頼る方が多く居ます。その方たちを全員を私立幼稚園に受け入れてもらうのは、現実的に無理だとも思います。廃園にするまえに、私立幼稚園の先生方の支援が必要な子供への保育の指導をして、受け皿を作ってから廃園にしなければ、ますます、保育園や幼稚園に所属しないで、小学校に行く子供がふえると思います。(今は、楽しく幼稚園生活をしています。) また、いくら加配の補助をしたとしても、1人に1人はつけられないので、放置される子供が出てしまいます。その時にお友達たちがフォローをしてくれるこの幼稚園は必要だとも思います。	流山で受給者証を持っていて保育園にも幼稚園にも所属していない子供たちがどの位いるか把握しているのか。受け皿を作ってから廃園にしなければ、ますます保育園や幼稚園に所属しないで小学校に行く子供が増えると思う。いくら加配の補助をしても、放置される子供は出る。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。 また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
165-1			暖かみのある幼稚園で無くしてほしくないです。	なくさないでほしい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。 しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
165-2			入園している園児が相当数いるので、廃園にするのはまだ早いと感じます。無くすより、維持する努力を	無くすより、維持する努力を。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。 しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
165-3			ほくは江戸川台小学校にかよっているせいとなのでたりのようちえんたしかに人数すくないかもしれないがねっきのある幼ち園なのでなくなってほしくないです。	なくさないでほしい。	附属幼稚園を大切に思っていたいただきありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。 近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。 また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。 このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
165-4			そこをとおすぎる時、楽しそうな遊具やときどき楽しそうなえんじがいたのでなくすことはこどもたちにしつれいだと思います。	なくさないでほしい。	附属幼稚園を大切に思っていたいただきありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。 近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。 また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。 このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
165-5			えんじはそこちようちえんがすごくきにいてると思います。なのでやっぱりなくすとだめだとも思います。つるは千年かめは万年みたいにじゅみょうが長い方がいいいんじゃ！（たとえ人数が少なくても）	なくさないでほしい。	附属幼稚園を大切に思っていたいただきありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。 近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。 また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。 このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
166			これから人が増えていくと思うので、廃園方針に反対です。	廃園方針に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。 しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
167		廃園方針	私は幼稚園の廃園方針に絶対反対です。資料に「これまでのような幼児教育の実践と提供が困難な状況となっている。」と書かれてありますが、その根拠は何なのか、全く示されていません。園のそばを通りすがって日常の様子を見たときは、子ども達は生き生きと活動しています。人数は少ないですが、幼児教育が実践されていないようには見えませんでした。どんな姿を根拠に困難な状況といっているのか、全く分かりません。公立幼稚園は、文科省が示した教育要領に沿って教育を行っています。国が教育の土台として考えている幼児教育を実践する場です。先生方は夏休みも研修に出かけ、年に2から3回、園内で研修をしていると公立幼稚園に勤務する友人から聞いています。幼児教育に真摯に向き合っている証拠です。このような学ぶ意欲の高い先生方がいる幼稚園を廃園にしてしまうことは、流山市にとって非常にもったいない話です。何より最初の「これまでのような幼児教育の実践と提供が困難な状況となっている。」が真実でないとしたら、間違ったことを市民に示したパブリックコメントになります。こういう状況で廃園方針が出るのは間違っています。真実であるなら、幼児教育の実践と提供が困難である具体的根拠をお示ください。	廃園方針に絶対反対。これまでのような幼児教育の実践と提供が困難な状況となっているその根拠が全く示されていない。これが真実なら、具体的根拠を示してもらいたい。	附属幼稚園においては、園児一人ひとりを大切にすることを実践していますが、近年は、幼児教育の無償化や、保育ニーズの高まりなどにより、入園児が年々減少し、附属幼稚園における定員60人に対する、令和5年5月1日現在の園児の在籍数が、5歳児13人、4歳児9人の合計22人、定員充足率は36.7パーセントとなっている一方で、特別な配慮が必要な子どもの割合は増加しており、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。	無	
168-1			幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園を見直してください。 ①附属幼稚園の人数が減ることは、市は予想していなかったのか。私立幼稚園は3年保育、そして無償化が始まりました。世の中は共働きの世帯が増え、子どもたちは幼稚園入園より先に保育園に行くことが多いです。そんな状況で、附属幼稚園の人数が減ることは予想ができていて、そこに対して、市は何か手を打ったのですか？のびのびや預かり保育は市が主導で動いたのですか？聞くところによるとそれは幼稚園が進めていたようですが…。だとするならば、これだけお金をかけて作った施設を有効活用しないまま、つぶすということになります。それこそ、税金の無駄遣いのように思います。	廃園を見直してもらいたい。附属幼稚園の人数が減ることを市は予想していなかったのか。市は何か手を打ったのか。これだけお金をかけて作った施設を有効活用せずにつぶすのは、税金の無駄遣いだと思う。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実施してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、今後も園児の減少が止まらないのが現状です。なお、附属幼稚園が廃園となった場合には、今後、幼児教育支援センターとして活用する予定です。	無	
168-2			②幼稚園には特別な支援を要するお子さんが少なくないようです。私立の幼稚園は受け入れを必ずすると約束したのですか？入れて、卒園までその子に見合った教育をすると約束したのですか？そういう教育ができる先生方はもうすでにいるのですか？それらが口約束ではなく、はっきり文書で確約していないうちに廃園へ向かうのは、不安材料でしかありません。決まっていないのであれば、絵に描いた餅状態です。 ①、②に明確な答えを市民に出せないのであれば、廃園方針は一度やめて見直しをするべきです。	私立幼稚園は、特別な支援を要する子の受け入れを約束したのか。受け入れる環境はあるのか。ないのなら、廃園方針は見直すべき。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
169-1			廃園に反対いたします。附属幼稚園の先生方は長年にわたり培ってきたスキルがあり、これを無駄にするのはもったいないです。スキルは現場で磨き続けることが重要であると考えます。また、私立幼稚園に入園を拒否された支援児を受け入れている附属幼稚園は、定型発達児や支援児に対して一人ひとりの個性に向き合い、大切にすることを提供しています。年間を通じて多くの研修を実施し、実践と研鑽を重ね、インクルーシブ教育の先鞭をつけてきた実績があります。千葉県の教育機関からは、附属幼稚園の実践例が取り上げられ、千葉県が推進するモデル幼稚園として認められています。これほど素晴らしい実績を持つ附属幼稚園を失うことは、流山市の公幼児教育を大きく後退させることとなります。附属幼稚園をこれからも継続して存続させていただきたいと強く願っています。	廃園に反対。附属幼稚園の教諭のスキルを無駄にするのはもったいない。千葉県が推進するモデル幼稚園としても認められている園を失うことは、流山市の公幼児教育を大きく後退させることになる。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続や子ども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
169-2			教育委員会に幼児教育の専門的な人がいなさそうなので招致してみたらどうでしょうか？	教育委員会に幼児教育の専門家を招致しては。	教育委員会には、園長経験者が学校教育研究指導員として勤務しております。また、大学教授等の有識者にご意見いただきながら、今後も幼児教育支援センター事業の充実と関連機関との連携体制を構築していきます。	無	
169-3			中長期の教育プランに対して担当部署職員が数年で異動など入れ替わってしまうのは、計画の連続性の担保や責任の所在があいまいになってしまうのでは？	担当部署職員が数年で入れ替わることは、計画の連続性や責任の所在があいまいになる。	市の組織において、担当部署職員の異動はやむを得ないと考えますが、計画の連続性や責任の所在等は担保されているものと認識しています。	無	
169-4			廃園の方針に反対いたします。これは市長が教育長と総合教育会議を通して対話がなされていないことに基づくものです。流山市唯一の公立幼稚園に関わる存続は極めて重要な問題であり、これについては公に話し合うべきです。12月の福祉教育委員会においては企画政策課職員により、廃園の方針は重要な事項に当たらないとし、また市長と教育長の廃園の方向性が既に一致しているとの見解が示され、そのために総合教育会議を開く必要性が低いとされました。しかしこれは疑問視されるべきであり、市長と教育委員会が独立しているにも関わらず、非公式な形で廃園の方針について合意することは適切ではありません。市長は公に開かれた総合教育会議で教育長と対話すべきだと考えます。また、市長が11月下旬に市内の私立幼稚園を視察している一方で、附属幼稚園には未だ視察に訪れていないという事実が浮かび上がっています。廃園を検討している附属幼稚園の先生方の声を聞き、子供たちの様子を見ることは、大きな決断をする前に必要なことであると考えます。	廃園方針に反対。総合教育会議を通して対話がなされていない。市長と教育委員会が独立しているにも関わらず、非公式な形で廃園の方針について合意することは適切ではなく、市長は公に開かれた総合教育会議で教育長と対話すべき。	パブリックコメント手続の結果、当初の廃園方針(案)からの修正は無いことから、教育委員会と市長の方向性は一致しており、改めて協議・調整する必要は無いと考えています。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
169-5			廃園に反対します。附属幼稚園の入園児数が年々減少しており、この状況に対して教育委員会はニーズ調査を実施し、課題を見つけて適切な対応をするべきです。また、附属幼稚園を広く周知するための活動が不十分です。加えて、附属幼稚園のホームページの内容が不足しており、最低限私立幼稚園の水準まで充実させていただきたいと考えています。	廃園に反対。入園児の減少について、教育委員会はニーズ調査を実施し、適切な対応をすべき。ホームページの内容を含め、周知が不十分。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
169-6			さらに、広報に掲載される願書募集案内では私立が先に掲載され、附属幼稚園が後日になっていくことが問題です。これが私立を優先している印象を与え、公平性が欠如していると感じています。公正な取り扱いを求めます。課題に取り組んで結果を見てから今後の方針を検討すべきだと考えます。	広報の願書募集案内について、附属幼稚園が私立幼稚園よりも後であることが問題。	これまでも同様の時期に掲載しており、附属幼稚園の園児募集に関する記事を、私立幼稚園の記事と同日の広報がなげやまに掲載することが、附属幼稚園の園児の増加につながるという認識はありませんでした。	無	
170			私は廃園方針に反対です。	廃園方針に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
171			私は幼稚園の廃園方針に反対です。子ども達が集まってくるので、町の活気になると思うからです。小規模ながら 素晴らしい設備と思うからです。	町の活気になるし、小規模ながら素晴らしい設備だから廃園方針に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
172-1			廃園方針には大反対です。突然出てきたこの話は、保護者、卒園生、OB、保育士、地域住民、幼児教育に関わる方など、みなさんがショックを受けています。あの地域一帯には、江戸川台小学校があり、学童クラブがあり、江戸川台保育所があり、ちょっと歩けば児童センターもあり、ここまで施設がそろっているのは、全国的に見ても珍しいのです。「これだけ揃っているものを流山市は持っている、国が持とうと思っても持てない施設をなぜ無くすのか」と幼児教育に関わる方からのご意見もいただいています。幼児教育の拠点にこそ、ふさわしい園だというのは、教育長も認めました。それを、なぜ自ら手放すのですか。こんなもったいないことをするべきではない。教育委員会として、何が、子ども達にとって最良の結果となるのか、よく考えてください。こんなに急いで廃止の判断を下す必要はありません。	廃園方針に大反対。教育委員会として、何が子ども達にとって最良の結果となるのか、よく考えてもらいたい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
172-2			人件費がかかるのは、当然なのです、子どもの命を預かっているのですから。幼児教育とは人育てです、子ども達の教育をお金で図るべきではない、ここは削るところではありません。財政が厳しいというなら、白みりんミュージアムの建設なんてしなればばいい。維持管理費5000万円で、見込額600万円です、毎年赤字4000万円以上、ありえない！さらに、井崎ロードなんて、全く必要ありません。これで、市民の命と安全を守れるとも言うのですか。確実に、税金の使い方が間違っています。	子ども達の教育をお金で図るべきではない。財政が厳しいなら、白みりんミュージアムの建設をしなればばいい。	市としては、観光と教育を計りにかけることは困難と考えます。	無	
172-3			附属幼稚園の廃止は、4月の市長選挙マニフェストにもうたつてない、総合計画の実施計画にもない、学校教育部長の仕事と目標にもないものが、どうして浮上するのか。政治の私物化はやめていただきたい。千葉県、「接続期のカリキュラム千葉県モデルの実践協力幼児教育施設」に選ばれている園です。その園を無くしている場合ではありません、やるのが真逆です。幼児教育支援センターで研究したものを附属幼稚園で実践して、市内全域に発信する拠点にすべしだけの話です。私立の幼稚園が実践の場として、しっかり協力してくれる保証はあるのですか。私立には私立なりの幼児教育の方針が確立されているでしょう。	附属幼稚園の廃止がどうして浮上するのか。幼児教育支援センターで研究したものを附属幼稚園で実践して、市内全域に発信する拠点にすべしだけの話。私立幼稚園が実践の場として協力する保証はあるのか。	私立幼稚園には建学の精神があり、各園においては様々な特色ある幼児教育の取り組みが行われています。しかしながら、幼児教育の根幹である、遊びと生活を通して人とつながること、遊びと生活を通して主体的に直接的な体験から学ぶことを保障していくことについては、国の方針でもあり、公立であっても私立であっても変わりありません。また、流山市立幼稚園協議会においては、私立幼稚園代表の委員より、「廃園後の流山市の幼児教育は私立幼稚園に委ねてもらいたい」との発言もありました。千葉県教育委員会が、「接続期のカリキュラム千葉県モデル」の実践を、本市の附属幼稚園のほか、県内の私立幼稚園や私立保育園においても実践しているように、市としては、幼児教育支援センターにおける研究成果の実践や職員研修等は、私立幼稚園や保育園(所)において実践することも十分に可能であると考えております。市内には、様々な規模の私立幼稚園や保育園(所)があり、その規模に応じたカリキュラムの実践も可能となるメリットがあることから、各私立幼稚園、各保育園(所)に対しては、その実践協力について、丁寧な説明を行ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
172-4			また、私立は、支援の必要な子ども達の受け入れを拒否してきた実態があります。お金さえ渡せば受け入れが整う、そんな簡単な話ではないです、公立幼稚園の日常保育の現場をよく見ていただきたい。	私立幼稚園は、支援の必要な子どもの受け入れを拒否してきた実績があり、お金さえ出せば受け入れが整うという簡単な話ではない。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
172-5			人格形成の大事な時期です、支援が必要な子どもも一緒に分け隔てなく、のびのび過ごしている公立幼稚園は、素晴らしい園だと思います。小学校に上がってからも、偏見の目を持つことなく、みんな違ってみんなイイ精神で、子どもは他人を受け入れて育つでしょう。また、保護者が自分の大事な子どもを入園させる園の選択肢は減らさなくていただきたい。流山市教育委員会として、この施設を持っていることをもっと誇りに思い、「せめて実践研究の場として残したい」と言っていた、あの熱意を思い出していただきたい、と切に願います。	保護者の選択肢を減らさなくてもいい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
173-1			廃園方針に絶対反対です。要は「お金がかかるから廃園にする」としか受けとれません。「母になるなら流山」と言うなら、安心して子育てが出来る環境と体制を構築してほしいです。	廃園方針に絶対反対。お金がかかるから廃園にするとは受けとれない。	幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児の在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費(予算)は5年前の2.7倍の5,464万円にまで増加しており、このような状況にあって、附属幼稚園を継続していくことは、財政的負担の観点からも難しいと考えています。	無	
173-2			「幼児教育の無償化に伴い園児数の減少があり・・・」と書いてありますが 4・5才児を対象としている以上、3才から預けられる私立幼稚園に子どもが集中するのは当然です。	3才から預けられる私立幼稚園に子どもが集中するのは当然。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
173-3			又「特別な支援が必要な子どもの割合の増加により、これまでのような幼児教育の実践と提供が困難な状況・・・」とありますが、特別な支援が必要な子どもに手厚く出来るのが「公立」の役目ではありませんか？	特別な支援が必要な子どもに手厚く出来るのが公立の役目ではないか。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
173-4			以前、白みりんミュージアムに4億円の市税が投入?!とききました。それが今は7億円にふくらんでいるとか?!このことにお金がかけられるのであれば、大事な子どもたちの育成にもっと市税を使ってほしいです。流山市として質の高い教育・保育行政をしていくというポリシーを是非持って下さい!お願いします。	白みりんミュージアムにお金がかけられるのであれば、子どもたちの育成にもっと市税を使ってもらいたい。	市としては、観光と教育を計りにかけることは困難と考えます。	無	
174-1			廃園に反対します。私は江戸川台幼稚園の出身ですが、今回の廃園の方針を知ったのは先月です。そもそも廃園にすること自体を知らない人も多いのではないのでしょうか?知らない間にこっそりと廃園にしようとしていたのではないかと考えてしまいました。この廃園の方針を聞いて幼稚園のHPを開いてみましたがとても簡素なもので、正直本当に園児を集める気があったのかも疑問があります。江戸川台幼稚園から幼児教育支援センター附属幼稚園になった時もすでに公立幼稚園の廃園が進んでおり、園児の減少に対する問題に直面していたはずで、その時にどのような対策を考えていたのでしょうか?	廃園に反対。江戸川台幼稚園から幼児教育支援センター附属幼稚園になった時すでに、園児の減少に対する問題に直面していたはず。その時にどのような対策を考えていたのか。	園児減少の理由について、市としては、令和元年10月から実施された幼児教育の無償化の影響が非常に大きく、以降、近年保育ニーズの高まりなど、多様化する保護者需要の変化と相まって、園児在籍数の減少が続いていると考えています。附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
174-2			また幼児教育支援センターに変わってからどのように教育支援が充実していったのかも目に見えてわかるものがあつたのかも疑問があります。会議録を拝見するとともに幼児教育支援センターは公立、私立を連携して先導的な取り組みを行うために作られたとありますが、結局、連携はうまくいかず、園児の在籍数も減りつづけ、運営費だけが膨らんでいくという悪循環に陥っているのではないのでしょうか。また廃園にするにしても幼児教育支援センターで培ってきた知識や経験を市全体に生かすとのことですが、それは実際に園児が近くにいるからこそ様々な実践ができ、そこから教育に生かせるものであり、大人が頭の中で考えたところで実践できる場所がなければ大した教育の向上にはならないと考えます。現状私立幼稚園との連携ができていない以上、廃園することによって得る長期的なメリットは少ないと思います。素人の考えで申し訳ないですが、幼児教育センターは市の管轄、幼稚園の運営、は別の団体に任せることによって現代の保育ニーズにこたえていく道などを考えていただきたいです。	現状、幼児教育支援センターが私立幼稚園と連携することができていない以上、廃園することによって得る長期的なメリットは少ない。幼児教育センターは市の管轄、幼稚園の運営は別の団体に任せることを考えてもらいたい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
175			平素より、流山市の教育にご尽力いただき、心よりお礼申し上げます。件名について、要望いたします。今の公立幼稚園は、発達支援の必要な子ども達の受け入れもしている唯一の幼稚園です。その幼稚園が廃園になると聞いて驚いています。私立幼稚園から入園を断られたり、入園しても退園を促されたり、露骨に嫌な顔をされたり、といった実態があり、そういう子ども達の受け皿にもなっているのが、今の公立幼稚園です。発達支援の子どもも一緒に分け隔てなく、のびのび遊んでいる環境は、みんな違ってみんなイイ、という感覚を吸収できる、とても貴重な園です。小学校に上がったからも、偏見の目を持つことなく、子ども達は他人を受け入れて育つことだと確信いたします。是非、廃園をしないで、存続していただくよう要望します。	今の公立幼稚園は、発達支援の必要な子ども達の受け皿にもなっている唯一の幼稚園。皆が一緒に分け隔てなく遊ぶ環境は、偏見の目をもつことなく他人を受け入れて育つためにとても貴重な園である。廃園をしないで存続してもらいたい。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
176			意見：流山市幼児教育支援センター附属幼稚園は流山市にただ一つ残せた公立の幼稚園です。附属幼稚園は発達支援の必要な子ども達や外国籍の子どもの受け入れもしています。発達支援の子どもも一緒に分け隔てなくのびのび遊べる環境をなぜなくすのでしょうか。そこには違ったもの同士が互いを認め合い、尊重し合うということを学べる貴重な環境があると思えます。附属幼稚園の廃園には反対です。	附属幼稚園は発達支援の必要な子どもや外国籍の子どもの受入れもしている。違ったもの同士が互いを認め合い、尊重し合うことを学べる貴重な環境であり、附属幼稚園の廃園には反対。	附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。外国籍など、特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
177			母になるなら流山 このキャッチフレーズは、嘘ですか？私も母として廃園に反対です。発達支援が必要なお子さん、含めて幼児期は、大事な大事な基礎を作る時代です。公立だから出来る事が、たくさんあります。ひとりひとりを大切にしてください。みんな違います、違っていいんです。それを大事にできる流山市になってください。	廃園に反対。公立だからこそできることがたくさんある。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
178-1			ふぞく幼稚園の廃園には反対です。ふぞく幼稚園の旧態、江戸川台幼稚園を卒業して15年経ちました。幼稚園時代での友人とは今でも交流が続いています。これは紛れもなく、小規模で2年制というアウトホームな環境でのふぞく幼稚園ならではの教育があつたからだ強く感じています。また、のびのびとした環境で愛情たっぷり育ててくださった当時の先生方もとても印象深いです。確かに、短期的な見方をすればコスト面や働く親世代も増えて、2年制であることのデメリットも無視はできません。	廃園に反対。短期的にはコスト面や2年制というデメリットも無視できない。	幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児の在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費(予算)は5年前の2.7倍の5,464万円にまで増加しており、このような状況のにおいて、附属幼稚園を継続していくことは、財政的負担の観点からも難しいと考えております。また、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じていること等から、今後も園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
178-2			しかし、長期的な目線では新しい教育を提供する場所としてふぞく幼稚園の存在は欠かせません。他の保育園などで受け入れてもらえない子供たちの受け皿になったり、インクルーシブ教育の先駆けとなったりするなど、ふぞく幼稚園には未来の子供達の可能性が芽吹くための種まきをし続けていただきたいです。	長期的には他の保育園等で受け入れてもらえない子供たちの受け皿として、インクルーシブ教育の先駆けとして、附属幼稚園の存在は欠かせない。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
179-1			附属幼稚園の廃園方針に反対いたします。附属幼稚園は、千葉県が推進する幼児教育のモデル幼稚園の一つとして、個々に応じた丁寧な実践を積み重ねてきました。千葉県の幼児教育の水準を維持させるためには、研究と実践に取り組むことのできる附属幼稚園の存在は欠くことができません。これまで培ってきた知識とスキルは、他の私立幼稚園の実践にも還元されるべきものですが、単に財的資源や人的資源をスライドさせればよいものではなく、モデルとなる実践を積み重ねるためのシステムや環境は守り続けなければならないと考えます。	廃園方針に反対。これまで培ってきた知識とスキルは他の私立幼稚園の実践にも還元されるべきものですが、単に財的資源や人的資源をスライドさせればよいものではなく、モデルとなる実践を積み重ねるためのシステムや環境は守り続けるべき。	流山市立幼稚園協議会においては、私立幼稚園代表の委員より、「廃園後の流山市の幼児教育は私立幼稚園に委ねてもらいたい」との発言もありました。千葉県教育委員会が、「接続期のカリキュラム千葉県モデル」の実践を、本市の附属幼稚園のほか、県内の私立幼稚園や私立保育園においても実践しているように、市としましては、幼児教育支援センターにおける研究成果の実践や職員研修等は、私立幼稚園や保育園(所)において実践することも十分に可能であると考えております。市内には、様々な規模の私立幼稚園や保育園(所)があり、その規模に応じたカリキュラムの実践も可能となるメリットがあることから、各私立幼稚園、各保育園(所)に対しては、その実践協力について、丁寧な説明を行ってまいります。	無	
179-2			また、廃園方針決定までのプロセスには、十分な議論が尽くされたとは言えず、廃園ありきで進んできた経緯には疑問を持っております。これを機に、障害を持つお子さんを受け入れるための研修や環境整備、幼保小の連携の取り方についての議論を深めていくことを期待いたします。	廃園ありきで進んできた経緯には疑問がある。今後の議論に期待する。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
180		令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に、同園の在り方等について諮問し、同年10月、同協議会からの答申を踏まえ教育委員会議において、令和7年度をもって廃園とする方針が決定	公立幼児教育施設の存続を求めます。令和5年度流山市幼稚園協議会の答申には、存続・廃園の両方が示されていて、10月26日の教育委員会議事録を読んでも、委員の皆さんの関連な意見が出ておりました。現在、就学前教育の重要性が唱えられている中、江戸川台の公立の幼児教育施設を廃園とさせてしまうのは、いかがなものかと思っております。幼稚園の存続が難しいのであれば、こども園の設立等を求めます。小学校に入学するまでの子どもたちの育つ環境が、一人一人違いすぎていて、1年生のクラス運営が、コロナの影響もあるのですが、とても大変は状況にあるように見受けられます。附属幼稚園の今までの実績を生かし、幼稚園、保育園、小学校、学童の隣接する江戸川台の地で、流山市全体の幼児教育の充実を図る取り組みを期待しています。	公立幼児教育施設の存続を求め。就学前教育の重要性が唱えられている中、公立の幼児教育施設を廃園するのはいかがなものか。存続が難しくれば、こども園の設立等を求める。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
181-1			多くの市民の意見を聞いていくパブリックコメントの趣旨として、該当箇所という項目は、市民に分かりにくい。全体的な意見集約をした中で、担当課で振り分けるべき。	様式について、該当箇所という項目は市民に分かりにくい。	頂戴した意見については、より良い様式の在り方を念頭に市民参加推進担当課にも共有します。	無	
181-2			大気との交流を多く持っている幼稚園を排煙して、何をしようとしているのか。	地域との交流の多い幼稚園を廃園して何をしようとしているのか。	ご意見の要旨が地域との交流の多い幼稚園を廃園して何をしようとしているのかと仮定しますと、附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
181-3			5、464万円の市の負担という見解だが、福祉、子育て、教育部門からの人材配置や私立に対する加配等の補助を含めると、もっと税金がかかるのではないか。	関係部門からの人材配置や私立に対する補助を含めると、もっと税金がかかるのではないか。	特別な支援が必要な子どもを受け入れる私立幼稚園に対する職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助については、既にある補助との整合を図り、適切な制度を構築してまいります。	無	
181-4			白みりんミュージアムは最大で600万円の収益に対して、運営費は5、000万円ということ。幼稚園の廃園と相殺するのか。	白みりんミュージアム運営費と幼稚園の廃園を相殺するのか。	市としましては、観光と教育を計りにかけることは困難と考えます。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
181-5			幼児支援教育センターを充実するということが、実践できる付属幼稚園が無くなって私立に対する生きたアドバイスができるのか。	幼児教育支援センターを充実しても、実践できる幼稚園がなければ私立への生きたアドバイスができないのではないか。	私立幼稚園には建学の精神があり、各園においては様々な特色ある幼児教育の取り組みが行われています。しかしながら、幼児教育の根幹である、遊びと生活を通して人とつながること、遊びと生活を通して主体的に直接的な体験から学ぶことを保障していくということについては、国の方針でもあり、公立であっても私立であっても変わりありません。また、流山市立幼稚園協議会においては、私立幼稚園代表の委員より、「廃園後の流山市の幼児教育は私立幼稚園に委ねてもらいたい」との発言もありました。千葉県教育委員会が、「接続期のカリキュラム千葉県モデル」の実践を、本市の附属幼稚園のほか、県内の私立幼稚園や私立保育園においても実践しているように、市としましては、幼児教育支援センターにおける研究成果の実践や職員研修等は、私立幼稚園や保育園(所)において実践することも十分に可能であると考えております。市内には、様々な規模の私立幼稚園や保育園(所)があり、その規模に応じたカリキュラムの実践も可能となるメリットがあることから、各私立幼稚園、各保育園(所)に対しては、その実践協力について、丁寧な説明を行ってまいります。	無	
181-6			定員割れであるからこそ、配慮を要する幼児のサポートができ、私立の大規模幼稚園では、配慮が絶対かける差思うがどうか。	大規模幼稚園でもなく、定員割れとなっているからこそ、配慮を要する幼児のサポートができるのではないか。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
182		全体的に	大切な幼児教育を公的に支えないことに反対です。その中でもたった1つ残った公的な幼稚園をなくそうなんて、ひどい話です。関係の方々にお話を聞くと、障害児教育にすばらしい力を発揮されているとか。若い方の支えになっている場所を失くさないで下さい。これは他の私立の幼稚園では代替できないことです。	廃園に反対。幼児教育を公的に支えることは、他の私立の幼稚園では代替できないことである。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
183-1		廃園方針について	卒園生です。運営費の赤字というマイナス面だけが表に出ていて残念です。良い所を市民に伝えて下さい。隣の保育所や地域交流があり、あやとりやコマ回しを教えてもらいました。また国際交流でアメリカの高校生・先生と出会い英語に興味を持ち進路を決めるきっかけにもなりました。親同士も仲良くしていたので安心して過していたのだと今になって感じています。近所には児童館や公園もあります。社会人になった今でも先生に会いたい、遊びにいきたいと思える大切な場所をなくさないでほしいです。	運営費の赤字というマイナス面だけが表に出ていて残念。良い所を市民に伝えてもらいたい。	本パブリックコメントにおける廃園方針に関する資料は、廃園方針決定までに特に重視した附属幼稚園の運営費と園児在籍数の減少に関する情報を参考として掲載したものです。	無	
183-2			私達は古い園舎で過しましたが今ある園舎はどうなるのですか？	今ある園舎はどうなるのか。	附属幼稚園が廃園となった場合には、今後、幼児教育支援センターとして活用する予定です。	無	
183-3			隣の保育園との子ども園にするなど名前・形がかわっても残すことを考えてほしいです。今現在・この先通う子ども達にとってなくてはならない居場所を奪わないで下さい。どの子ども平等に過せますように願っています。そしてもし私が母になる時には、またこの幼稚園に通わせたいと思います。	隣の保育園との子ども園にするなど、残すことを考えてもらいたい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
184			廃園に賛成です。 一度作ってしまった公共施設や制度の廃止は当然、反対される方がいるとは思いますが、一人の納税者として、市が、税の正しい使い方として、費用対効果として、成果が民間により代替できるもの、または不適當なものについては是正されることは、正しい判断だと思います。附属幼稚園以外の公共施設についても、是正をお願いします。	廃園に賛成。費用対効果として、民により代替できるものについては是正は正しい判断。他の公共施設も是正すべき。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
185			この度、私の居住地近くの付属幼稚園の廃園が議論になっていることを知りました。長年、江戸川台に住んでいて江戸川台小学校、幼稚園、保育園があり私の子供もお世話になりました。聞くところによると園児数の減少がその理由とのことですが、しかし、「子育てするなら流山」といって若い世代を呼び込みながら子育てに必要なところをなくすのは市政の根本理念に反することです。しかも、発達障害を含む子供たちを育ててきた実績豊かな幼稚園を「幼児減で費用の節約」のためというのは短絡すぎるのではないのでしょうか。流山にはこのような優れた幼稚園があることを広く知らせて継続してほしいと願います。	子育てするなら流山といっって若い世代を呼び込みながら子育てに必要なところをなくすのは市政の根本理念に反することであり、幼児減で費用の節約のために廃園というのは短絡すぎるのではないかと。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
186			公立幼稚園存続を求めます。 運営費が5000万円かかるといいますが、私立幼稚園で受け入れられなかった子供達も受け入れられる公立ならではの対応。すてきじゃないですか。私立幼稚園は運営困難になったら、やめてしまうかもしれませんが。公立で子供と接しながら、子供達にとって最善の教育を市全体に広めてください。 「母になるなら流山」のキャッチフレーズを生かした行政をお願いします。 「幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針」は、撤回してください。	公立幼稚園存続を求め。私立幼稚園は運営困難になったらやめてしまうかもしれない。運営費が5000万円かかっても、私立幼稚園で受け入れられなかった子供達を受け入れるのは公立ならではの対応。廃園方針は撤回してもらいたい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
187			市内幼稚園の先導的役割を示しているとは思えない。廃園に賛成です。	廃園に賛成。市内幼稚園の先導的役割を示しているとは思えない。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
188			廃園に賛成です。	廃園に賛成。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
189			廃園に賛成です。	廃園に賛成。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
190			廃園に賛成します。	廃園に賛成。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
191			廃園に賛成です	廃園に賛成。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
192			廃園に賛成です	廃園に賛成。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
193	第2章		幼児教育支援センター機能の充実を実践する視点から、附属幼稚園は残した上で、流山市独自の教育ができる教育機関という位置づけにして活用すべきである。	附属幼稚園は残した上で、流山市独自の教育ができる教育機関という位置づけにして活用すべきである。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
194			流山市幼児教育支援センター附属幼稚園は、接続期のカリキュラム千葉県モデルプランとして県で五つの実践協力幼児教育施設に選ばれた幼稚園である。市長が掲げるインクルーシブ教育の始まりとしても誇れる役割を果たしている。しかし、ホームページを見るとあまり宣伝しているように見えないが、もっと大きく宣伝して集客すべきではないだろうか。保護者にヒアリングしても、「なかなかみつけれなかった」とか「やっと見つけた素晴らしい園」という声が多い。定員割れが大きな原因の一つなのであれば、しっかり宣伝をすべきで、その努力なしに廃園を決定するのは賛同できない。	もっと大きく宣伝して集客すべき。定員割れが大きな原因の一つであれば、しっかり宣伝をすべきで、その努力なしに廃園を決定するのは賛同できない。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。	無	
195			今回の定例会議会の一般質問を傍聴しました。そこで驚いた答弁内容がありました。現在、市立幼稚園が江戸川台、一つしかないと言うことです。「子育てするなら流山」と常磐新線が開通してから10年、若い世代を呼び込み、市立の幼稚園が各所に出来ていると思っておりました。然し、江戸川台に一ヶ所だけとは！！それも廃園にすると。確かに少子化が進んで、私立幼稚園も定数割れとのこと。少子化は私達の責任ではありません。経済優先の保守政権の長年の施策です。こんなことは、高等教育を受けている市長さん始め、教育にたずさわって、答弁をしている、部長さんたちも良くご存じでしょう！！若いお母さん達が安心して子育て出来る環境を作ることが市の役割の一つでもあります。納税者の一人として、いろんな答弁を聴いていると、市民の暮らしに目が向いていないことが多々あります。再度、唯一、江戸川台幼稚園を残し、増やす努力をして下さい。お願い致します。	市立幼稚園が江戸川台に一ヶ所だけということに驚いた。確かに少子化が進んで私立幼稚園も定員割れとのことだが、少子化は私達の責任ではなく、経済優先の保守政権の長年の施策。江戸川台幼稚園を残し、増やす努力をしてもらいたい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
196			幼稚園の廃園方針に反対します。現在小学生の息子は、前の居住地で私立幼稚園の年少クラスに通っておりました。月一回の発達支援センターでサポートを受けていたものの、大規模な私立幼稚園での集団行動になじまず、バスから降りてきた息子の連絡ノートには、できなかったことばかり書かれていて…親子でつらい時期を過ごし、最終的に流山市へ引っ越してきました。流山市の療育相談へ紹介状を持っていきましたが、息子は面談などの結果から、特別なサポートを受けることはできないのでこの附属幼稚園に通うなかで成長をみていきたいと思います。そのあと息子が附属幼稚園で過した2年間の成長は、親としても予想以上のものであり、先生方への信頼感と恵まれた保育環境の中で着実に一步一步育ったものだと思います。子どもの性格や行動タイプの特性だけではなく、親である私自身の気持ちや性格を理解して下さって親子に寄り添っていただける幼稚園の存在ははとて貴重であると思います。廃園方針の資料に記載されている課題は事実として確かにあると思いますが、唐突になくすという道ではなく、先生、子どもたち、保護者、地域のみなさん現場の声を聴きながら今後の見直しについて丁寧な検討をしていただきたいと思います。幼児期の子どもの経過がどうか、どう育っていくかということは、その子自身だけではなく、その家族や小学校以降に出会う仲間や先生、地域との関係性にも大きな影響を与えることだと思うので、この時期の間やお金という見方をせず、先を見通して想像して考えていただきたいと思います。	廃園方針に反対。子どもの性格や行動タイプの特性だけではなく、親の気持ちや性格を理解し親子に寄り添ってもらえる幼稚園の存在ははとて貴重。この時期の間やお金という見方で唐突になくすのではなく、今後の見直しについて丁寧な検討をしてもらいたい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
197-1			私は下記理由により廃園に反対致します。 (反対理由) 僅か10年程前に、市政方針として税金をたくさん使って真新しく改築された、伝統ある付属幼稚園を廃止方針と知り、今までどのような存続への努力をして廃園方針となったのか、流山市のホームページを見させて戴き、愕然としました。 3、4歳児を対象とした「のびのび」は、月3～4回だけの保護者と一緒の集まりで、在来児を対象とした預かり保育は火、金のみ。これでは今の保護者のニーズに向き合っているとは思えません。 約30年程前、市民からの要望によって、1年保育であった江戸川台幼稚園は2年保育になりました。1年保育ではと減少方向にあった園児の人数は、抽選をしないと入園できないほど増えた事実があります。現在、私立幼稚園は3年保育が当たり前なご承知の通りです。 「母になるなら流山」そう豪語して若い世代を呼び込んだのですから、公立の幼児の学びの場を絶対に廃止してはなりません。今の幼稚園を「3年保育」や「認定こども園」にするなどの議論をするべきではないでしょうか？	廃園に反対。 3年保育や認定こども園にするなどの議論をすべきではないか。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。 附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。 令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
197-2			「これまで同園が培ってきた幼児教育に関する知識や経験を受け継ぐ」と簡単に書いてありますが、どうやって受け継ぐのでしょうか？60年余りかけて、大切に培ってきたこの財産を受け継ぐことは、一度廃園にしてしまえば、困難なことであることは自明だと考えます。	これまでに同園が培ってきた幼児教育に関する知識や経験は、一度廃園にすれば受け継ぐのは困難ではないか。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。 今後、幼児教育支援センターでは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。	無	
197-3			「特別な支援が必要な子どもの割合の増加により、近年においてはこれまでのような幼児教育の実践と提供が困難」とも書いてありましたが、特別な支援が必要な子どもたちを受け入れることのできる貴重な公立幼稚園を無くそうとする市政の考えが全くわかりません。 私立幼稚園にお金を補助して受け入れを促すように書いてありましたが、今、なぜ付属幼稚園に集まっているのかという理由がわかっていないのではないのでしょうか？	特別な支援が必要な子どもが附属幼稚園に集まっている理由がわかっているのか。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。 また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
197-4			「幼稚園協議会の答申を踏まえ」とも書いてありましたが、そもそも幼稚園協議会は廃止を促したりはしていません。教育委員会の方々は胸を張ってよく検討したと言えるのでしょうか？	幼稚園協議会の答申を踏まえとあるが、そもそも幼稚園協議会は廃止を促したりしていません。教育委員会はよく検討したと言えるのか。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
197-5			在園児1人当たりのお金が高いというのは、人数さえ増えれば解決する問題です。目先の計算に捕らわれず、どうしたら在園児数が増えるのか、本気で考えて下さい。私は「認定子ども園」にすればすぐに園児は集まると思っています。実際、その横にある江戸川台保育所は入所できずに空きを待っていたり、遠くまで通っているということをよく聞きます。 今まで培ってきた幼児教育の実践を途切れさすことなく、将来を担う大切な人材を育成していくことは何物にも代えられない財産です。 「母になるなら流山」、この言葉の重みをよく考え、これからも声を大にして言えるよう、議員の先生方、宜しくお願い致します。	認定こども園にすれば、園児はすぐに集まると思っている。どうしたら在園児が増えるのか、本気で考えてもらいたい。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。 附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。 附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
198			市の方針に賛成します。附属幼稚園ができた当初の役割である先導的な取り組みが難しくなっている以上、その役割を終えた方が良くと思います。ただ、支援を要すお子様の受け入れ先については、市が責任をもって取り組むべきです。	廃園方針に賛成。先導的な取り組みが難しくなっている以上、その役割を終えた方が良く、支援を要する子の受け入れ先は、市が責任をもつべき。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。 特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。 また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
199			公立の幼稚園を流山市からまったく無くしてしまうのですか？考えられない事ですね！！	廃園に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
200			教育を金かかる もうからないで廃園にしないでほしい！！白ミリンミュージアムに何億もかけ毎年5000万円経費かかると聞いた それこそ税金のむだ！！市民のために税金使ってほしい	教育に金がかかる、もうからないといって廃園にしないでほしい。白みりんミュージアムこそ税金の無駄。市民のために使ってもらいたい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。市としましては、観光と教育を計りにかけることは困難と考えます。	無	
201			10年前に東部地域の東幼稚園が廃園され 流山市最後の公立幼稚園も廃園とは納得できません。発達支援の子どもも一緒に分けへだてなくのびのび生活できる環境は通っている子どもたちだけでなく皆が望んでいることです。「母になるなら流山市」市のキャッチフレーズのように幼児教育がムダなこと考えないでほしいです。	流山市最後の公立幼稚園廃園は納得できない。幼児教育がムダなこと考えないでほしい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
202			ぼくはようちえんがすきです。どうしてかと言うといろんなあそびができるし先生たちがやさしいからです。ようちえんをなくさないでください。	なくさないでほしい。	附属幼稚園を大切に思っていたいただきありがとうございます。楽しく通っていた幼稚園がなくなってしまうことは、とても悲しいことだと理解しています。近年、附属幼稚園に通っている園児の数は年々減少傾向にあり、園児たちが同年代の多様な子どもたちと関わり合うことが難しい現状となっています。また、その一方で幼稚園にかかる運営費が年々増加しています。このような現状から、これまでどおりの附属幼稚園の運営は難しいと判断し、附属幼稚園を廃園する方針を決定しました。	無	
203-1		廃園ありきのスケジュール	幼稚園協議会答申からパブリックコメント開始まで約1ヶ月とあまりに短期間で決定されようとしている	答申からパブコメ開始まであまりに短期間	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の今後の在り方について、流山市立幼稚園協議会より、令和5年10月13日付けで提出のあった答申を踏まえ、同月26日に開催された令和5年流山市教育委員会第10回定例会において、同園を令和7年度をもって廃園とする方針が決定されたことから、市民参加手続きとして本パブリックコメントを実施することとしたものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
203-2			問題をかかえる子供たちの行き場がなくなってしまう。私立幼稚園で対応できるのか？全く担保されてない状況でできると言われても納得できない。受け入れ体制が整うまで数年はかかるのではないかと思います。	私立幼稚園で問題をかかえる子供たちの対応ができるのか。受け入れ体制が整うまで待つべき。	附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
203-3			園児募集のやり方はまだまだ改善出来ると思う。色々やってから、それでも園児が集まらないとなった上ではじめて議論に上げるべき。	廃園の議論は、園児の募集方法を改善して、それでも集まらないとなつてからにすべき。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実施してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
204-1			公立幼稚園の存続を求めます。江戸川台地区がますますさびれます。	存続を求める。江戸川台地区がますますさびれる。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続します。今後も、地域の皆さまの協力を得ながら、本市全体の幼児教育の発展と質の向上に努めてまいります。	無	
204-2			廃園方針反対です。	廃園方針に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
204-3			廃園に反対です	廃園に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
204-4			存続を希望いたします	存続を希望。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
204-5			廃園理由が財政負担の増大をあげるのみで附属幼稚園の実績が無視されています。教育の観点からの総括が曖昧な廃園には、絶対反対です。	教育の観点からの総括が曖昧な廃園には絶対反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
205-1			廃園反対です。園児の減少・支援を必要とする園児の割合の増加が示されているが時代に逆行していると思う。	廃園反対。時代に逆行している。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
205-2			廃園に反対します。特別な支援が必要な子供達を守り、受け入れ、育てていかれる場所の1つとして、公立としての場所は必要！！今の場所の廃園から、なお一層の必要性を考えて下さい。	廃園に反対。特別な支援が必要な子どものために公立としての場所は必要。なお一層の必要性を考えてもらいたい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
205-3			廃園に反対します。量的なものにだけこだわり質的なものを排除する現社会に対し、真に大切にすべき健全者にもハンディーを背負った者にも幸せに生活できる環境をつくる為に市税が生かせる幼児教育の場を失ってほしくない。	廃園に反対。健全者もハンディーを背負った者も幸せに生活できる幼児教育の場を失わないよう市税を生かすべき。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
206			幼稚園廃園に反対です。私は生まれも育ちもこの江戸川台です。自分も子供達3人も皆、この幼稚園の卒園生です。いつもあたたかく、子どもの目線に立ってひとつひとついねいに指導いただきました。たくさんあそんで、たくさん愛情をいただいたことで、どの子供達も皆、社会人として頑張っています。先生方の心のこもったご指導に大変感謝しています。親として子育てで悩んだ時(卒業後も)にも、先生方に相談に行きました。あの場所に幼稚園があることで子ども●もホッととしても安心します。文教地区として、保育所、幼稚園小学校があるこの地区を大切に、地域で子育てできるモデル地区を大切にしていってほしいです。このままでは残すことがきびしいのであれば、子ども園にするとか3年保育をとり入れるとか、送迎バスを手配する、給食を取り入れるなど、子育て中の方々の意見を取り入れた取りくみをしていただきたいと思ひます。幼稚園はなくさないで下さい。おねがいします。	廃園に反対。このままで残すことが厳しいのであれば、こども園や3年保育など、子育て中の方の意見を取り入れた取り組みをしてもらいたい。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。	無	
207			私は幼稚園の廃園方針に反対です。子ども達が卒園生です。特に長男は、他地域から引っ越してきての幼稚園生活で心配しましたが、ベテランの先生も若い先生もおられ、安心して通わせることができました。親子で、楽しい時間を過ごせたと感謝しています。園バスがないことで、親は毎日先生と接することができ、通園の道とひととき大切な子どもとの時間だと思っています。周りに保育所、小学校があり、自治会との交わりもあります。いろいろな人達との関わりの中で成長できる恵まれた環境を崩さないで下さい。	廃園方針に反対。いろいろな人達との関わりの中で成長できる恵まれた環境を崩さないでもらいたい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
208	1		「母になるなら流山」と大々的にうたっているのに、十分な議論もせず簡単に幼稚園を廃園にしようとするのは、属人的でロシア、中国、北朝鮮とやっつて同じではないか。民主主義なんだから、広く市民の考えを汲みとって、よりベターな方針を打ち出すべき。そして必ずホームページの子育てのところに「母になるなら流山市」の中に不採算の公立幼稚園を廃園にしました。と必ず書くように！	民主主義なのだから、十分な議論の上、広く市民の考えをくみとって、よりベターな方針を打ち出すべき。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。	無	

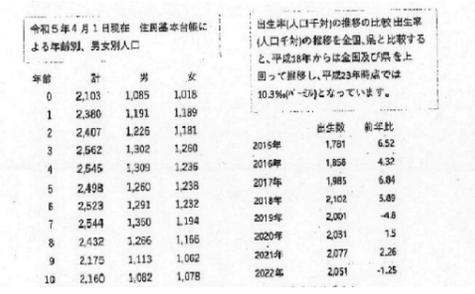
No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
209			廃園に反対します。	廃園に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
210			廃園方針に反対します。	廃園方針に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
211			附属幼稚園の廃園に反対します。	廃園に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
212			廃園反対です	廃園に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
213			財政的に大変だからといって、安易な廃園には反対です。となりの保育園とも協力して、認定子ども園として残した方が市としての姿勢としてはいいと思います。	財政的に大変という安易な廃園には反対。隣の保育園と協力し、認定子ども園として残した方がよい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
214-1	廃園方針		入園者数の減少と特別な配慮が必要な幼児が増えていることから、昨今全国的にも公立幼稚園の廃園が増えている時勢からも廃園については概ね賛成。	入園児減少、特別な配慮が必要な幼児の増加、全国的に公立幼稚園の廃園が増えている時勢から、廃園については概ね賛成。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
214-2	特別な支援が必要な子どもさん・外国籍のお子さん		近隣幼稚園で入園を断われ、又その保護者の不安が大きいようにも感じる。受け皿的な役割でなく療育が必要な子どもが安心して利用できる形で(子ども園、療育センター)残せないものでしょうか。療育センターつばさ、他にも特別な支援が必要な人、子ども達の居場所はどこも利便性の悪い場所に設置されている事が多いように感じる。附属幼稚園の設備も古くは無く、新しく江戸川台東口改装もあるので、垣根も低く、日当たりも良く、利便性も良い園舎がこのような子ども達、又一般開放も兼ねて閉鎖的にならない場所となれば地域住民も見守れて良いと思う。おたかの森や南流山で人口、子どもが増えればこのような子ども当然増えると思う。その時に該当児やその保護者が安心して生活できるような居場所づくり、市政をのぞみます。	療育が必要な子どもが利用できる形(子ども園、療育センター)で残せないか。そのような施設はどこも利便性の悪い場所に設置されているが、附属幼稚園の設備なら、日当たりも利便性も良く、地域住民も見守れる。子どもが増えればこのような子ども当然増えるので、該当児の居場所づくりを望む。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
215			私は幼稚園の廃園方針に強く反対します。他の幼稚園で入園を断られた子がたくさん通園しています。この先、廃園後にそのような幼稚園が本当に受け入れてくれるのか、「受け入れます。」と話しているのですか？これから交渉したり準備をしたりするのもかもしれませんが、そんなすぐに解決できると思えません。他の幼稚園もとても迷惑を感じていると思います。子供たちのことを一番に考えてください。	廃園方針に強く反対。他の幼稚園で入園を断られた子がたくさん通園している。廃園後、その園が本当に受け入れてくれるのか、他の幼稚園もとても迷惑を感じているのではないか。	附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
216-1		1附属幼稚園の廃園方針について	協議会の答申が廃園となる決定が短すぎます。学校を廃園にするのに決定してから審議が行われるのはおかしい。	協議会の答申から廃園決定までが短すぎる。決定してから審議が行われるのはおかしい。	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の今後の在り方について、流山市立幼稚園協議会より、令和5年10月13日付けで提出のあった答申を踏まえ、同月26日に開催された令和5年流山市教育委員会第10回定例会において、同園を令和7年度をもって廃園とする方針が決定されたことから、市民参加手続きとして本パブリックコメントを実施することとしたものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
216-2		1附属幼稚園廃園方針について	幼稚園では様々な組合みを行っていましたが、方針では全く記載されていません。何故廃園だけとなったのかの説明を求めます。	なぜ廃園だけとなったのか説明を求める。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。	無	
216-3		1附属幼稚園廃園方針について	園児1人当たりの経費を記載されていますが、子そたでの街としての必要経費としてのPRだと思えます。私立の定員になっていないとは関係ないと思いませんか、今の幼稚園での教育はとてもレベルの高いものだと思えます。廃園でなく、3年保育など未来のある方針に変えられるようお願いを求めます。	廃園ではなく、3年保育など未来のある方針に変えられるよう丁寧な議論を求めます。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
216-4		1附属幼稚園廃園方針について	在籍する子どもたちの行き場はどうするのでしょうか。在園児にすでに私立幼稚園でことわられた話もあります。	在籍する子どもたちの行き場はどうするの	令和6年度に入園する4歳児及び令和7年度に入園する5歳児が卒園した後に廃園とする方針です。	無	
217-1		児童減少について①	廃園方針に反対です。園児を増やす努力が市の姿勢から感じられません。プレ保育の告知はどのようにしましたか？	廃園方針に反対。プレ保育の告知はどのようにしたのか。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
217-2			私立より募集が広報にのるのが遅いのはなぜですか。幼稚園のことを知らずに困っている人もいるのでは。積極的に告知がまず必要。	私立より募集が広報にのるのが遅いのはなぜか。まず積極的な告知が必要。	これまで同様の時期に掲載しており、附属幼稚園の園児募集に関する記事を、私立幼稚園の記事と同日の広報がなげやまに掲載することが、附属幼稚園の園児の増加につながるという認識はありませんでした。	無	
217-3		運営費予算	予算が増加しているのはわかりますが、予算の使い方が間違っていると思います。みりんミュージアムや豪華すぎる新設小学校の校舎より、人を育てる教育の中身に予算をかけるべきではないでしょうか。	みりんミュージアムや豪華すぎる新設小学校の校舎より、人を育てる教育の中身に予算をかけるべきではないか。	市としましては、観光と教育を計りにかけることは困難と考えます。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
217-4		幼保小の連系と地域との関わり	保育園、小学校と隣接した恵まれた環境。地域の方の協力もある。この立地等をいかし、子ども園へ移行をまず考え実施に向けて協議していく必要があると思う。廃園はその後で考えるべき	まず子ども園への移行を協議する必要がある、廃園はその後に考えるべき。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
217-5		児童減少について②	同園は保護者送迎、お弁当持参、退園後の預りなし、2年保育と現在の他の幼稚園とはちがう体制が児童の減少につながる一因ではないか。現代にそぐした対応が増加には必要では。	児童の減少には、他の幼稚園のような現代に即した対応が必要ではないか。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
217-6		特別な支援が必要な子どもたち	支援員の加配に対する金銭的な補助をするならば、対した予算の減少につながらないのでは。子どもたちはこの幼稚園に通ったがひとりひとりを大切にしてくれ、温い目で見て育ててくれたとても良い環境だった。良い教育には予算をさいて質の高い教育をめざすのが市の方針である 学びに向かう力と自力する子どもを育むことにつながるのではないかと思います。	支援員の加配に金銭的な補助をするなら、大した予算の減少につながらないのではないか。良い教育には予算を割いて質の高い教育をめざすことが市の方針につながるのではないか。	特別な支援が必要な子どもを受け入れる私立幼稚園に対する職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助については、既にある補助との整合を図り、適切な制度を構築してまいります。	無	
218-1		附属幼稚園の廃園方針について	10月の流山市立幼稚園協議会の答申を踏まえて廃園するとの事ですが、答申は存続、廃園の両方が示されていて、廃園だけを示してはいません。わずか16日という短期間での決定は、いつ誰がどのように決定をし、その経緯を明確に説明するべきだと思います。廃園方針には断固反対します。	答申は廃園だけを示していない。わずか16日という短期間での決定の経緯を明確に説明するべき。廃園方針には断固反対。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
218-2		廃園時期について	在籍する子供達が行き場を失う事のない様配慮します。とありますが、具体的な受け入れ体制が出来てから、パブリックコメントを出すべきではないでしょうか？	具体的な受け入れ体制が出来てからパブリックコメントを出すべきではないか。	令和6年度に入園する4歳児及び令和7年度に入園する5歳児が卒園した後に廃園とする方針です。特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
218-3		プレ保育のびのびについて	プレ保育のびのびはいつ誰がどの様に取り組んだのか明確に説明するべきだと思います。のびのびについては園の先生方の取り組みだと知っております。	プレ保育のびのびはいつ誰がどの様に取り組んだのか明確に説明するべき。	園開放については、附属幼稚園が幼児や保護者同士の交流の機会を提供するため、平成28年から段階的に実施して参りました。令和元年度からは、プレ保育「のびのび」として2、3歳児を対象とし、園開放のみならず在園児との交流等活動を充実させてきたところです。	無	
218-4		幼児教育支援センターについて	ビジョンだけで具体的な実行案がない為、実現が可能な計画であるかの判断が出来ない。	ビジョンだけで具体的な実行案がない為、実現が可能な計画であるかの判断が出来ない。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
219-1		附属幼稚園の廃園方針について①	廃園方針に反対します。私が通っていた頃から子供1人1人を丁寧に見てくれている園でした。人数が少ないから教育が困難だとはいえないと思います のびのびとした1人1人に合った教育が続けているのではないのでしょうか。そういった取組みについても公表してください。幼稚園がなくなるなんて考えられません	廃園方針に反対。人数が少ないから教育が困難だとは言えない。教育の取組みも公表してもらいたい。	附属幼稚園においては、園児一人ひとりを大切にする教育を実践していますが、近年は、幼児教育の無償化や、保育ニーズの高まりなどにより、入園児が年々減少し、附属幼稚園における定員60人に対する、令和5年5月1日現在の園児の在籍数が、5歳児13人、4歳児9人の合計22人、定員充足率は36.7パーセントとなっている一方で、特別な配慮が必要な子どもの割合は増加しており、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
219-2		②	令和7年度末で閉園というスケジュールは急すぎだと思います。行き場のない子供たちの行き場所について具体的な計画が全くない状態で今の附属幼稚園と同じレベルの質の高い教育環境を用意することは難しいのではないのでしょうか。	子供たちの行き場所について具体的な計画がない状態で、質の高い教育環境を用意することができるのか。	令和6年度に入園する4歳児及び令和7年度に入園する5歳児が卒園した後に廃園とする方針です。特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
220-1		保育ニーズの高まり	保育希望の保護者が多くいるのなら、子供のために、施設を使った方がよい。13年しか経っていないし、きれいだし、木のぬくもりがあり、心が安楽ぐ。ひと学年でもふた学年でもよいと思う。	保育希望の保護者が多くいるのなら、子供のために施設を使った方がよい。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。附属幼稚園が廃園となった場合には、今後、幼児教育支援センターとして活用する予定です。	無	
220-2		私立幼稚園に対しての金銭的補助等	マンモス幼稚園に特別な支援を必要とする子どもが通園してはたして楽しいのでしょうか？子ども一人一人の個性が生みだされず押しつぶされるのでは…。親の考えも同様のことがいえると思います。	マンモス幼稚園に特別な支援を必要とする子どもが通園してはたして楽しいのか。個性が押しつぶされるのではないか。	附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
220-3		幼保小架け橋	良い言葉ですよ。でも実践にはどうでしょうか？職員(大人)だけの報告、連絡、相談の場だけに使われてしまい、すばらしい建物で園児が学べないのが残念です。先生と園児がいて建物も活用でき、公立幼稚園の良さがでてくるのではないのでしょうか。こじんまりとした幼稚園はたくさん親子で学べる場です。大切にしていきたいですね。	素晴らしい建物で園児が学べないのは残念。こじんまりとした公立幼稚園は大切にしていきたい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
220-4			公立幼稚園なのでもっともっと市でアピールをして行くべきだと思う。建設13年しか経っていないのに子どもに使わなくて何に使うの？市民の税金をムダに使わないで下さい。いつまでも大勢な子どもの遊んでいる姿がみたいです！	もっと市でアピールすべき。13年しか経っていないのに、子どもに使わなくて何に使うのか。	附属幼稚園が廃園となった場合には、今後、幼児教育支援センターとして活用する予定です。	無	
221			廃園しないで下さい。	廃園しないでほしい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
222-1		1廃園方針	幼稚園協議会答申を踏まえ廃園方針を決定したというが、答申は「存続と廃園の両論併記」である。廃園方針は、答申の趣旨を踏まえていないので見直しを求める。因みに、教育委員会・市議会一般質問・教育福祉委員会でもこの事に関する質疑が行われたが、何度聞いても教育委員会からの明確な答弁はなされていないと感じている。	廃園方針は、答申の趣旨を踏まえていないので見直しを求める。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会議で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
222-2		1廃園方針 2幼児教育支援センターについて	附属幼稚園を廃園した後の見通し・イメージが全く言及されていない。幼稚園の後はどのような施設になるのか、財政的な負担はどのようになるのか、支援センターはどこに行くのか等、全てが未定あるいは今後検討となっている。支援センターの今後についても概括的な内容で具体性がない。将来の展望が持てない廃園方針であり、見直しを求める。	附属幼稚園を廃園した後の見通し・イメージが全く言及されていない。支援センターの今後についても具体性がない。将来の展望が持てない廃園方針で、見直しを求める。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。今後、幼児教育支援センターでは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
222-3		1廃園方針	現状の附属幼稚園が抱える課題について、預かる年齢や時間等についての改善策を教育委員会が主導して行い、その評価をすべきであったと思う。そのような取組みをせずに、園児数の減少と財政負担の増大を示して、いきなり廃園というのは性急すぎるのではないかと考える。	附属幼稚園が抱える課題に対する取組みをせずに、園児の減少と財政負担の増大を示していきなり廃園というのは性急すぎるのではないかと考える。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
222-4		廃園方針決定に関する資料	本資料では、幼稚園を取り巻く「厳しい状況」だけを示し、附属幼稚園が積み重ねてきた実践の評価に全く触れていない。それでいて「これまでのような幼児教育の実践と提供が困難な状況」と決めつけているのは、一方的過ぎる考え方ではないだろうか。附属幼稚園が進めてきた接続期のカリキュラム開発は、県教育委員会も評価しているものであり、流山市の貴重な教育的財産といえる。またそれは、附属幼稚園(公立の幼児教育施設)において継承・発展されていくべきものと考えられる。	資料では、幼稚園の厳しい状況だけを示し、実践の評価に全く触れていないうえ、これまでのような幼児教育の実践と提供が困難な状況と決めつけるのは一方的過ぎる。附属幼稚園が進めてきた接続期カリキュラム開発は貴重な教育的財産であり、附属幼稚園において継承・発展されていくべきである。	本パブリックコメントにおける廃園方針に関する資料は、廃園方針決定までに特に重視した附属幼稚園の運営費と園児在籍数の減少に関する情報を参考として掲載したものです。近年は、幼児教育の無償化や、保育ニーズの高まりなどにより、入園児が年々減少し、附属幼稚園における定員60人に対する、令和5年5月1日現在の園児の在籍数が、5歳児13人、4歳児9人の合計22人、定員充足率は36.7パーセントとなっている一方で、特別な配慮が必要な子どもの割合は増加しており、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。また、同園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
222-5		廃園方針決定に関する資料	幼児教育支援センター及び附属幼稚園の施設は、北部(江戸川台)地域で最も新しい公共施設である。小学校・保育所・福祉会館等老朽化が進んだ施設が残され、新しいものが廃されるという何ともアンバランスな状態が生みだされようとしている。センターはこの地という話も聞かぬが、江戸川台の住人からすれば、地域と附属幼稚園で育んできた地域文化が失われることに違いはない。市が他地域と同様に北部地域も大切にしているという姿勢を示すためにも、附属幼稚園(公立の幼児教育施設)は存続されるべきものと考えられる。	市が他地域と同様に北部地域も大切にしているという姿勢を示すためにも、附属幼稚園は存続されるべきである。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続します。今後も、地域の皆さまの協力を得ながら、本市全体の幼児教育の発展と質の向上に努めてまいります。	無	
223-1			パブリックコメントとして意見を申し上げます。廃園方針に反対です。附属幼稚園の廃園方針が出されたことに驚いています。かつて市立幼稚園廃園の方針が出された時、多くの市民の反対意見があり、ただ一つこの幼稚園が残され、それは新しい幼稚園の在り方として期待されたものでした。しかしその園を突如廃園が決まられようとしていると聞き、まさかという思いです。 ①教育の問題は採算だけで決めることのできないものですが、この度の方針は税金が優先していると思えません。そうした発想が優先する市政になった時、高齢者や障害者の福祉、公共図書館などもどんどん対象が拡大します。	廃園方針に反対。教育の問題は採算だけで決めることのできないものだが、この方針は税金が優先していると思えない。	幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児の在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費(予算)は5年前の2.7倍の5,464万円にまで増加しており、このような状況のなかで、附属幼稚園を継続していくことは、財政的負担の観点からも難しいと考えております。附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案																																																																											
223-2			②今回の提案はせっかく流山市が先行して幼児教育の新しい試みをしてきた実績を踏まえたものになっていません。何が達成できて何が課題かが示されていません。	今回の提案は、流山市が先行してきた幼児教育の新しい試みについて、何が達成でき、何が課題かが示されていない。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無																																																																												
223-3			③答申には今後の様々な可能性についても触れられているのに、それに応えていません。廃園を検討するならば、他の在り方をも検討してからにすべきで、今急いで廃園に向かう必然性がありません。	廃園するならば、答申で触れられている様々な可能性についても検討してからにすべきである。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無																																																																												
223-4			④園児の減少といいますが、市の統計によれば、該当年齢の子供は急に減っているわけではありませぬ。出生者も横ばいで、「子育てするなら流山」と続けるなら増える可能性があるでしょう。	園児の減少というが、市の統計によれば、該当年齢の子供は急に減っているわけではないし、増える可能性もある。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実践してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無																																																																												
			 <p>令和5年4月1日現在 住居基本台帳による年齢別、男女別人口</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>計</th> <th>男</th> <th>女</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>0</td><td>2,103</td><td>1,085</td><td>1,018</td></tr> <tr><td>1</td><td>2,360</td><td>1,191</td><td>1,169</td></tr> <tr><td>2</td><td>2,407</td><td>1,225</td><td>1,181</td></tr> <tr><td>3</td><td>2,562</td><td>1,302</td><td>1,260</td></tr> <tr><td>4</td><td>2,545</td><td>1,309</td><td>1,236</td></tr> <tr><td>5</td><td>2,498</td><td>1,260</td><td>1,238</td></tr> <tr><td>6</td><td>2,523</td><td>1,291</td><td>1,232</td></tr> <tr><td>7</td><td>2,544</td><td>1,350</td><td>1,194</td></tr> <tr><td>8</td><td>2,432</td><td>1,296</td><td>1,136</td></tr> <tr><td>9</td><td>2,175</td><td>1,113</td><td>1,062</td></tr> <tr><td>10</td><td>2,160</td><td>1,092</td><td>1,078</td></tr> </tbody> </table> <p>出生率(人口千対)の推移の比較 出生率(人口千対)の推移を全国、県と比較すると、平成18年から全国及び県を上回って推移し、平成23年時点では10.3%(-2.0)となっています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>出生年</th> <th>出生数</th> <th>前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2015年</td><td>1,791</td><td>6.52</td></tr> <tr><td>2016年</td><td>1,858</td><td>4.32</td></tr> <tr><td>2017年</td><td>1,985</td><td>6.84</td></tr> <tr><td>2018年</td><td>2,102</td><td>5.89</td></tr> <tr><td>2019年</td><td>2,091</td><td>-0.8</td></tr> <tr><td>2020年</td><td>2,031</td><td>-1.5</td></tr> <tr><td>2021年</td><td>2,077</td><td>2.26</td></tr> <tr><td>2022年</td><td>2,031</td><td>-1.25</td></tr> </tbody> </table>	年齢	計	男	女	0	2,103	1,085	1,018	1	2,360	1,191	1,169	2	2,407	1,225	1,181	3	2,562	1,302	1,260	4	2,545	1,309	1,236	5	2,498	1,260	1,238	6	2,523	1,291	1,232	7	2,544	1,350	1,194	8	2,432	1,296	1,136	9	2,175	1,113	1,062	10	2,160	1,092	1,078	出生年	出生数	前年比	2015年	1,791	6.52	2016年	1,858	4.32	2017年	1,985	6.84	2018年	2,102	5.89	2019年	2,091	-0.8	2020年	2,031	-1.5	2021年	2,077	2.26	2022年	2,031	-1.25				
年齢	計	男	女																																																																															
0	2,103	1,085	1,018																																																																															
1	2,360	1,191	1,169																																																																															
2	2,407	1,225	1,181																																																																															
3	2,562	1,302	1,260																																																																															
4	2,545	1,309	1,236																																																																															
5	2,498	1,260	1,238																																																																															
6	2,523	1,291	1,232																																																																															
7	2,544	1,350	1,194																																																																															
8	2,432	1,296	1,136																																																																															
9	2,175	1,113	1,062																																																																															
10	2,160	1,092	1,078																																																																															
出生年	出生数	前年比																																																																																
2015年	1,791	6.52																																																																																
2016年	1,858	4.32																																																																																
2017年	1,985	6.84																																																																																
2018年	2,102	5.89																																																																																
2019年	2,091	-0.8																																																																																
2020年	2,031	-1.5																																																																																
2021年	2,077	2.26																																																																																
2022年	2,031	-1.25																																																																																
223-5			⑤今後働き方改革の推移によって幼稚園保育園のニーズも変化するはずですが。また様々な不登校の増加などがクローズアップされている現状でもあり、障害を持った子供たちへの対応も拡大することも考えられます。社会の変化を見据えながら、当幼稚園の存在・長所など市民に周知し、今後の展望を市民とともに考えることが必要だと思います。	社会の変化を見据えながら、当幼稚園の存在・長所など市民に周知し、今後の展望を市民とともに考えることが必要。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無																																																																												
224			廃園に反対します 幼児教育センターと附属幼稚園は全国に先駆けて、素晴らしい幼児教育の実践に取り組んでこられたとお聞きしました。 「母になるなら流山」のキャッチフレーズを生かす為にも、すべての子供、特別支援を必要とする幼児も公平に安心して入園できる園の必要性を感じます	廃園に反対。すべての子供、特別支援を必要とする幼児も公平に安心して入園できる園の必要性を感じる。	特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無																																																																												

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
225			附属幼稚園の評価が、主に金銭でされていますが、今まで地域に根ざし、果たしてきた役割についても評価し、廃園について再考をお願いしたい	附属幼稚園の評価は、金銭だけでなく、果たしてきた役割についても評価し、廃園の再考をしてもらいたい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。また、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
226-1		全体	幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園に反対です。	廃園に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
226-2		園児数減少について	広報ながれやまでの幼稚園募集に関する掲載が、私立は9月21日号、公立の附属幼稚園は10月11日号となっている。市からは「今後改善する」旨の発言があったが、令和7年度末に廃園とするなら、もう募集はないはずで、改善のしようがない。このような募集の仕方をすれば、保護者は幼稚園を決めたいために早々に応募・決定するのだから、附属幼稚園に募集する人が少ないのは当然ではないか。附属幼稚園の募集について流山市が妨害しているとも言えるほど、不公正な扱いの結果であるから、園児数減少が廃園の理由にならない。公正なやり方で募集をした上でも、園児が減少するのであれば、その時に検討すべきだ。	附属幼稚園の募集について流山市が妨害しているとも言えるほど、不公正な扱いの結果であるから、園児数減少が廃園の理由にならない。公正なやり方で募集をした上でも、園児が減少するのであれば、その時に検討すべきだ。	これまでと同様の時期に掲載しており、附属幼稚園の園児募集に関する記事を、私立幼稚園の記事と同日の広報ながれやまに掲載することが、附属幼稚園の園児の増加につながるという認識はありませんでした。	無	
226-3		障害を持つ児童の受け入れについて	附属幼稚園はインクルーシブ教育を行っているが、本園を廃園して、市内在住の障害をもつ子どもたちは、すべて幼稚園または保育園で受け入れてもらえる状態にあるのか？聞くところによると、流山市内の保育園・幼稚園では受け入れてもらえず、職場のある柏市立の保育園に入園したと言う話を聞いている。重度の障害をもつ児童全員が、保育園・幼稚園に入園し、同世代の子どもたちと共に育つ環境をでき保障できているのか。すべての児童の受け入れを保障することを流山市が明確に約束する必要がある。	廃園して、市内在住の障害をもつ子どもたちは、すべて幼稚園または保育園で受け入れてもらえる状態にあるのか。すべての児童の受け入れを保障することを流山市が明確に約束する必要がある。	附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、本市全体の幼児教育の質の向上と、幼保小の連携による架け橋期教育の充実のほか、相談業務についても更なる充実を図ってまいります。特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
226-4		附属幼稚園の支援児童数	園児在籍数の減少や支援児童の増加によって、「これまでのような幼児教育の実践と提供が困難な状況となっています」とのことだが、園児在籍数も減っているが、支援児童数も減っている。よって、この指摘が廃園の理由には当たらないと考える。	園児在籍数の減少や支援児童の増加によって、これまでのような幼児教育の実践と提供が困難な状況となっているとあるが、園児在籍数とともに支援児童数も減っている。よって、この指摘が廃園の理由には当たらないと考える。	附属幼稚園においては、園児一人ひとりを大切にしている教育を実践していますが、近年は、幼児教育の無償化や、保育ニーズの高まりなどにより、入園児が年々減少し、附属幼稚園における定員60人に対する、令和5年5月1日現在の園児の在籍数が、5歳児13人、4歳児9人の合計22人、定員充足率は36.7パーセントとなっている一方で、特別な配慮が必要な子どもの割合は増加しており、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。	無	
226-5		手続きについて	幼稚園協議会は、継続と廃園の両方の案を答申している。主な意見として提示されている7点のうち、4点は存続に向けての意見となっている。教育委員会には両論があったことを報告しているが、廃園を前提とした議論を提示しており、手続きとして問題がある。また教育委員会が初めてと聞いているが、「反対2」があったことを重く受け止めるべきだ。	幼稚園協議会は、継続と廃園の両方の案を答申している。教育委員会には両論があったことを報告しているが、廃園を前提とした議論を提示しており、手続きとして問題がある。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、教育委員会において、「反対2」があったことについては重く受け止めていますが、手続きに問題はないと認識しています。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
226-6		幼児教育研究の充実について	教育委員会議では、現状の流山市における幼児教育の質、インクルーシブ教育の現状について不満が述べられている。附属幼稚園において正社員4名という中で、どれだけのことができるのか、むしろ流山市において、幼児教育支援センターの機能のさらなる充実が必要であり、その実践場所としての附属幼稚園は、廃園にするのではなくむしろ充実させるべき場所であると思う。特に、研究機能を強化するならば、私立幼稚園では私立幼稚園自体に保育方針がある中で、研究成果を実践する場所にはなり得ない。よって、実践場所としての附属幼稚園を確保することは重要だと思う。	流山市においては、幼児教育支援センターの機能のさらなる充実が必要であり、その実践の場所としての附属幼稚園は、廃園にするのではなくむしろ充実させるべき場所である。私立幼稚園では私立幼稚園自体に保育方針がある中で、研究成果を実践する場所にはなり得ない。	私立幼稚園には建学の精神があり、各園においては様々な特色ある幼児教育の取り組みが行われています。しかしながら、幼児教育の根幹である、遊びと生活を通して人とつながること、遊びと生活を通して主体的に直接的な体験から学ぶことを保障していくということについては、国の方針でもあり、公立であっても私立であっても変わりありません。また、流山市立幼稚園協議会においては、私立幼稚園代表の委員より、「廃園後の流山市の幼児教育は私立幼稚園に委ねてもらいたい」との発言もありました。千葉県教育委員会が、「接続期のカリキュラム千葉県モデル」の実践を、本市の附属幼稚園のほか、県内の私立幼稚園や私立保育園においても実践しているように、市としましては、幼児教育支援センターにおける研究成果の実践や職員研修等は、私立幼稚園や保育園(所)において実践することも十分に可能であると考えております。	無	
226-7		パブリックコメントについて	公立の幼稚園を廃園することは地域にとって重要な問題であるにもかかわらず、「廃園」を前提として市民にパブリックコメントを求めるのは、手続き的におかしいのではないかと。廃園、継続の決定の前に、市民の意見を聞くべきと考える。また、地域の皆さんをはじめ、市民に説明会を開いているのでしょうか。極めて密室での判断で手続き的瑕疵があると思います。	廃園、継続の決定の前に、市民の意見を聞くべきと考える。市民への説明会を開いているのか。極めて密室での判断で手続き的瑕疵がある。	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の今後の在り方について、流山市立幼稚園協議会より、令和5年10月13日付けで提出のあった答申を踏まえ、同月26日に開催された令和5年流山市教育委員会議第10回定例会において、同園を令和7年度をもって廃園とする方針が決定されたことから、市民参加手続きとして本パブリックコメントを実施することとしたもので、本パブリックコメントについて、手続的な瑕疵はないと認識しています。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。今後も保護者の皆さまに対し、丁寧に説明してまいります。	無	
226-8		今後の動きについて	幼稚園協議会においても、教育委員会議においても、流山市議会教育福祉委員会においても、流山市における幼児教育についてのさらなる充実が必要であり、附属幼稚園を廃園にした場合、その代替となる施策について明確にするよう求められている。しかし、流山市は、それに対して具体的な施策を全く示していない。このような状況の中で、附属幼稚園の廃園だけを決定し、すすめることは、極めて無責任な対応ではないだろうか。廃園を実施するならば、その代替施策をまず示した上で、継続するか、廃園するか判断を検討すべきだと考える。	廃園を実施するならば、その代替施策をまず示した上で、継続するか、廃園するか判断を検討すべきである。	附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。幼児教育支援センターでは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
227-1			「幼児教育支援センター附属幼稚園廃園方針」に反対します。理由1 流山市は子供を育てるのに最適の街と売り込んで、人口増加率日本一を誇ってきました。この宣伝文句に誘われて引っ越してきた若い人も多しと思われるのに、来てみたら幼稚園廃園ではあまりに無責任です。	廃園方針に反対。流山市は子供を育てるのに最適の街と売り込んで、来てみたら幼稚園廃園ではあまりに無責任。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
227-2			理由2 子どもたちと地域とのつながりを重視するとの流山市のこれまでの方針に基づき、種々の触れ合いの場を実現してきた方々の努力を無にするやり方です。	流山市のこれまでの方針に基づき、種々の触れ合いの場を実現してきた方々の努力を無にするやり方である。	附属幼稚園では、小学校や中学校との交流のほか、地域の方々との様々な交流を重ねてきました。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続し、今後も、地域の皆さまの協力を得ながら、本市全体の幼児教育の発展と質の向上に努めてまいります。	無	
227-3			理由3 最近の流山市のやり方は、何らかの裏の事情で方向性を前もって決めておいて、説明やパブコメは単なるガス抜きの手段であり、内容的には前もって決めておいたことを強引に進めるというやり方にしか見えません。指定ゴミ袋の場合も同様でした。	最近の流山市のやり方は、何らかの裏の事情で方向性を前もって決めておいて、説明やパブコメは単なるガス抜きの手段であり、内容的には前もって決めておいたことを強引に進めるというやり方にしか見えない。	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の今後の在り方について、流山市立幼稚園協議会より、令和5年10月13日付けで提出のあった答申を踏まえ、同月26日に開催された令和5年流山市教育委員会議第10回定例会において、同園を令和7年度をもって廃園とする方針が決定されたことから、市民参加手続きとして本パブリックコメントを実施することとしたものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
228-1		1. 附属幼稚園の廃園方針について	廃園方針に反対します。	廃園方針に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
228-2		廃園理由の根拠となる現状認識について(1)	廃園の理由として、園児在籍数の減少と特別な支援が必要な子どもの増加を挙げていますが、①少人数では幼児教育の実践が困難という状況について、小規模保育園での4.5歳児の状況等と比較して具体的な事例を挙げて根拠を提示する(ii)同様に、特別な支援が必要な子どもの割合が増加して教育実践と提供が困難になったと判断した根拠を明示すべきです。附属幼稚園の実践は、令和4年度に「接続期のカリキュラム千葉モデルプラン」に、また教諭の指導案が千葉県の教育アーカイブにも選ばれています。県の教育方針と合致した実践が行われていると評価できるのではないのでしょうか。附属幼稚園が取り組んでいる縦割りによる合同保育、保育所との連携、支援の必要な園児の主体的な学びを目指したインクルーシブ教育の実践は、流山市全体に還元すべき教育成果だと思えます。幼児教育支援センターでは、その成果を受け継ぐと言いながら、市の説明では、幼稚園の現状は「教育の実践と提供は困難な状態」とあり矛盾を感じます。実践の場がなくなれば、教員の教える能力の維持は難しく、現場での教育実践の利用価値は急速に衰退するので、実践の場としての幼稚園は残すべきだと思います。	少人数では幼児教育の実践が困難という状況について、小規模保育園での4.5歳児の状況等と比較して具体的な事例を挙げて根拠を提示するべき。同様に、特別な支援が必要な子どもの割合が増加して教育実践と提供が困難になったと判断した根拠を明示すべき。実践の場がなくなれば、教員の教える能力の維持は難しく、現場での教育実践の利用価値は急速に衰退するので、実践の場としての幼稚園は残すべきである。	近年は、幼児教育の無償化や、保育ニーズの高まりなどにより、入園児が年々減少し、附属幼稚園における定員60人に対する、令和5年5月1日現在の園児の在籍数が、5歳児13人、4歳児9人の合計22人、定員充足率は36.7パーセントとなっている一方で、特別な配慮が必要な子どもの割合は増加しており、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。千葉県教育委員会が、「接続期のカリキュラム千葉モデル」の実践を、本市の附属幼稚園のほか、県内の私立幼稚園や私立保育園においても実践しているように、市としましては、幼児教育支援センターにおける研究成果の実践や職員研修等は、私立幼稚園や保育園(所)において実践することも十分に可能であると考えております。	無	
228-3		廃園理由の根拠となる現状認識について(2)	附属幼稚園の運営費を単純に園児数で割って、園児一人当たりの運営費を算出する方法は、公教育のコスト計算として適切ではないと考えます。特別な支援を必要とする子どもへの配慮に係る費用は教育を受ける権利を保障するために必要であるし、流山市の幼児教育の公共知となる教育資源として活用できる点、子どもたちへの投資が将来の社会的・経済的利益に影響を与える点など、運営費についての評価は複数の要素を考慮すべきではないでしょうか。	附属幼稚園の運営費を単純に園児数で割って、園児一人当たりの運営費を算出する方法は、公教育のコスト計算として適切ではない。運営費についての評価は複数の要素を考慮すべきではないか。	園児一人当たりの運営費予算については、附属幼稚園の財政状況の目安としてお示したのですが、一人当たりの経費は、財務状況の目安として一般的に用いられます。	無	
228-4		廃園方針の決定までの経緯について	10月13日に附属幼稚園については存続と廃園の両論併記であった幼稚園協議会の答申に対して、市教育委員会が10月26日に教育委員会議で2年後に廃園という提案のみを提示して挙手で採決する方法をとったことは、丁寧な議論を無視しています。教育委員会議の開催日には、幼稚園協議会の最終答申が出された際の議事録が公開されていませんでした。教育委員の皆さんへの情報提供が不十分な状態で、両論併記であった答申を廃園に一元化し、廃園後の利用計画もないまま、令和7年に廃園のみを一択とする議案を提案するに至った経緯について、教育委員会の内部でどのような意思決定がなされたか説明を求めたい。少なくとも幼稚園協議会の委員には説明すべきだと思います。	教育委員への情報提供が不十分な状態で、両論併記であった答申を廃園に一元化し、廃園後の利用計画もないまま、令和7年に廃園のみを一択とする議案を提案するに至った経緯について、教育委員会の内部でどのような意思決定がなされたか説明を求めたい。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定したものです。なお、流山市立幼稚園協議会委員に対しては、本パブリックコメントの結果を報告する予定です。	無	
228-5		市内私立幼稚園の定員充足率等の現状把握と今後の幼児教育の方向性について	園児の保護者は、私立幼稚園や保育園等他の選択肢もあるなかで、子どもに合った教育環境として公立園を選択しているの、廃園になれば私立幼稚園の空き定員で対応できるという問題ではないと思えます。私立幼稚園の定員充足率は、認可定員を基に算出しているが、実際の利用定員を基に算出する方が現実的である。私立幼稚園の入園に対しては、「プレ保育からでないといけない」「きょうだい枠がないと厳しい」といった保護者の声も聞く。各園により空き状況も異なるので全園の平均値をとって「空きがある」というのは、入園を実際に断られた保護者が納得できる説明にはならない。12月11日に公表された子ども未来戦略案によれば、経過措置はあるものの2024年から保育園の定員数が、3歳児が20人から15人、4.5歳児は30人から25人へと変更される方針であり、これが実行されれば、保育園、幼稚園とも定員充足率はかなり上昇し、受け皿の確保が難しくなることが予想されます。3歳児からは保育園(ナーサリ)から幼稚園(キンダー)というのは海外では一般的なので、流山でもこうした移行ができるような制度を考えてみたらどうでしょうか。附属幼稚園の場合は、離接する保育園の3-5歳児を受け入れることができれば、定員不足の問題は解決され、保育所の0-2歳児の枠も増やせると思えます。	園児の保護者は、私立幼稚園や保育園等他の選択肢もあるなかで、子どもに合った教育環境として公立園を選択しているの、廃園になれば私立幼稚園の空き定員で対応できるという問題ではない。各園により空き状況も異なるので全園の平均値をとって「空きがある」というのは、入園を実際に断られた保護者が納得できる説明にはならない。12月11日に公表された子ども未来戦略案によれば、経過措置はあるものの2024年から保育園の定員数が、3歳児が20人から15人、4.5歳児は30人から25人へと変更される方針であり、これが実行されれば、保育園、幼稚園とも定員充足率はかなり上昇し、受け皿の確保が難しくなることが予想される。隣接する保育園の3-5歳児を受け入れることができれば、定員不足の問題は解決され、保育所の0-2歳児の枠も増やせると思えます。	「こども未来戦略」～次元の異なる少子化対策の実現に向けて～(令和5年12月22日)では、1歳児及び4・5歳児の職員配置基準について、①2024年度から、制度発足以来75年間一度も改善されてこなかった4・5歳児について、30対1から25対1への改善を図り、それに対応する加算措置を設ける。また、これと併せて最低基準の改正を行う(経過措置として当分の間は従前の基準により運営することも妨げない。)。②2025年度以降、1歳児について、保育人材の確保等の関連する施策との関係も踏まえつつ、加速化プラン期間中の早期に6対1から5対1への改善を進める。としています。	無	
228-6		私立幼稚園への助成について	特別な支援を必要とする子どもを受け入れる私立幼稚園への支援については、私立幼稚園が受け入れる子どもの障害の程度に一定の基準を設けるなど、事前に助成制度の設計を厳密にするべきである。公立幼稚園に通っている園児たちには、私立幼稚園のプレ保育に通っていたが入園を断られたり、入園後に「進級が難しい」と言われて転園したお子さんが多い。私立幼稚園の運営については千葉県の管轄であり、また他市の子どもも多く通っている園もあることから、市の税金を投じて、確実に流山の子どもたちへの助成となるような手だてを講じるべきであると考えますが、私学への介入というリスクもあるなかで、どのような制度設計を計画しているのか提示してほしい。	特別な支援を必要とする子どもを受け入れる私立幼稚園への支援については、私立幼稚園が受け入れる子どもの障害の程度に一定基準を設けるなど、事前に助成制度の設計を厳密にするべきである。市の税金を投じて、確実に流山の子どもたちへの助成となるような手だてを講じるべきであると考えますが、私学への介入というリスクもあるなかで、どのような制度設計を計画しているのか提示してほしい。	特別な支援が必要な子どもを受け入れる私立幼稚園に対する職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助については、既にある補助との整合を図り、適切な制度を構築してまいります。	無	
228-7		2. 幼児教育支援センターについて	パブリックコメントに示されている計画案は構想のみで実行性についての検証が必要だと思いますので、再考すべきです。	パブリックコメントに示されている計画案は構想のみで実効性についての検証が必要だと思いますので、再考すべき。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
228-8		幼児教育支援センターについて	平成24年の開設以来、幼児教育支援センターが市の幼児教育の中核的な役割を担うとしながら、実際には、附属幼稚園との連携についてセンター長の研究授業への参加やインクルーシブ教育の実践についての授業参観等の把握が行われておらず、教育委員会内でもその教育成果の共有が行われていなかったことが明らかになっています。こうした問題が発生した原因を明確にし、今までの活動の成果を総括することを要望します。 パブリックコメントには、「これまでとは異なる本市全体の幼児教育の質の向上を図ります」とありますが、具体的な方法について、どこが「これまでと異なるのか」全く言及されていません。関係機関との連携についても「検討を進めます」とだけあり関係機関や担当部局名も提示なく、部局の再編等を含めた具体性に欠けています。 また、公立幼稚園が廃園となった場合、公立の小学校との接続期の教育の推進について、私立幼稚園とどのような協働関係を築いていくのかについては、モデル園と特定の園に指定する際の公平性の確保や私学の教育内容への公の介入という課題をどうクリアしていくのか明示する必要があります。	パブリックコメントには、「これまでとは異なる本市全体の幼児教育の質の向上を図ります」とあるが、具体的な方法について、全く言及されていない。関係機関との連携についても「検討を進めます」とだけあり具体性に欠けている。公立幼稚園が廃園となった場合、私立幼稚園とどのような協働関係を築いていくのかについては、モデル園と特定の園に指定する際の公平性の確保や私学の教育内容への介入という課題をどうクリアしていくのか明示する必要がある。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこその幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。 千葉県教育委員会が、「接続期のカリキュラム千葉県モデル」の実践を、本市の附属幼稚園のほか、県内の私立幼稚園や私立保育園においても実践しているように、市としましては、幼児教育支援センターにおける研究成果の実践や職員研修等は、私立幼稚園や保育園(所)において実践することも十分に可能であると考えております。市内の各私立幼稚園、各保育園(所)に対しては、その実践協力について、丁寧な説明を行ってまいります。	無	
228-9		幼児教育支援センターと地域との連携について	令和5年2月の中央教育市議会初等中等教科分科会の提言では、架け橋期の教育を充実するためには「幼保小はもとより、家庭、地域、関係団体、地方自治体など、子どもに関わる全ての関係者が立場を超えて連携・協働することが必要」とあります。平成24年の幼児教育支援センターの設立時のパンフレットにも、幼児教育支援センター・附属幼稚園が、関連機関、幼保小、地域と連携していく「子育てにやさしいまち みんなで子育てできるまち」を目指すことが明示されています。今回のパブリックコメントからは「地域」との連携は削除されていますが、地域との連携を方針から外した理由を教えてください。	今回のパブリックコメントで、地域との連携を方針から外した理由を教えてください。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続します。今後も、地域の皆さまの協力を得ながら、本市全体の幼児教育の発展と質の向上に努めてまいります。	無	
228-10		幼児教育支援センター・附属幼稚園による幼保小架け橋プログラムの策定について	文科省の「幼児教育実態調査」での指針による連携から接続への課程のおおまかな目安をみると、流山市では北部地区の江戸川台小学校・附属幼稚園・江戸川台保育所によるモデルプロジェクトを立ち上げることができれば、附属幼稚園での「千葉県モデルプラン」や幼保交流の実績から、比較的短期間で確実に連携のステップアップを図ることができると思います。附属幼稚園が小規模園であることから、小規模保育園での応用も可能であり、大規模園に対してもスモールステップとしての指針の策定もしやすいと思われる。ただ、流山市全体のステップアップについては、保育園が100園近くあるおおたかの森地区での幼保小の連携については、その特殊性を県や国に訴えて「特別区」とするなどの対策を講じなければ、架け橋プログラムの実行は困難であると考えます。 また、附属幼稚園を、幼稚園協議会の答申にも示された「幼保連携型こども園」に移行することで、公立幼稚園と公立保育所の人事交流を進めることができれば、インクルーシブ教育や架け橋教育を全市の保育所で実践でき、私立保育園への取り組みも進めやすくなると思います。業務の見直し、特別な配慮を必要とする幼児への支援に関しても、具体的案を検討してからパブリックコメントを出すべきだと思います。	附属幼稚園を、幼保連携型こども園に移行することで、公立幼稚園と公立保育所の人事交流を進めることができれば、インクルーシブ教育や架け橋教育を全市の保育所で実践でき、私立保育園への取り組みも進めやすくなる。業務の見直し、特別な配慮を必要とする幼児への支援に関しても、具体的案を検討してからパブリックコメントを出すべき。	附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。 附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこその幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。 令和5年度第4回流山市立幼稚園協議会においては、私立幼稚園代表の委員より、「廃園後の流山市の幼児教育は私立幼稚園に委ねてもらいたい」との発言もありました。 千葉県教育委員会が、「接続期のカリキュラム千葉県モデル」の実践を、本市の附属幼稚園のほか、県内の私立幼稚園や私立保育園においても実践しているように、市としましては、幼児教育支援センターにおける研究成果の実践や職員研修等は、私立幼稚園や保育園(所)において実践することも十分に可能であると考えております。 市内には、様々な規模の私立幼稚園や保育園(所)があり、その規模に応じたカリキュラムの実践も可能となるメリットがあることから、各私立幼稚園、各保育園(所)に対しては、その実践協力について、丁寧な説明を行ってまいります。	無	
229-1		流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針	障害児の親として流山市柏市の私立幼稚園への入園希望がことごとく叶わなかった経験から、支援を必要とする子供達を受け入れてくれる流山市唯一の公立幼稚園の廃園は望ましくないと考えます。 私立と天秤にかけ公立が選ばれない欠点として、送迎バスや給食がない、またこども園のように延長保育やお預かりのシステムがないことがあげられる。 人工流入により増えた財源を、未来を担う子供達への投資とし、私立幼稚園同様にこのようなサービスを受けられるよう構築していただきたい。	支援を必要とする子供達を受け入れてくれる流山市唯一の公立幼稚園の廃園は望ましくない。人口流入により増えた財源は、私立幼稚園同様のサービスの構築に使ってもらいたい。	附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。 特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。 また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
229-2			また、公立の強みとして、つばさ学園をはじめとした児童発達支援センターとの連携を期待したい。	つばさ学園をはじめとした児童発達支援センターとの連携を期待したい。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。 また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
229-3			廃園方針が変わらないのであれば、私立幼稚園が障害のある子を受け入れられるだけの継続的な金銭的補助、また支援員の必要枠を確実に確保願いたい。 流山市にはたくさんの支援を必要とする子供たちがいること、健全の子供たち同様に教育や保育を受ける権利があることを忘れてください。	廃園方針が変わらないのであれば、私立幼稚園が障害のある子を受け入れられるだけの継続的な金銭的補助、また支援員の必要枠を確実に確保願いたい。	特別な支援が必要な子どもを受け入れる私立幼稚園に対する職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助については、既にある補助との整合を図り、適切な制度を構築してまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
230			廃園に賛成します。附属幼稚園の設立当初の幼児教育ができなくなり、園児が少なくなっている以上廃園が妥当と考えます。今後は、センターで幼保小の連携、支援を要するおさまなど、研究や市内への普及すればよいと思います。	廃園に賛成。附属幼稚園の設立当初の幼児教育ができなくなり、園児が少なくなっている以上廃園が妥当。今後は、センターで幼保小の連携、支援を要する子の研究や市内への普及をすればよい。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
231			市の方針に賛成です。私立幼稚園が充実している状況で、入園者数が減少して費用が掛かっている公立幼稚園を残すことは無いと思います。	廃園方針に賛成。私立幼稚園が充実している状況で、入園者数が減少して費用が掛かっている公立幼稚園を残すことは無い。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
232			市の方針に賛成します。民間幼稚園や保育園がすでに充実しているので、公立幼稚園を残す意味は薄れていると思います。	廃園方針に賛成。民間幼稚園や保育園がすでに充実しているので、公立幼稚園を残す意味は薄れている。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
233			市の方針に賛成します。附属幼稚園ができた当初の役割である先導的な取り組みが難しくなっている以上、その役割を終えた方がよいと思います。	廃園方針に賛成。附属幼稚園ができた当初の役割である先導的な取り組みが難しくなっている以上、その役割を終えた方がよい。	附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
234-1	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針決定に関する資料『2 附属幼稚園を取り巻く環境の変化』		現在の保護者のニーズにあった方法での人数確保などはどういったような対応をしてきたのでしょうか？増員させる為の工夫、施策などは何も検討されずに現在に至っているのでしょうか？	人数確保のための対応はしてきたのか。何も検討せずに現在に至っているのか。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実施してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園にあっても定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。	無	
234-2	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針決定に関する資料『3 附属幼稚園の状況』		特別な支援を必要とする園児の割合が増加している中、支援を必要としない児童と一緒に過ごす事でお互いに成長が見られる部分もあり、教諭たちも特性にあわせた工夫をして幼児教育をしていっております。幼稚園に入れたいという保護者の気持ちを受け止め、集団で行動出来る様子を力をつけてくれているとても良い教育をされている幼稚園だと外部から見ても思います。幼児教育の実践や提供が困難な状況だとは思いません。今一度、教育現場に足を運び、教諭の姿、児童の姿を見ていただきたいです。	幼児教育の実践や提供が困難な状況だとは思わない。教育現場を見てもらいたい。	附属幼稚園の保育の現場には、折に触れ教育委員会の職員が訪問しています。附属幼稚園においては、園児一人ひとりを大切にすることを実践していますが、近年は、幼児教育の無償化や、保育ニーズの高まりなどにより、入園児が年々減少し、附属幼稚園における定員60人に対する、令和5年5月1日現在の園児の在籍数が、5歳児13人、4歳児9人の合計22人、定員充足率は36.7パーセントとなっている一方で、特別な配慮が必要な子どもの割合は増加しており、療育との並行通園の園児の増加により、同年代の多くの子どもたちと関わり合う活動を展開することが難しい状況にあります。	無	
234-3	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針決定に関する資料『4 市内私立幼稚園の状況』		市内の幼稚園は、プレの段階で児童を断っている事実があります。幼稚園側が受け入れを拒否している事を知っている保護者が選ばない、という事もあり減少しているのではないのでしょうか？付属幼稚園だからこそ出来るメリットを押し出し、私立幼稚園とは違う部分で増員出来るのではないのでしょうか？	私立幼稚園の定員減少は、受け入れを拒否している事を知っている保護者がえらばないこともあるのではないかと。附属幼稚園だからこそ出来るメリットを押し出せば増員できるのではないかと。	私立幼稚園における園児の減少要因は様々であると思われませんが、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
235-1	廃園方針		廃園方針に反対。平成24年に3園あった公立幼稚園が1園になってたった10年しかたっていない。できる手立ははまだ残されているのに行政は実践することもなく廃園にするべきではない。なぜ結果を急ぐのか？	廃園方針に反対。できる手立てを実践せずに廃園にするべきではない。なぜ結果を急ぐのか。	附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実施してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。令和6年度の附属幼稚園の園児在籍数が18人となる見込みであること、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じていること等を総合的に考慮しますと、たとえ3年保育を実施しても、今後の園児の増加を見込むことは難しいと考えます。附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。	無	
235-2			東幼稚園が廃園になった時も十分に地域住民の声を聞いてもらえなかった。地域住民にしっかり周知して説明、質疑応答をするべきではないか？	地域住民に周知、説明、質疑応答をすべきではないか。	今後も保護者の皆さまに対し、丁寧に説明してまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
235-3			何十年という年月をかけて公立幼稚園で培われてきた教育やスキルは簡単に受け継がれるものではない。私立幼稚園は若い先生が多く入れ替わりも多いという。それでどうやって受け継いでいくのか。	公立幼稚園で長年培われてきたスキルは簡単に受け継がれるものではない。	附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。 幼児教育支援センターでは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。 また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
235-4			公立幼稚園なら市が指導できるし即効性もあるが、私立幼稚園は県の管轄であり、市の指導や市が目指す方針を“建学の精神”を掲げる私立幼稚園がすべて受け入れる効力があるとは考えにくい。私立幼稚園がどの子ども平等に受け入れるという確証はあるのか？	私立幼稚園は県の管轄。市が目指す方針を受け入れる確証はあるのか。	私立幼稚園には建学の精神があり、各園においては様々な特色ある幼児教育の取り組みが行われています。しかしながら、幼児教育の根幹である、遊びと生活を通して人とつながること、遊びと生活を通して主体的に直接的な体験から学ぶことを保障していくということについては、国の方針でもあり、公立であっても私立であっても変わりありません。 流山市立幼稚園協議会においては、私立幼稚園代表の委員より、「廃園後の流山市の幼児教育は私立幼稚園に委ねてもらいたい」との発言もありました。 千葉県教育委員会が、「接続期のカリキュラム千葉県モデル」の実践を、本市の附属幼稚園のほか、県内の私立幼稚園や私立保育園においても実践しているように、市としましては、幼児教育支援センターにおける研究成果の実践や職員研修等は、私立幼稚園や保育園(所)において実践することも十分に可能であると考えております。 特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。 また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
236			幼児教育支援センター附属幼稚園は、障がいのあるなしに関係なく、すべての子どもが一緒に学べる教育である「インクルーシブ教育」を実践されています。こうした先進的な取り組みをしている流山市唯一の公立幼稚園を切り捨てることに反対します。多様性を尊重する社会をめざしている今こそ、幼児教育支援センター附属幼稚園を存続させ、「インクルーシブ教育」を進めるべきだと思います。	インクルーシブ教育を実践している唯一の公立幼稚園を切り捨てることに反対。多様性を尊重する社会を目指す今こそ、インクルーシブ教育を進めるべき。	附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。 特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。 また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
237			市長の「母になるなら流山」の方針はどうなるのでしょうか。東京駅まで宣伝してましたよね。今回の市内唯一の幼稚園である流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針に対する意見について申します。 市内最後の公立幼稚園を廃園にしないで下さい。	廃園方針に反対。市内最後の公立幼稚園を廃園にしないでほしい。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。 しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	
238-1		流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針に対して	廃園の方針に反対します。撤回して頂きたい。	廃園方針に反対。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。 しかしながら、幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費は5年前の2.7倍にまで増加しており、このような附属幼稚園の現状と、既に3年保育を実施している市内の私立幼稚園9園のうち8園でも定員割れが生じている状況等を総合的に考慮しますと、今後も附属幼稚園の園児の増加を見込むことは難しく、財政的負担の観点からも、廃園方針の決定はやむを得ないものと考えます。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
238-2		廃園方針決定過程に関して	流山市立幼稚園協議会①の答申(令和5年10月13日付け)を受け、令和5年度流山市教育委員会議第10回定例会②(令和5年10月26日開催)で廃園方針決定であるが、今回の進め方は拙速である。流山市立幼稚園協議会(第1回、令和5年5月26日)から5回(5か月)で答申に至っている。平成22年度の流山市立幼稚園協議会は、6回(平成22年8月9日から9か月)と十分に時間をかけ、平成23年5月20日付けで答申が出されている。①も②も議事録等を読む限り、市役所などの会議室の会議のみで、現場を確認したり、現場の意見(保護者、地域の声も)も参考していない。今回、両論併記の答申を受けてわずか13日で(恐らく最後の議事録の確認を待たず)、最初から「廃園」を前提に、教育委員会側が動いていたと見ても致し方ない。この進め方は適切ではない。もっと関係者との議論が必要である。	廃園方針決定過程に関して、最初から廃園を前提に教育委員会側が動いていたとみても致し方なく、この進め方は適切ではない。もっと関係者との議論が必要である。	本市の幼児教育の方向性や幼児教育支援センター及び附属幼稚園の今後の在り方について検討するため、令和5年5月、流山市立幼稚園協議会に諮問し、同年10月13日に同協議会から、同園の今後の在り方については、「存続」と「廃園」の二論が示された答申書が提出されました。これを受け、担当部局において検討・協議を重ね、同月26日の教育委員会議に、当該二論のうちの「廃園」とする場合のご意見を踏まえ、令和7年度をもって廃園とする方針についての議案を提出し、当該議案について教育委員会で議論の上、賛成4、反対2で、同園の廃園方針が決定されたことから、市民参加手続きとして本パブリックコメントを実施することとしたものです。なお、廃園についての最終決定は、市議会の議決によることとなりますが、議案の提出は、令和6年第2回定例会を予定しています。	無	
238-3		廃園理由1「幼児教育の実践と提供が困難な状況」について	世の中医療技術の進歩により、又、流山市の国際化の進展により、特別な支援が必要となる人が増えてきており、少子高齢化の進展で益々比率は増えると想定される。更には、柿の実幼稚園長が「障がい者手帳を持たないグレーゾンの子どもたちが増えている」ということから考えると、特別な支援が必要な子どもは表面的なものより多いと考えられ、いろいろな幼児の共生は大事な課題である。特別な支援が必要な子どもが増えていることを理由に廃園するのはなく、今後の新たな大事な課題が見つかったとし、公の幼稚園として取組むのが附属幼稚園の役割であり、存続させる大きな理由ではないか？。私立幼稚園に特別な支援を必要とする子どもの受け入れを期待しているようだが、そもそも私立幼稚園に断られた子どもが集まったこともあるようで、「公」は「民」の自主性を尊重すべき点からも実現は難しいのでは？民に対して受入のオブリゲーションを課せば、公の民への介入になるので、避けるべきである。関連するインクルーシブ教育については、別項で。	特別な支援が必要な子どもが増えていることを理由に廃園するのではなく、今後の新たな大事な課題が見つかったとし、公の幼稚園として取り組むのが附属幼稚園の役割であり、存続させる大きな理由ではないか？私立幼稚園に特別な支援を必要とする子どもの受け入れを期待しているようだが、公は民の自主性を尊重すべき点からも実現は難しいのではないか。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
238-4		廃園理由2「運営費(令和5年度予算)5,464万円」などについて	5,464万円は、流山市一般会計予算約856億円に対して0.06%、教育費予算約170億円に対して0.32%であり、市民一人当たり約260円である。政府も異次元の少子化対策を打ち出している現状から認められるべきで、もっとお金をかけるべきでは？物流センター進出に伴い固定資産税が年10億円増えると言われている。財源は充分あるのではないかと市民からの税金が使えないというのであれば、初石駅施設整備基金のようにふるさと納税の使い道の1つとして補充することも考えられる。「園児一人あたり248万円」も問題視されているが、園児の将来生む付加価値はどう評価しているのか？2年間分の500万円を優に超えるのではないかと、教育にはお金がかかるものではあるが、将来のリターンを無視して、支出だけで評価するのは片手落ちである。教育委員会としてはコスト削減を喧伝するかも知れないが、あくまでも教育委員会での部分最適化を目指しているだけで、園児の将来、社会の貢献を考えていないと言わざるを得ない。子どもたちの将来の大きな可能性をつぶすことにつながりかねない。すなわち、社会全体の最適化にならない。	5,464万円は、流山市一般会計予算約856億円に対して0.06%、教育費予算約170億円に対して0.32%であり、市民一人当たり約260円である。もっとお金をかけるべきではないか。園児の将来生む付加価値はどう評価しているのか。将来のリターンを無視して、支出だけで評価するのは片手落ちである。	幼児教育の無償化や近年の保育ニーズの高まりなどにより、園児の在籍数は過去5年で54%減の22人にまで減少している一方で、運営費(予算)は5年前の2.7倍の5,464万円にまで増加しており、このような状況にあって、附属幼稚園を継続していくことは、財政的負担の観点からも難しいと考えています。	無	
238-5		インクルーシブ幼児教育の拠点として	広報ながれやま令和5年2月11日号「特集:インクルーシブ教育を目指して」で、流山市では、お互いを尊重し合う共生社会を実現するための「インクルーシブ教育」を推進している、としている。井崎市長のマニフェスト(2023.3.1)でも、インクルーシブ教育の推進を掲げ、日本のインクルーシブ教育をリードする、と宣言されている。独立行政法人国立特別支援教育総合研究所久保山先生によれば、「インクルーシブ教育システム」は国連の「障害者の権利に関する条約」の中に記されていて「多様な子どもたちが可能な限り、同じ場でともに学ぶことをめざす」考え方である。」という。更に、日本は多様な人とのかかわりあいがさらに求められる時代になる。幼児期からのインクルーシブ教育により多様化した共生社会の担い手を育てることをめざしているという。幼児期の経験は共生意識の日常化になると言う。付属幼稚園の現状はそれを実践する環境となりえ、市内での幼児のインクルーシブ教育を推進する拠点として、世の中のモデルにもなり、存在の意義は大いにあると考える。	附属幼稚園はインクルーシブ教育を実践する拠点として存在意義は大いにあると考える。	附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
238-6		幼児教育支援センター発展のため	幼児教育支援センターは、学びのつながり・保護者支援&先生支援・地域と手をつなぐ、をその機能としているが、附属幼稚園との関係から言えば、附属幼稚園が培ってきた幼児教育に関する知識や経験を生かしていると思われる。付属幼稚園の廃園によって、過去の蓄積は引き継ぐものとしても、これから本腰を入れて取組もうとしている「インクルーシブ教育」実践の場である付属幼稚園からの生きた情報(センターからの研究課題実践の場でもある)が得られなくなるのは、大きな痛手である。更に、支援センターと付属幼稚園の人事交流を積極的に進め(教育委員会と小中学校の関係のように)、保護者などの相談(インクルーシブな面だけでなく)が、附属幼稚園での実践・経験などに根差して行えるようにすべきと考える。	幼児教育支援センターの機能は、附属幼稚園での実践・経験などに根差すべきと考える。	幼児教育支援センターは、市内の幼児教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図るため、市内全ての幼稚園・保育園等の職員を対象とした研修会の実施、職員の資質向上や指導支援のための幼児教育アドバイザーによる幼稚園・保育園への巡回訪問等を実施するとともに、有識者や関係機関とも連携し、施設類型や設置者の枠組みを超えて流山市の目指す子ども像を共有しながら、市独自の幼保小架け橋期カリキュラムの作成及び活用を進めていきます。また、ワンストップで繋がる幼児期の相談窓口の設置や家庭教育支援のほか、特別な支援を必要とする子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
238-7		保護者にとって、幼児教育の場の多様性の確保	幼児教育の場として、公立幼稚園、私立幼稚園、公立保育所、私立保育所、私立に認定こども園がある。この他に認可外や企業附属保育施設があるが除く。幼稚園は文部科学省、保育所は厚生労働省、認定こども園は内閣府となっており、縦割りで流山市でも所管部課が異なっている。1つの部署で一元管理が望ましいが、現状厳しいので横の連携で運用となるがこれはさておく。保護者にとって家庭の事情を考慮して、幼児を通わせるのに5つの選択肢があることは望ましい。共働きが増えたなど保育需要の増大で待機児童の問題がクローズアップされているが、教育という観点から幼稚園を選ぶ保護者も存在する。幼稚園と保育園の特徴の差は少なくなっていると思うが、教育のスタートという意味など教育を重視する幼稚園の良さはある。保護者の選択肢の観点から、公立幼稚園をゼロにするのではなく1つは残すべき。	保護者にとって家庭の事情を考慮して、幼児を通わせるのに公立幼稚園、私立幼稚園、公立保育所、私立保育所、認定こども園の5つの選択肢があることは望ましい。保護者の選択肢の観点から、公立幼稚園をゼロにするのではなく1つは残すべき。	附属幼稚園においては、市内唯一の公立幼稚園として、幼児教育支援センターの調査・研究を反映する実践を展開するなど、先導的な取り組みを行ってきました。しかしながら、附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置し、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	
238-8		公的幼稚園の存在意義	付属幼稚園に特別な支援が必要な子どもたちが集まってきたのは、私立に断られて最後の頼みとして集まってきた幼児もいると聞く。公立の存在意義は、私立が経営の観点やその他の理由で受け入れを拒否できるのに対し、公の役割として受け入れを拒否できない点にあると思う。(公の責任)逆に、受け入れることが1つの課題解決につながる異議がある。最近(12月13日)の朝日新聞によれば、先天性難病の東京大学の大学院生が県内の私立高校受験を断られたのに対して、県立高校が対応してくれた事例からも公的機関の存在意義は大事であり、そういう意味でも付属幼稚園存続すべきである。東京学芸大学の藤井教授は、幼児期に不可欠な養護を保障し、かつ、質の高い教育を提供する課題に公立幼稚園こそ取り組む必要があると言う。付属幼稚園が取り組むべきではないか？	公立の存在意義は、私立が経営の観点やその他の理由で受け入れを拒否できるのに対し、公の役割として受け入れを拒否できない点にある。	附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。特別な支援が必要な子どもの受け皿を確保するため、当該子どもを受け入れる私立幼稚園に対しては、職員の加配や環境整備等に係る金銭的な補助を行ってまいります。また、当該子どもが行き場所を失うことのないよう、幼児教育支援センターにおけるこれまでのノウハウを活かし、さらに専門性のある職員を配置することにより、それぞれのお子さんにとって、よりよい幼児教育・保育・療育の方向性を見いだすとともに、私立幼稚園等に通うことができるよう、希望者に寄り添った相談対応・サポートを行ってまいります。	無	
238-9		江戸川台近辺の幼稚園の観点から	バス通園が当たり前になっているが、最近起こっている事故の可能性は排除できないし、人手を介することで社会全体では余分なコストがかかっている。本来、親子が手をつなぎ又は自転車でスキップを取りながら、登下園するのが望ましい。付属幼稚園近辺の幼稚園は、参考資料にあるように、一の台幼稚園と江戸川台ひまわり幼稚園のみであり、江戸川台近辺の保護者にとっては、2つの幼稚園は遠く、住宅地の中心にある附属幼稚園の存在意義は大きいものがある。校舎もまだ新しいようなので、ここで廃園にするのはもったいない。このことから存続すべきである。	江戸川台近辺の保護者にとっては、私立幼稚園は遠く、住宅地の中心にある附属幼稚園の存在意義は大きいものがある。校舎もまだ新しいようなので、ここで廃園にするのはもったいない。	市内の他地域の実態からも、江戸川台近辺から私立幼稚園に通園することは可能であると考えます。附属幼稚園が廃園となった場合には、今後、幼児教育支援センターとして活用する予定です。	無	
238-10		最後に	資源の少ない日本は、人を資源として、人への投資を惜しむべきではない。特に将来の可能性に満ち満ちている子どもたちに費用をかけるべきである。目先のコストカットになるか疑問(補助金でカバーと言っても分散投資になり付属幼稚園への集中投資よりもコスト増は否めないし、附属幼稚園職員を簡単に退職させられるとは思えず)。少子高齢化が進んでおり、国際化を進めることも必然となる状況を考慮すると、誰もが活躍できる社会づくりにつながる、流山市が本格的に取組もうとしているインクルーシブ教育の幼児の拠点として存続させるべきである。近視眼的なコスト削減を提案するのではなく、子どもたちの将来につながる政策を進め必要なお金は準備する教育委員会であって欲しい。	近視眼的なコスト削減を提案するのではなく、子どもたちの将来につながる政策を進め必要なお金は準備する教育委員会であって欲しい。	附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
239-1			<p>廃園に反対します。 現在は卒園していますが、息子がお世話になりました。入園前は片っ端から幼稚園に電話させていただき附属幼稚園の対応は良かったです。 入園してからも先生方はとても優しく地方から引っ越して来た私は育児の相談もする場が他になく、子供のことだけではなく私自身の癒しにもなりました。 息子は人見知りと場所見知り、入園前から場に慣れるように通いたいとの申し出も快く受け入れて下さいました。それでも卒園の2か月前まで泣きました。先生方は根気強く優しくほぼ2年対応して下さい成長をしっかりと教えて下さり、また周りのお母さんたちも温かく守ってくれました。とってもアットホームで大好きな園です。 子どもは1人ですが、もし何人いても我が子は附属幼稚園を選んでいきます。 療育も利用させてもらいました、療育の訪問支援では園が丁寧に対応して下さいました。1人1人の子どものことを考えてくれるからこそ療育とも密に連携して下さいました。療育の先生からも幼稚園の評価がとても良かったです。幼稚園の先生方は息子のことをどれだけ考えてくれるかを療育の先生から聞きました。他の園を知りませんが、療育側にとっても訪問支援しやすい園だと認識で療育の先生の話は私は受け止めています。 療育に通っていて他の園に入園出来なかったお友達も居ました。支援が必要な子どもの親はそれだけで不安が大きいんです。園に入れないと心が折れそうになります、支援を受けていると入れない幼稚園ばかりではないかも知れませんが、受け入れてくれる園が全てだとも思えません。どこが受け入れてくれるか、探すのはとてもしんどいです。 支援が必要な息子のような子どもだけではありません。引っ越しなどの都合は様々ですが他の園から来たお友達も居ました、前の園より馴染めたお友達もいたと記憶しています。前園より附属幼稚園を評価していたのは1人だけの話ではありません。 小学校に上がる際も、小学校教諭の先生が園長で心強かったです。幼稚園のスキルある先生に支えられ小学校入学後のビジョンも見えました。それだけサポートしてくれました。 上記は心情がほとんどで意に沿わない意見申し訳ありません。 以下廃園方針決定に関する資料に記載が多かった運営費、予算など金銭面のこと等です。 特別な支援を必要とする子どもを受け入れる園に対しては支援員に加配とも記載されています。 流山市幼児教育支援センター附属幼稚園は公立、公務員の先生方は廃園になっても市の職員として働かれると思うので、廃園になっても金額を0として考えるのは違う気がします。 公立幼稚園は税金ではありますが、私立の園の助成金も結局は税金です。市か国か出所が違うだけで税金にかわりはないと思います。</p>	<p>廃園に反対。金銭面について、教諭は廃園になっても市の職員として働くと思うので、金額を0として考えるのは違うのではないかと。私立幼稚園の助成金も結局は税金ではないかと。</p>	<p>廃園により、幼稚園に係る運営費は減額となります。</p>	無	
239-2			<p>昨今、共働きや家族の変化に伴い、保育園を求めている現状も分かります。保育時間の長い保育園への需要が高まっていることも理解はしていますが、幼稚園へ預かり保育を導入するとか、こども園として再起動するなど何らかの形で附属幼稚園を残すことはできないでしょうか。 専業主婦(夫)、または祖父母などが居る家庭、短時間勤務で子どもとの時間を大切にしたい保護者、介護などをしていて働けない方も中にはいらっしゃると思います。そのような家庭のための教育場を1つ奪わないでほしいです。 私の地元では、少子高齢化に伴い、全幼稚園と保育園が統廃合をし、こども園になったと聞いています。幼稚園型や保育園型など詳しいことはわかりませんが、認定子ども園は幼稚園と保育園の型など詳しいことはわかりませんが、認定子ども園は幼稚園と保育園のいいとこどり聞きました。 中途半端な知識で知ったか振りをして恥ずかしいですが、あえて書きます。厚生労働省管轄の保育園、文部科学省の幼稚園。こども庁のことがよくわかりませんが、管轄が違うことで保育指針と教育要領は同じと聞いたことがあります。ただ保育園と幼稚園のイメージは管轄の違いから少なくとも私の中で保育と教育です。そのイメージを利用したいとこどりの印象のこども園は出来ませんか。 午前中は幼稚園、午後からは預かり保育のような保育園を利用できる認定こども園が市立としてあることは、流山市の魅力の一つにもなると思います。</p>	<p>保育時間の長い保育園への需要が高まっていることは理解できるが、幼稚園への預り保育導入やこども園として再起動するなどの形で残すことはできないか。認定こども園が市立としてあることは、流山市の魅力の一つになるのではないかと。</p>	<p>附属幼稚園においては、子育て支援も含めて2・3歳児を対象としたプレ保育に積極的に取り組んできたほか、ホームページを充実させ、毎月、園での生活の様子を発信するなどの取り組みを実施してきましたが、入園を希望する園児の減少が止まらないのが現状です。 附属幼稚園の園児在籍数が減少の一途を辿り、市内の私立幼稚園の定員にも余力のある現状においては、同園の存続やこども園化ではなく、流山市のすべての子どもが格差なく質の高い幼児教育・保育を享受できる環境を整えていくことこそが、喫緊に取り組むべき課題であり、市の責務であると考えています。 附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続させ、公だからこそできる幼児教育に特化した総合的なセンターとして新たな組織を設置するとともに、市内の幼稚園はもとより、保育園(所)における幼児教育・保育の実践を積極的に支援することにより、設置者や施設類型を問わず、本市全体の幼児教育・保育の質の向上と、学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続期、いわゆる架け橋期の教育の充実を図ってまいります。</p>	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	ご意見の要旨	市の考え方	修正の有無	流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針(案) 修正案
239-3			<p>近年多くの認可保育園が増えたように感じています。流山市から保育士に様々な支援制度が用意されています。住宅補助も前はあったように思います。認可保育園の運営費は、補助金で賄われていると聞きました。保育園の運営費や幼稚園の運営費が国から、地方自治体からなど詳しい事情は分かっていませんが、税金にかわりはないと思っています。保育園を増やし過ぎて幼稚園の需要を奪っているとも思います。認可保育園では0歳児1人に対し月20万円以上、5～6歳児も7万円ほどの助成金が出ている。すみませんどこかで聞いたことがあるようなその程度の認識ですが、上乗せして流山市が保育士の確保の為に保育士に別に助成金で優遇しているという理解で宜しいでしょうか。言い方は悪いですが、助成金でかき集めた先生も中にはもしかしたら居らっしゃるかもしれません。その点、公立幼稚園の先生はスキルも経験もある先生たちだと私は思っています。「母になるなら流山市。」とキャッチコピーを掲げ浸透している中で、私立の民間に一任というのは流山市としてはどうなのでしょう。もっと市が積極的に関わる公立の教育機関を、子どもの成長を見守り深めて下さることを望みます。どの子どもも平等に教育・保育が受けれるような環境を作り、より選択肢があり子育てしやすい街にしたいです。附属幼稚園を廃園にするのではなく、さらに発展させる手掛かりにしたいだけだと卒園児の親として非常にうれしく思います。また余計なことですが、おおたかの森値域や開発が進む辺りばかりに重点を置かず前から住んでいる方も多い江戸川台も大事にして下さい。とはいえ私自身がおおたかの森に住んでいます。でも、江戸川台では商店街や道行く年配の方が時々話しかけてくれます。おおたかの森では私個人はそんな地域の繋がりをなかなか持ってないです。そして附属幼稚園がなければおおたかの森だけで事足りるので江戸川台に行くことはなかったです。今でも年に数回幼稚園に顔を出させていただいています、そんな顔を出したくなる園です。流山市全体の活性化の為に園をどうか残してください。江戸川台から子どもの居場所を奪わないで下さい。</p>	<p>保育園を増やし過ぎて幼稚園の需要を奪っているのではないかと。おおたか地域ばかりでなく江戸川台も大事にしてもらいたい。</p>	<p>附属幼稚園を廃園とした場合であっても、幼児教育支援センターは存続します。今後も、地域の皆さまの協力を得ながら、本市全体の幼児教育の発展と質の向上に努めてまいります。</p>	無	